



車いす用電動ユニット

# XMG-1

## 取扱説明書



お使いいただく前に必ず取扱説明書をよくお読みください。

本書は車いす用電動ユニットの取扱説明書です。

安全に快適にご使用いただくために、必ず本製品が装着された電動車いすの取扱説明書と合わせてお読みください。

またいつでも読み返せるように、大切に保管してください。



# 最初にお読みください

---

## はじめに

このたびは、JWG-1をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書は、車いす用電動ユニット『JWG-1』の取扱説明書です。

本製品は、誤った使いかたをした場合、けがをしたり、製品が破損したりするおそれがあります。

本書では、安全で快適に製品をお使いいただくための情報を記載しています。

本製品をご使用される方は、必ず本製品が装着された電動車いすの取扱説明書と合わせてお読みいただき、十分ご理解いただいたうえでご使用ください。

- 本製品は、車いすとしての用途以外には使用しないでください。
- 安全にご使用いただくため、本製品の各所に警告ラベルが貼られています。警告ラベルに示されている内容は、必ずお守りください。
  - ▶ P.12 “警告ラベル配置図”
- 製品の仕様変更により、本書の内容が実際にお使いの製品と異なる場合がありますのでご了承ください。
  - ・以降「本製品」は車いす用電動ユニット JWG-1を表します。
  - ・以降「車いす」は本製品が装着された電動車いすを表します。

---

## 個人情報の取扱い

- ディーラーや販売店等が、ヤマハ発動機株式会社（当社）が提供するメンテナンスアプリを經由して取得した故障情報等は、修理のために場合によって当社に共有されることがあります。取得した際の個人情報の取扱いについては、当社ウェブサイトのプライバシー・ポリシー (<https://global.yamahamotor.com/jp/privacy/jp/>) をご確認ください。



Bluetooth®のワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

---

## 説明書の構成

- 本書は、車いす用電動ユニット各部の取り扱い、操作、点検、保管、運搬、トラブルに対する対処や仕様諸元など本製品を取り扱うための情報を記載しています。
- 本製品が装着された車いすの取扱いについては、車いすの取扱説明書をご覧ください。

# 本書のみかた



安全にかかわる注意情報を示してあります。



取り扱いを誤った場合、死亡、重傷、又は傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。

## 注意

取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

## 要点

正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。



安全上してはいけない「禁止」内容を意味しています。

## OP

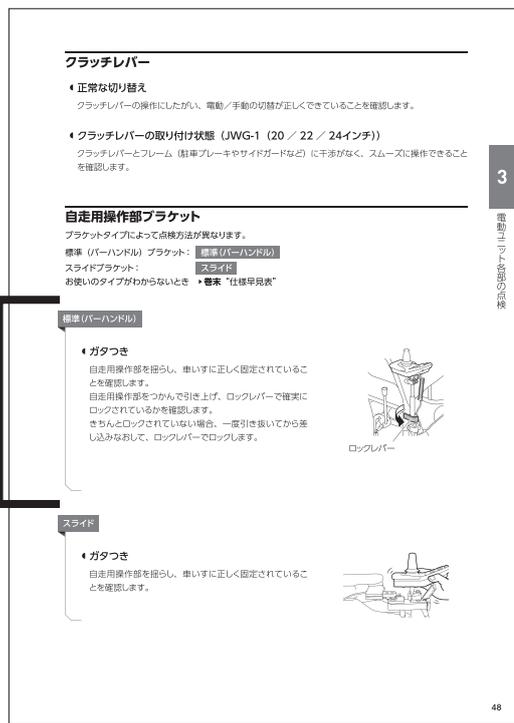
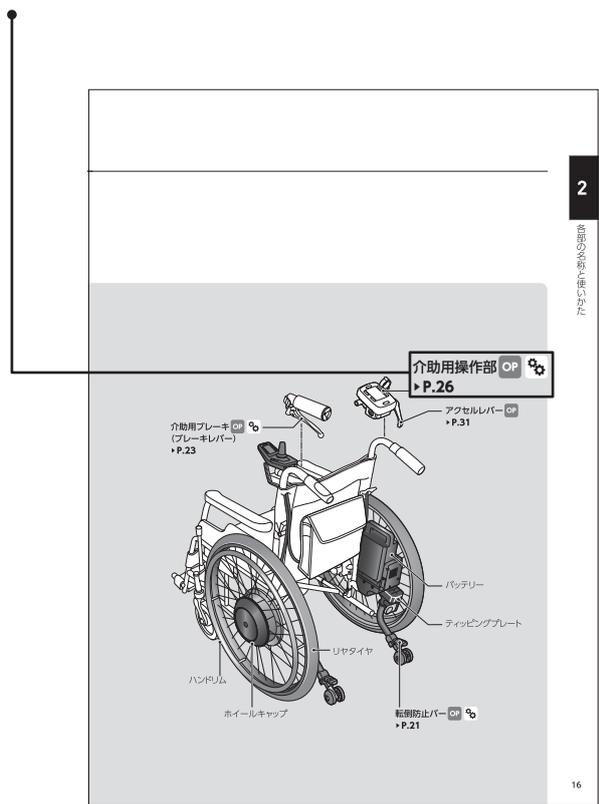
別売部品です。



位置や角度を調整できる部品を示します。

## 標準 (バーハンドル)

お使いの製品や装備によって説明内容が異なることを示します。

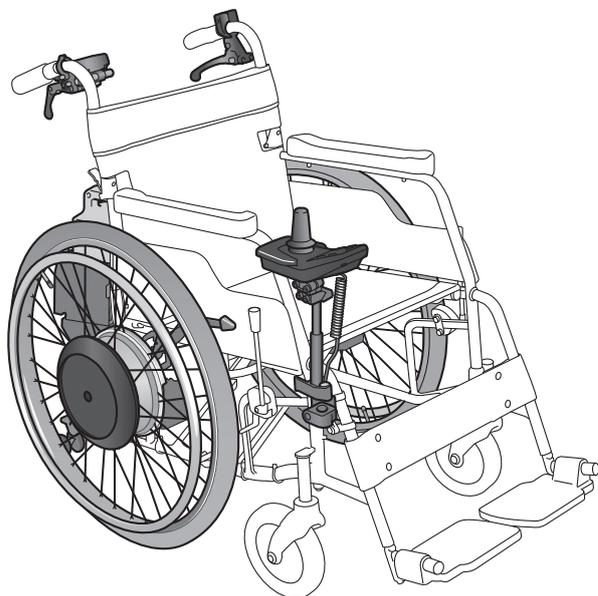


下記のイラストで、お使いの製品をご確認ください。

本書内のイラストは、JWG-1（20 / 22 / 24インチ）を基本として表現しています。仕様や16インチタイプを装着した部位の違いなどにより、実際にお使いの製品と異なる場合があります。ご了承ください。

---

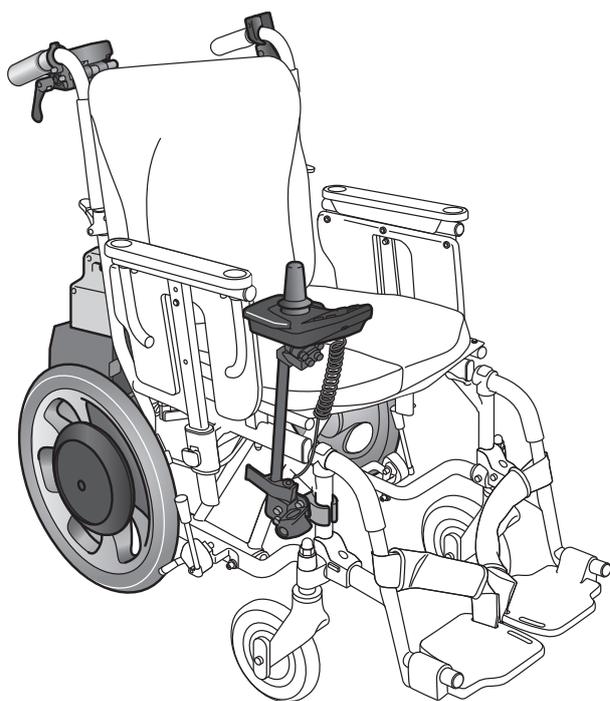
## 車いす用電動ユニット『JWG-1（20 / 22 / 24インチ）』



JWG-1のユニット耐荷重（乗員、荷物、フレーム重量を含む）は160kgです。

---

## 車いす用電動ユニット『JWG-1（16インチ）』



JWG-1のユニット耐荷重（乗員、荷物、フレーム重量を含む）は160kgです。

# もくじ

## 最初にお読みください

- はじめに i
- 個人情報の取扱い i
- 説明書の構成 i
- 本書のみかた ii

## 1 本製品の使用にあたって 1

- 運転適正チェック 10
- 介助適正チェック  
(別売の介助用操作部装備者向け) 11
- 警告ラベル配置図 12

## 2 各部の名称と使いかた 15



- JWG-1 (20 / 22 / 24インチ) 15
- JWG-1 (16インチ) 17  
リチウムイオンバッテリー [型式: JWB3] 19  
充電器・クレイドル [型式: JWC4] 20

- 自走用操作部 24
- 介助用操作部 26

## 3 電動ユニット各部の点検 41

- JWG-1 (20 / 22 / 24インチ) 41
- JWG-1 (16インチ) 43

## 4 車いすの運転 51

- 車いすに乗り移る準備 56
- 車いすに乗り移る 58
- 運転前のチェック 60
- 車いすを運転する 62
- 運転の練習 65
- 車いすから降りる 67

## 5 介助者による運転 69

- 車いすへの乗り移りの準備 72
- 車いすへの乗り移り 75
- 運転前のチェック 76
- 車いすの運転 78
- 運転の基本 81
- 車いすからの降車 82

## 本製品の特長

手動車いすの取り回しの良さと電動車いすの走行性を併せ持ち、お使いの環境に合わせた設定や仕様を選ぶことができます。



▶P.22  
クラッチレバー



▶P.115  
走行パラメーター

- |           |                              |  |
|-----------|------------------------------|--|
| <b>6</b>  | <b>バッテリーと充電器の取り扱いについて 83</b> | <ul style="list-style-type: none"><li>■ バッテリーの着脱 87</li><li>■ リチウムイオンバッテリー (型式: JWB3) 91</li></ul>   |
| <b>7</b>  | <b>運搬、手入れ、保管 105</b>         | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 自動車などへの積載 106</li><li>■ 航空機での取り扱い 108</li><li>■ 車いすのお手入れ 109</li><li>■ 車いすの保管 110</li></ul>                      |
| <b>8</b>  | <b>寸法、仕様諸元 113</b>           | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 寸法 (単位: mm) 113</li><li>■ 仕様諸元 114</li></ul>   |
| <b>9</b>  | <b>こんなときは 115</b>            | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 設定変更 115</li><li>■ 故障と思ったら 117</li><li>■ よくある質問 125</li><li>■ 車いす、バッテリーの処分 127</li><li>■ お問い合わせと保証 127</li></ul> |
| <b>10</b> | <b>定期点検のすすめ 129</b>          | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 仕様早見表 巻末</li></ul>   |

# 1 本製品の使用にあたって

本書は車いす用電動ユニットの取扱説明書です。

必ず本製品が装着された車いすの取扱説明書と合わせてお読みいただき、十分ご理解いただいたうえでご使用ください。

この章では、車いす用電動ユニットを使用するにあたってご理解いただく必要のある警告情報を記載しています。

車いすに乗る人だけでなく、介助者も警告情報を正しくご理解ください。

## 本製品の使用にあたって

### 警告

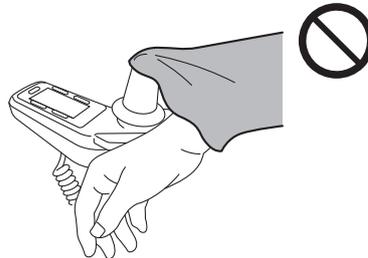
- 車いすを使用する前に、必ず介助者がどうか適性を判断する。  
また、介助者がどうかは理学療法士、作業療法士など専門家の意見を参考に判断する。  
誤った判断をすると、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。
- 操作に慣れるまでは、介助者の同伴のもと、平坦で安全な場所で運転の練習をする。  
不慣れな状態で道路に出ると、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。
- 車いすをぶついたり、壁などでこすったりしたときは、傷やささくれなどがないことを確認する。  
傷やささくれなどに触れたときに、ご自身がけがをするおそれがあります。
- 本製品を改造しない。  
改造すると安全性を損なったり、性能が低下したりする場合があります。
- 体調が悪い場合や、お酒や眠くなる薬を飲んだときは、使用しない。  
ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。
- 下記のような服装で車いすを運転をしない。

不適切な服装で運転すると、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

丈の長いマフラー



袖口の広い服



## 注意

- ご自身で解決できない不具合（「故障と思ったら」の対処方法で解決できない故障など）が発生する場合は車いすの使用を止め、販売店に相談する。

電動ユニットの破損や走行中に車いすが止まるおそれがあります。

## 危険が生じやすい路面

### 警告

- 緊急時は、介助者がクラッチレバーを手動側または手押側にして安全な場所に移動させる。

- 下記のような環境や場所では、介助者が同行する。

単独での走行は、けがをするおそれがあります。

- あらかじめ日常よく使うルートに、下記のような危険がないか確認する。

危険な箇所がある場合は、危険な箇所を避けてルートを選択してください。

#### ● 砂利道や泥道

キャスターやリヤタイヤが埋まり、身動きがとれなくなるおそれがあります。



#### ● 側溝や下水溝のフタ

すき間がある場合は、キャスターやリヤタイヤを落とすおそれがあります。



#### ● 雪・水たまりのある道路

- ・ スリップして車いすのコントロールができなくなったり、ブレーキが効かなくなったりするおそれがあります。
- ・ 駆動部が水に浸かると停止するおそれがあります。



#### ● 大きなくぼみ

道路のくぼみ、車出入り用スロープなどによる歩道のくぼみは、避けてください。そのまま走行すると転倒するおそれがあります。やむを得ず走行しなくてはならない場合は、介助者が同行して、安全を確認し走行してください。



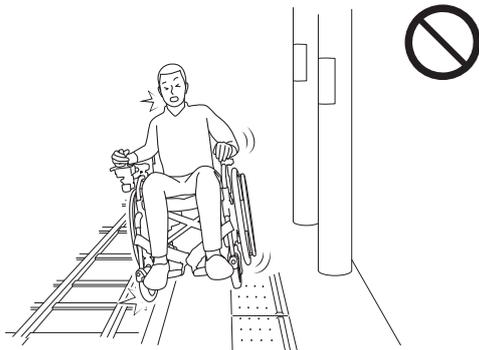
# 危険が生じやすい環境

## 警告

- 緊急時は、介助者がクラッチレバーを手動側または手押側にして安全な場所に移動させる。
- 下記のような環境や場所では、介助者が同行するか、駅やバスの停留所などでは係員に声をかける。  
単独での走行は、けがをするおそれがあります。
- あらかじめ日常よく使うルートに、下記のような危険がないか確認する。  
危険な箇所がある場合は、危険な箇所を避けてルートを選択してください。

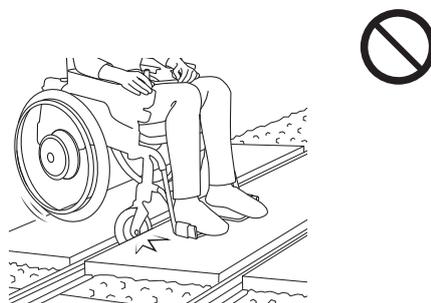
### ● 駅のプラットフォーム

線路に転落するおそれがあります。



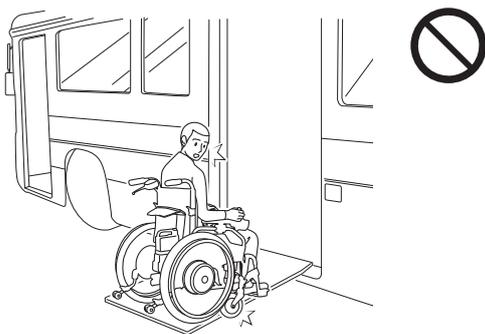
### ● 踏切や路面電車の線路

線路のすき間に車輪を落とすおそれがあります。



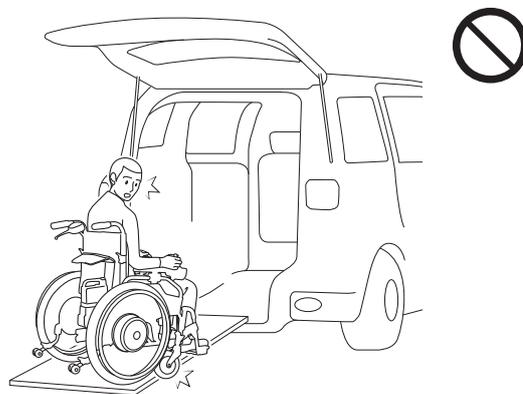
### ● バス・電車の乗降

スロープから脱輪したり、プラットフォームと電車のすき間に車輪を落とすおそれがあります。



### ● リフト付車両への乗降

スロープから脱輪するおそれがあります。



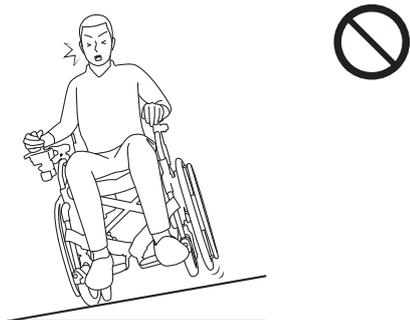
## 警告

### ● 不慣れな坂道の上下り

不慣れな坂道や初めての坂道では、介助者が同行して、安全を確認する。

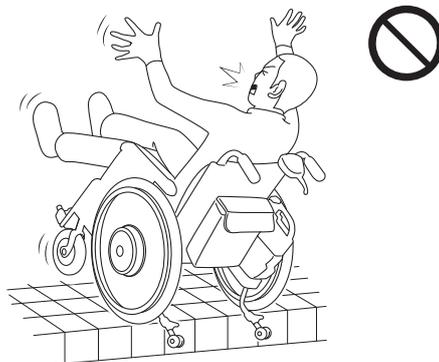
### ● 車いすが左右に大きく傾く場所

車いすが横に倒れるおそれがあります。



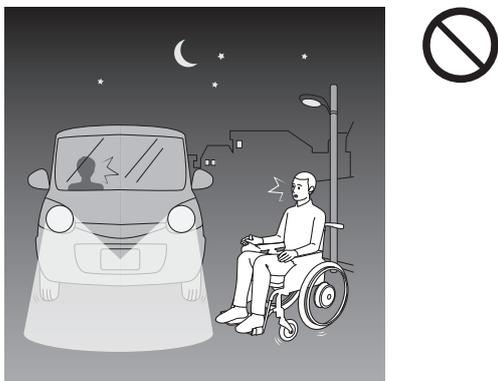
### ● 段差の上下り

- ・周りの状況を常に注意し、安全を確認してください。
- ・初めて上下りする段差は介助者が同行して、安全を確認してください。



### ● 夜間の走行

- ・路面状態がわからず転倒や衝突するおそれがあります。
- ・周りの人や車から認識されずに衝突されるおそれがあります。



### ● 柵がない歩道

車いすが車道側に落ちるおそれがあります。



### ● 不慣れな道路の横断

- ・特に信号機のない横断歩道では、交通状況に十分注意して渡ってください。
- ・信号機のある横断歩道でも、広い道路では横断中に信号が変わるおそれがあります。余裕を持ち、信号が次の青に変わるまで待ってから渡ってください。
- ・狭い車道を走行することは大変危険です。できるだけ安全な道を選択してください。
- ・バッテリー残量が少ない場合は、横断中にバッテリー切れになり動かなくなるおそれがあります。横断前にバッテリー残量を確認してください。

### ● 強い電波を発生させる設備の近く

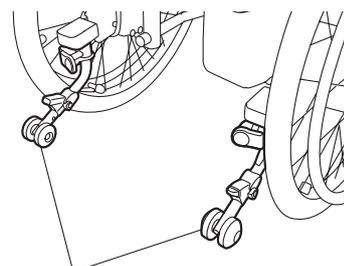
電動ユニットが故障したり、誤作動を起こしたりするおそれがあります。

## 転倒防止バーの取り扱い

### 警告

- 走行前に必ず転倒防止バーを出して、ロックされた状態にする。

転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行すると、転倒するおそれがあります。



転倒防止バー

- バスやタクシー、電車などから降りたときは、必ず転倒防止バーが出ていることを確認してから車いすに乗る。

転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行すると、車いすが転倒するおそれがあります。

## クラッチレバーの取り扱い

### 警告

- 傾斜のある場所では、クラッチレバーを手動側または手押側に切り替えない。

不意に車いすが動き出して、衝突や転倒のおそれがあります。

- 車いすが動いているときは、クラッチレバーを操作しない。

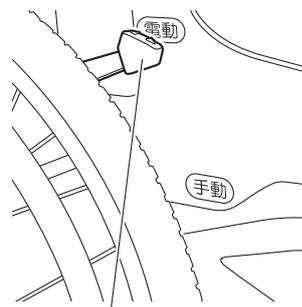
衝突や転倒のおそれがあります。

- 電動走行中に、クラッチレバーを手動側または手押側に切り替えない。

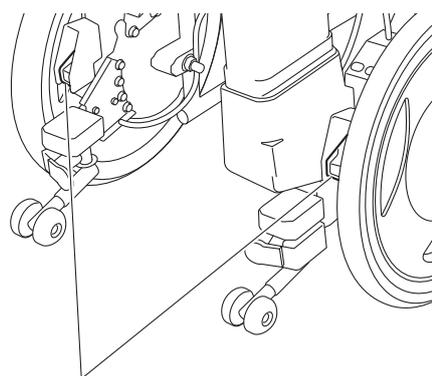
モーターによるブレーキ効果がなくなります。特に坂道では車いすが暴走するおそれがあります。

- 手動走行中に、クラッチレバーを電動側に切り替えない。

リヤタイヤにブレーキがかかり、反動で体が前方に投げ出されたり、ご自身や周囲の人がけがをしたり、車いすが壊れたりするおそれがあります。



クラッチレバー



クラッチレバー

## 運転中に守るべきこと

### 警告

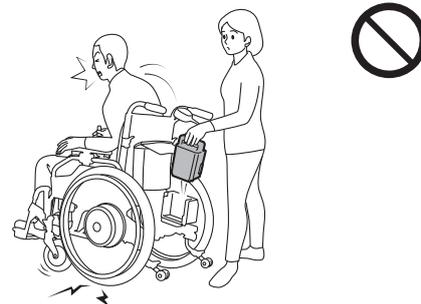
- 携帯電話やスマートフォンなどを使用するときは、安全な場所に停止して車いすの電源を切る。

携帯電話やスマートフォンを使用しながら運転すると、事故の原因となるおそれがあります。



- 走行中にバッテリーを抜かない。

リヤタイヤにブレーキがかかり、反動で体が前方に投げ出されたり、ご自身や周囲の人がけがをしたり、車いすが壊れたりするおそれがあります。



- 走行中に電源を切らない。

リヤタイヤにブレーキがかかり、反動で体が前方に投げ出されたり、ご自身や周囲の人がけがをしたり、車いすが壊れたりするおそれがあります。



- USB電源ポートにUSB機器を接続したまま走行しない。

障害物に衝突したときにUSB電源ポートに力が加わり、自走用操作部が破損するおそれがあります。  
接続したUSB機器のケーブルがジョイスティックやクラッチレバー、リヤタイヤなどに巻きつき、事故の原因となるおそれがあります。



## 荷物について

### 警告

- **アームサポートやサイドガードへ物をかけない。**

物がリヤタイヤに干渉するとリヤタイヤがロックして、衝突や転倒のおそれがあります。

物がクラッチレバーに干渉すると、不意にクラッチレバーが手動側または手押側に切り替わり、衝突や転倒のおそれがあります。



- **自走用操作部のジョイスティックに物をかけない。**

物の重さで手を放してもジョイスティックが戻らず、車いすが停止しなかったり、操作の邪魔になったりするおそれがあります。



- **自走用操作部のジョイスティックに輪ゴムをかけない。**

輪ゴムが自走用操作部の中に入り込むと、ジョイスティックが戻らず、車いすが停止しないおそれがあります。

## その他注意が必要な場面

### 警告

- **混雑した場所で車いすを運転するときは、周りに十分注意する。**

人や物にぶつかり、反動で体が前方に投げ出されたり、ご自身や周囲の人がけがをしたり、車いすが壊れたりするおそれがあります。

- **混雑した場所で停止したときは、必ず電源を切る。**

周りの人の手や腕がジョイスティックに接触して、不意に車いすが動き出して、周囲の人がけがをするおそれがあります。

- **凍結した場所で車いすを走行させない。**

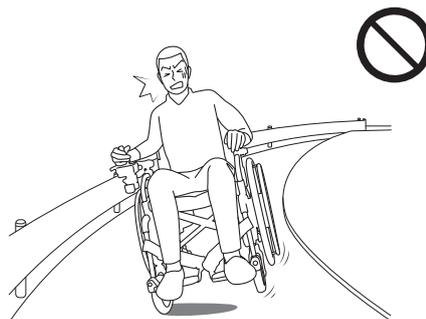
車いすをコントロールできなくなったり、ブレーキが効かなくなったりするおそれがあります。



**警告**

● **下り坂で急に曲がらない。**

バランスを崩しやすく、車いすが転倒するおそれがあります。



● **急な下り坂で横断や斜め走行をしない。**

バランスを崩しやすく、車いすが転倒するおそれがあります。

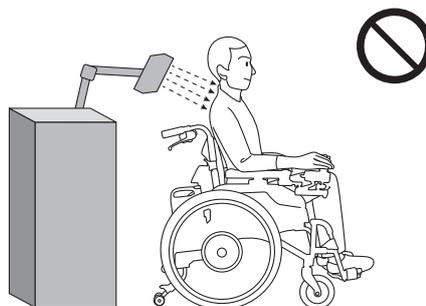
● **垣根や樹木の脇を走行するときは、枝などがリヤタイヤと接触しないように十分な距離をあけて走行する。**

電動走行中に垣根や樹木の枝などがリヤタイヤに巻き込まれた場合、リヤタイヤがロックしたり、クラッチレバーが手動側または手押側に切り替わり、衝突や転倒のおそれがあります。

● **車いすに乗ったまま、マイクロ波温熱治療を受けない。**

電磁波によって電動ユニットが故障したり、誤作動を起こしたり、金属部が発熱してやけどしたりするおそれがあります。

電動ユニットは電源を切り、マイクロ波治療器から離れた場所に置いてください。



## 介助操作を行なう際に



警告

- クラッチレバーを手動側または手押側にするときは、平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、電源を切る。

不意に車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

- 段差や障害物を上り下りするときは、介助用操作部の電源を切り、手動操作で上り下りする。

電動操作で上り下りすると、バランスを崩して車いすが転倒するおそれがあります。

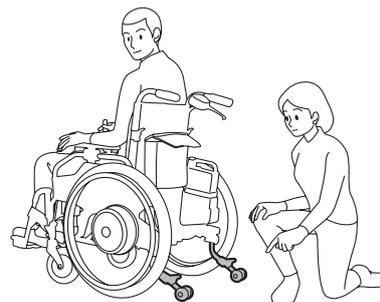


- 段差を乗り越えたあとは、必ず転倒防止バーを元の位置に戻して、ロックされた状態にする。

段差の高さによっては、転倒防止バーを一時的に折りたたんで乗り越える場合があります。しかし、そのまま転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行すると、車いすが転倒するおそれがあります。

- 走行前に必ず転倒防止バーを出して、ロックされた状態にする。

転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行すると、転倒するおそれがあります。



# 運転適正チェック

障がいの程度や身体の具合によっては、ひとりで運転することが危険な場合があります。この適正チェックをご利用いただき、本製品が装着された車いすをひとりで安全に扱えるかどうかの判断の目安にしてください。

## 警告

- 車いすを運転する前に、必ず介助者が必要かどうか適性を判断する。  
また、介助者が必要かどうかは理学療法士、作業療法士など専門家の意見を参考に判断する。  
誤った判断をすると、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

### チェック1

- (1) 自走用操作部のボタンの操作ができますか？
- (2) ジョイスティックを前後左右に動かして車いすを思ったとおりに動かし、停止したいときにジョイスティックを中央に戻すことができますか？
- (3) 路面や周囲の状況を正しく理解し、危険な場所を避けることができますか？



すべて  
できる

1つでも  
不安がある

介助者に介助操作をしてもらって  
車いすをお使いください。

### チェック2

- (1) 駐車ブレーキやクラッチレバーの操作ができますか？
- (2) ひとりで車いすの乗り降りができますか？
- (3) バッテリーの着脱ができますか？

すべて  
できる

1つでも  
不安がある

介助者に同行してもらって  
ください。

ひとりで運転することは可能です。安全のために慎重な運転を心がけてください。  
注意が必要な場所では必ず介助者に同行してもらい、安全に十分配慮して運転してください。

▶P.2 “危険が生じやすい路面”、▶P.3 “危険が生じやすい環境”

# 介助適正チェック (別売の介助用操作部装備者向け)

別売部品の介助用操作部を装着している場合は、車いすに乗る人だけでなく、介助操作をする方も本製品が装着された車いすを安全に扱えるかどうかの判断の目安として、適正チェックをご利用ください。

## 警告

- **介助者が同行・操作するときは、必ず介助者の適性を判断する。**  
また、介助者の適性判断は理学療法士、作業療法士など専門家の意見を参考にする。

誤った判断をすると、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

- **介助操作の適性がない人は、介助操作しない。**

ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

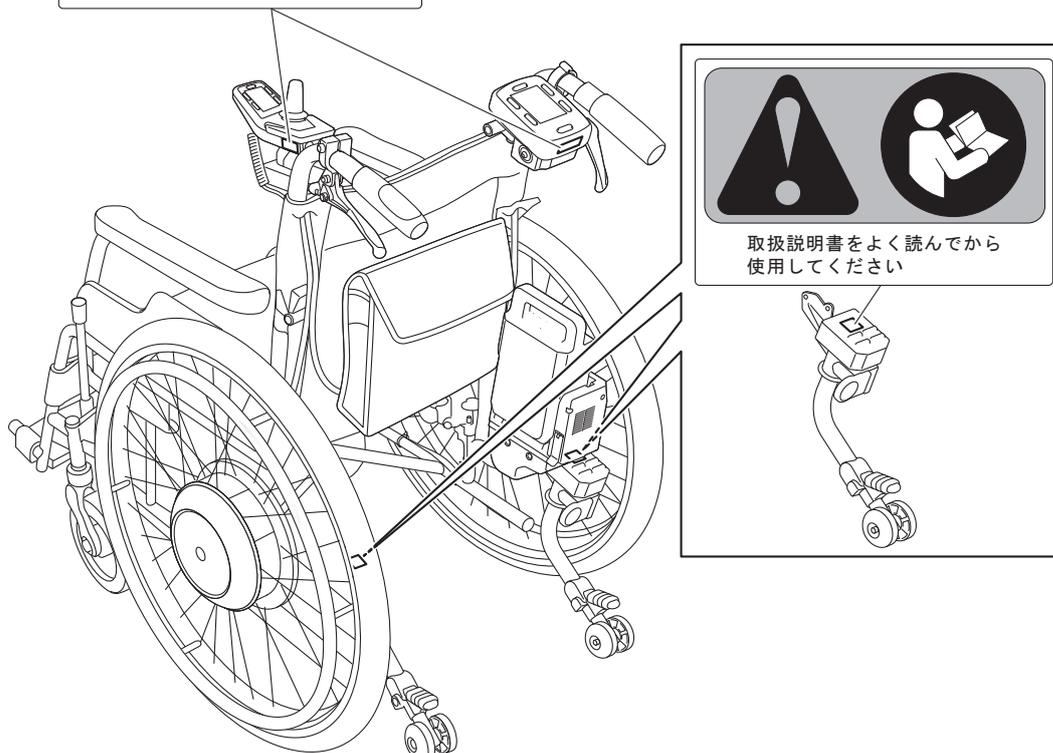
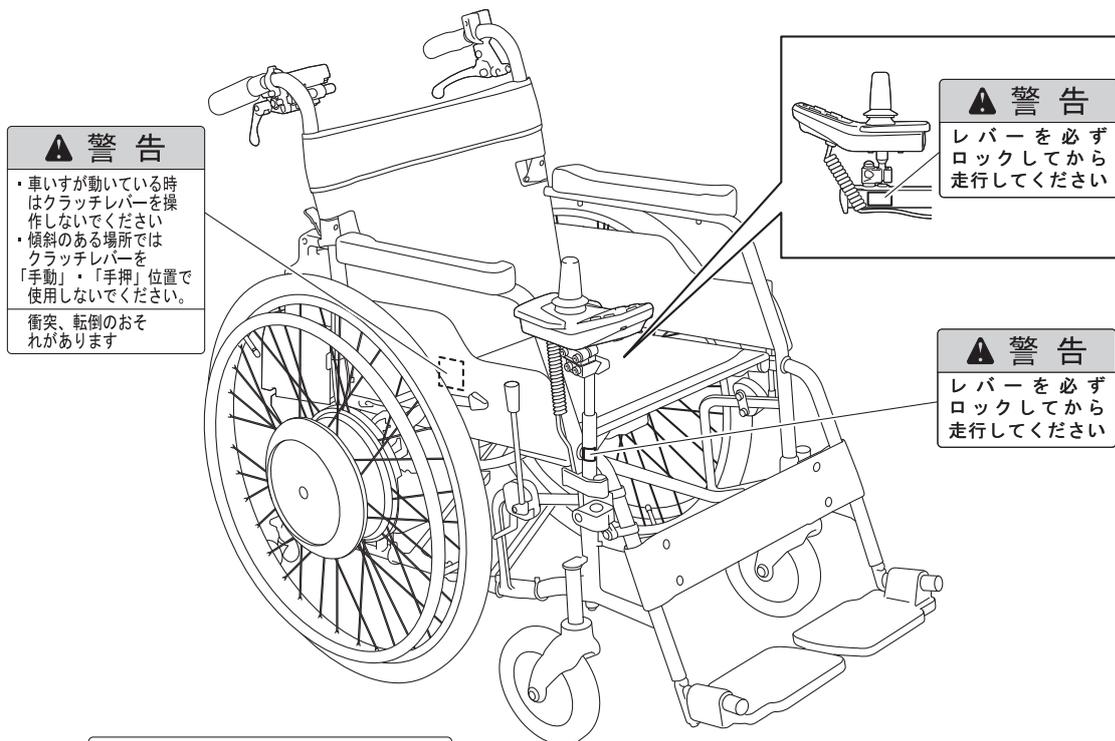
## チェック

下記の項目のうち1つでも不安がある場合は、介助操作をしないでください。

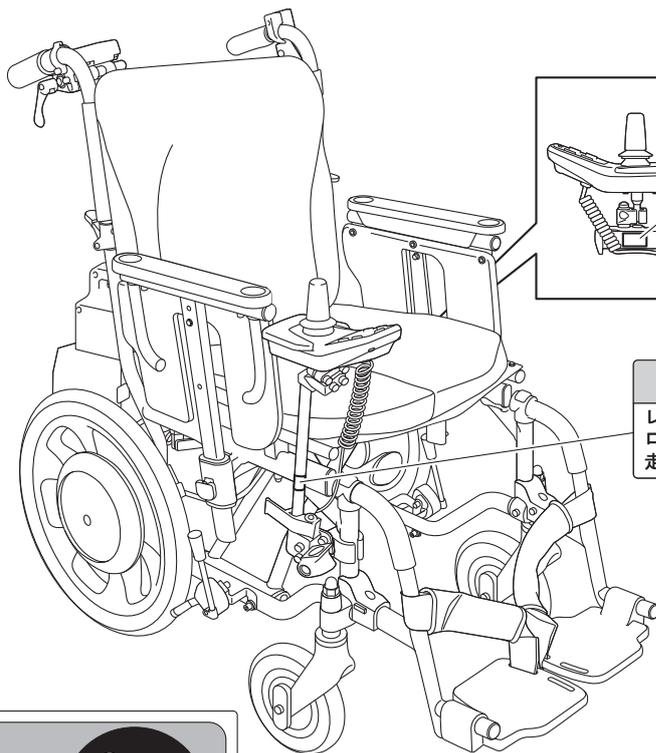
- (1) 路面や周囲の状況を正しく理解し、危険な場所を避けることができますか？
- (2) 車いすの乗り降りの補助ができますか？
- (3) バッテリーの着脱ができますか？
- (4) 手動での介助操作ができますか？

# 警告ラベル配置図

●車いす全体 (20 / 22 / 24インチ)



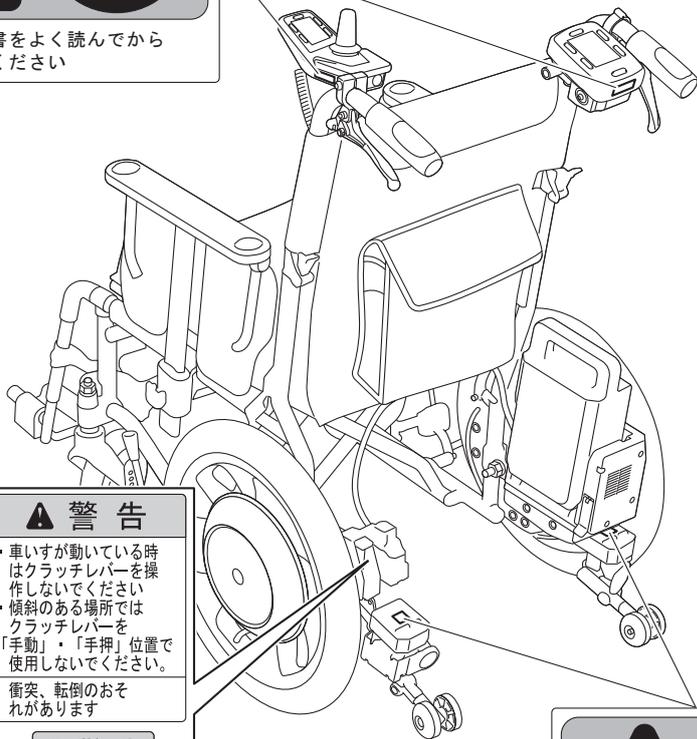
● 車いす全体 (16インチ)



**警告**  
レバーを必ず  
ロックしてから  
走行してください

**警告**  
レバーを必ず  
ロックしてから  
走行してください

取扱説明書をよく読んでから  
使用してください



**警告**  
・車いすが動いている時  
はクラッチレバーを操  
作しないでください  
・傾斜のある場所では  
クラッチレバーを  
「手動」・「手押」位置で  
使用しないでください。  
衝突、転倒のおそ  
れがあります

**警告**  
バッテリー  
を装着した  
状態でコネ  
クタの抜き  
は行わない  
で下さい。

取扱説明書をよく読んでから  
使用してください



## 2 各部の名称と使いかた

この章では、本製品を構成する部品の名称と、機能、取り扱いかたを説明します。  
下記イラスト内で示された部品についての詳細は、個別の説明ページへお進みください。

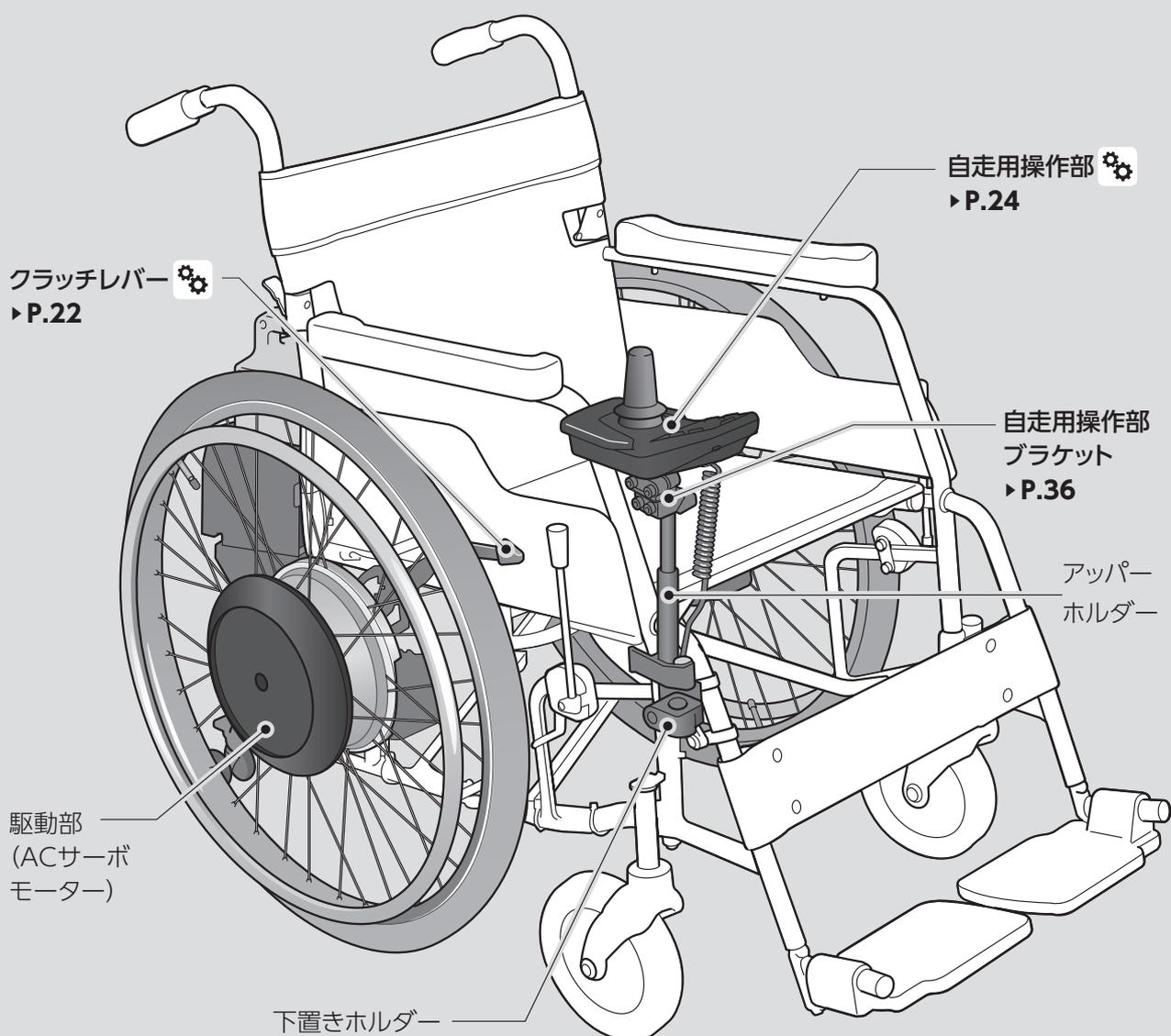
### JWG-1 (20 / 22 / 24インチ)

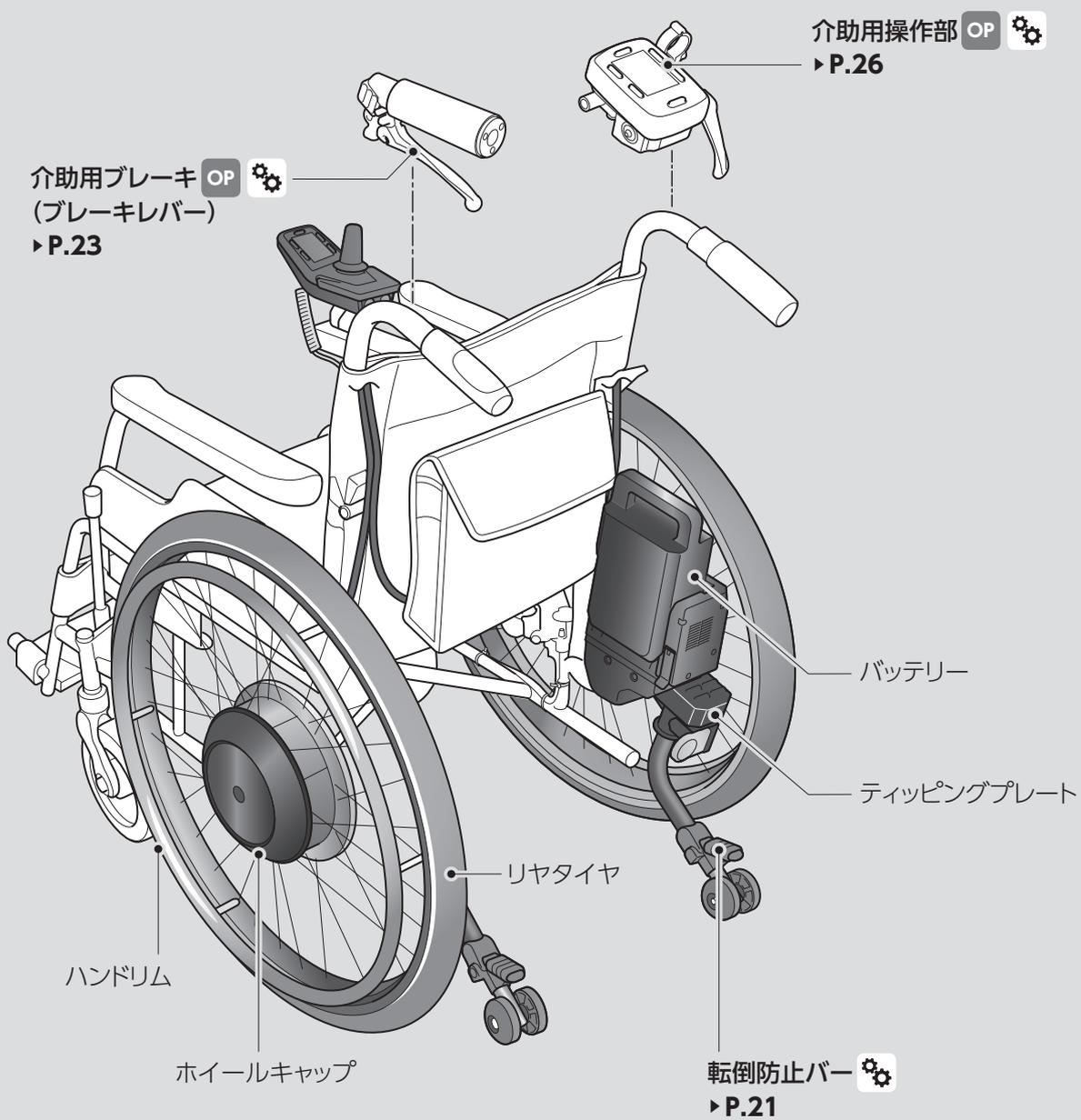


位置や角度を調整できる  
部品です。

OP

別売部品です。





この章では、本製品を構成する部品の名称と、機能、取り扱い方を説明します。  
下記イラスト内で示された部品についての詳細は、個別の説明ページへお進みください。

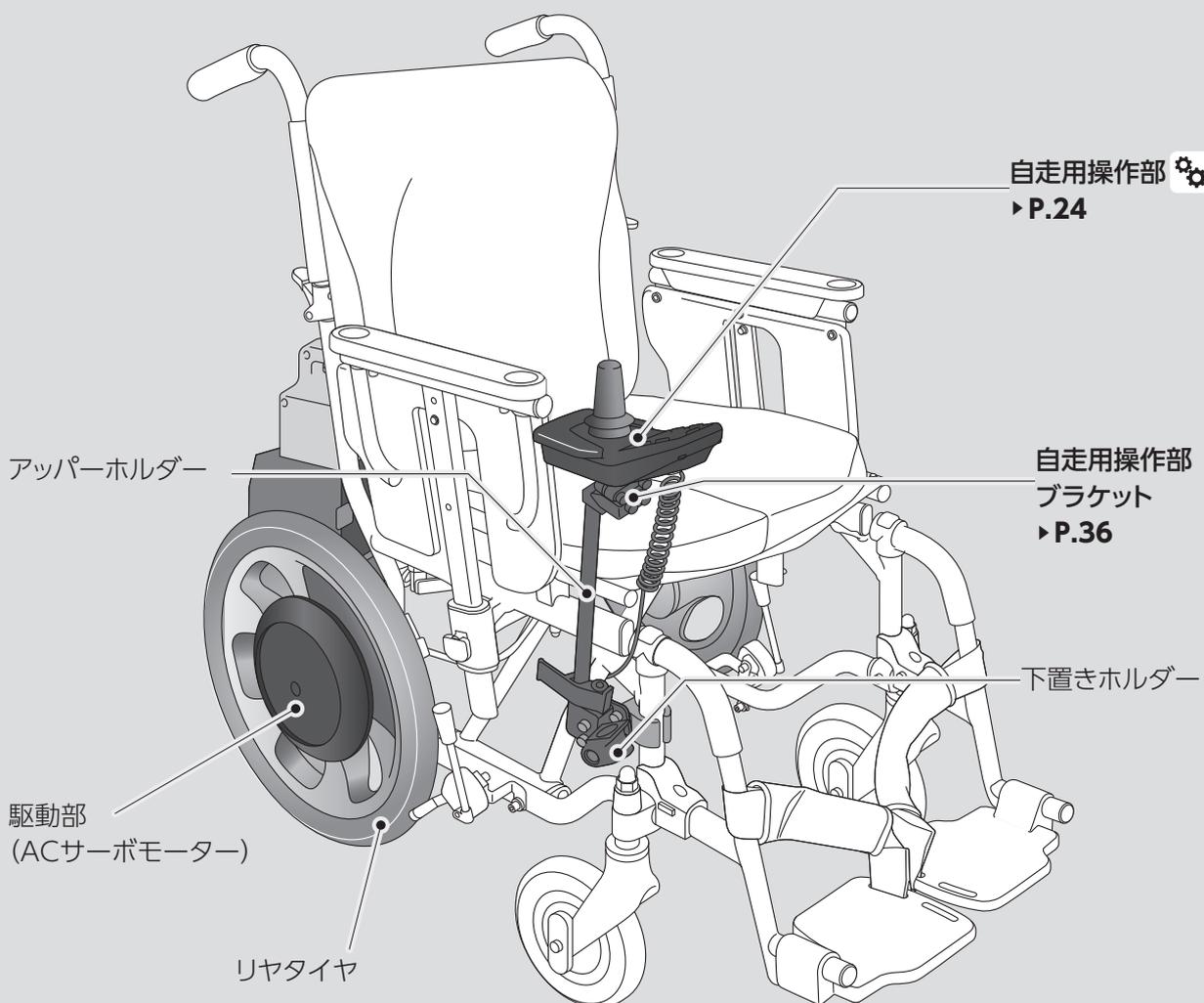
# JWG-1 (16インチ)

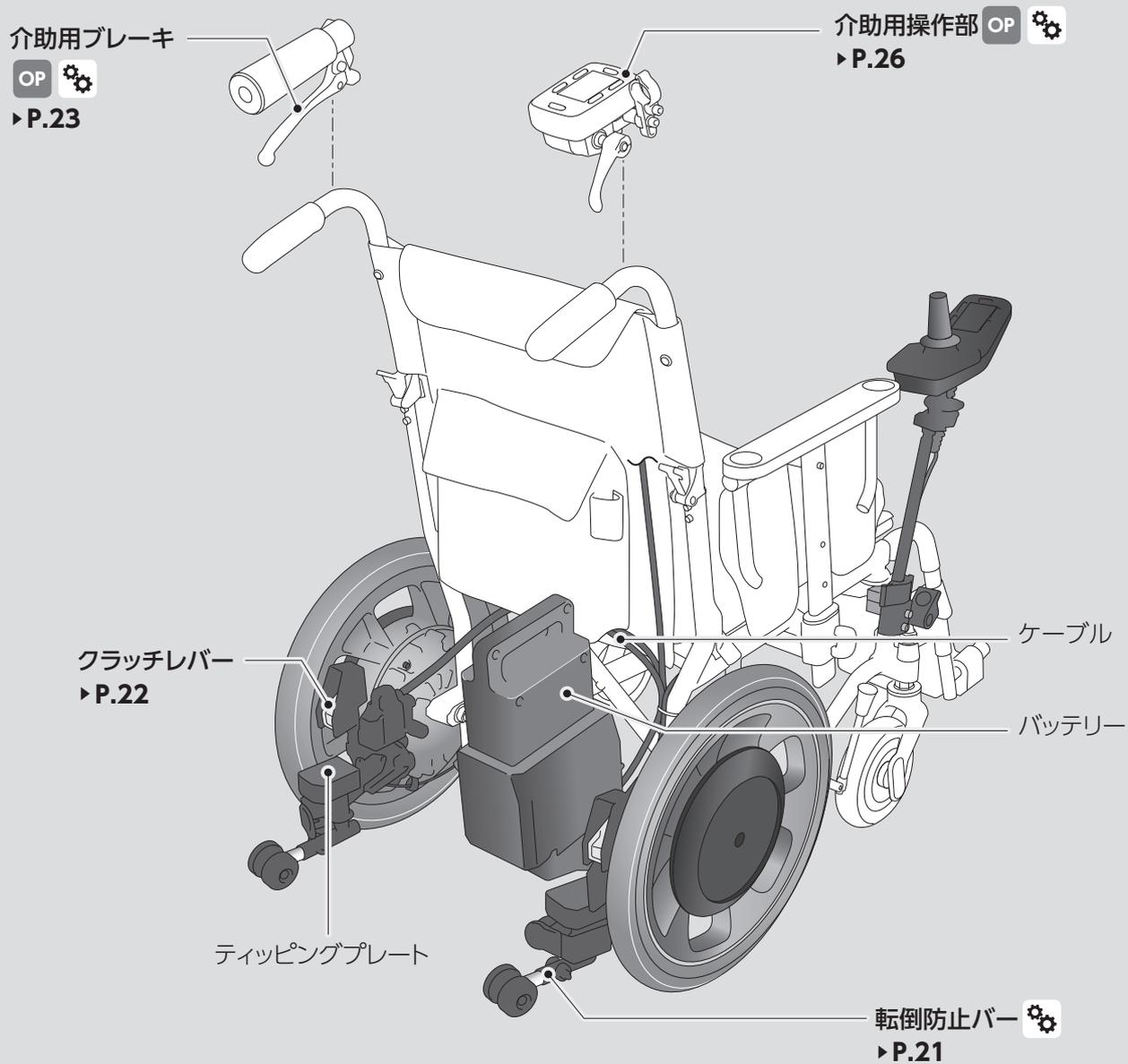


位置や角度を調整できる  
部品です。

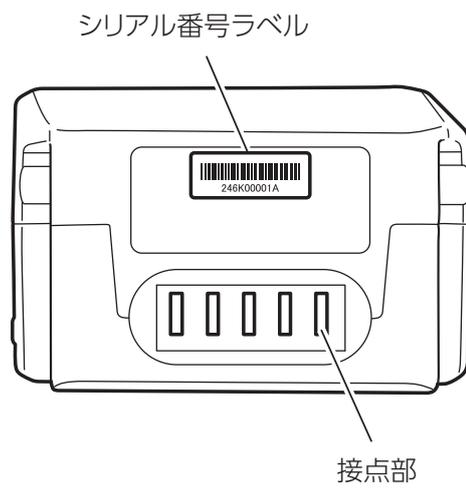
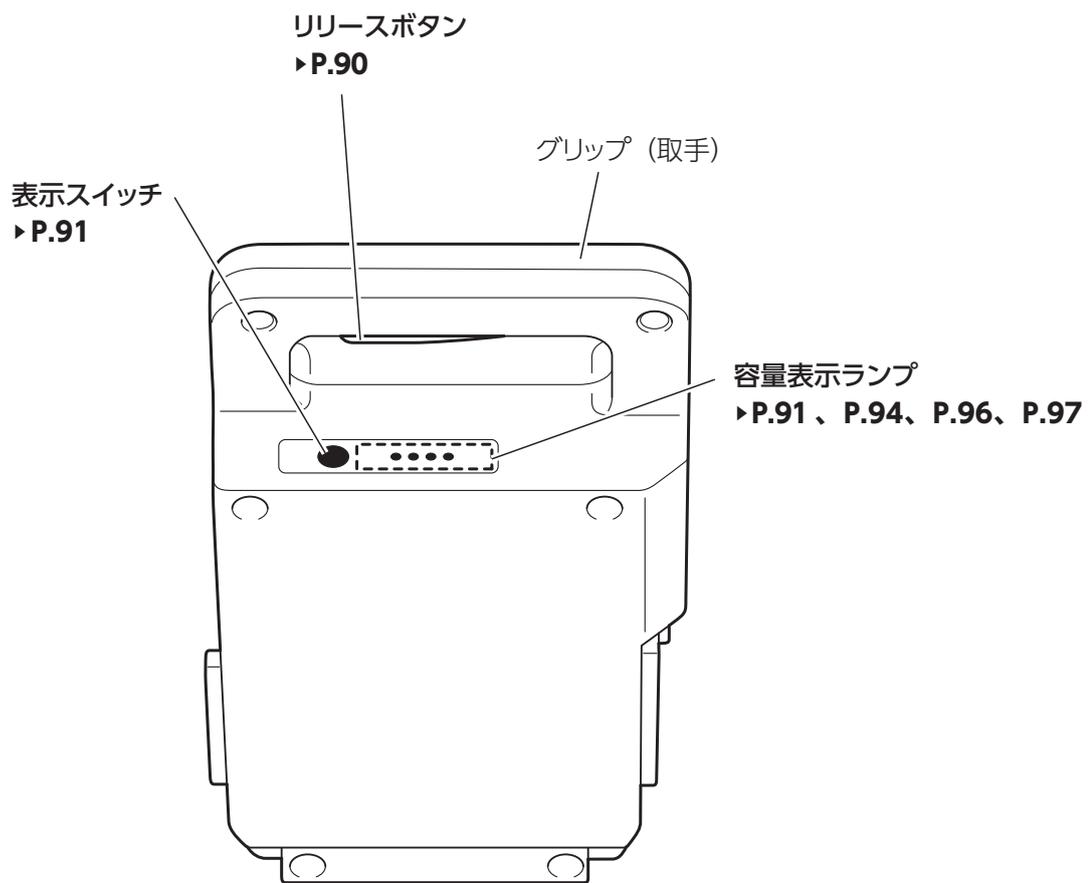
OP

別売部品です。

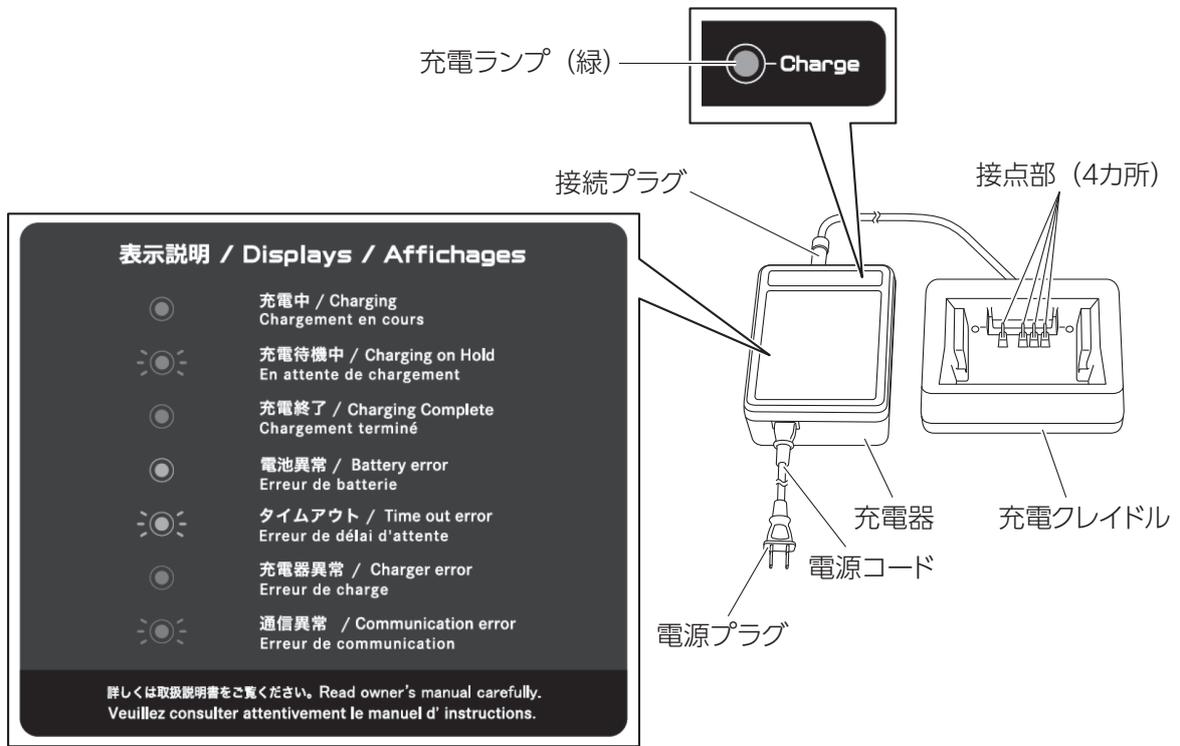




# リチウムイオンバッテリー〔型式：JWB3〕



# 充電器・クレイドル (型式: JWC4)



## 転倒防止バー

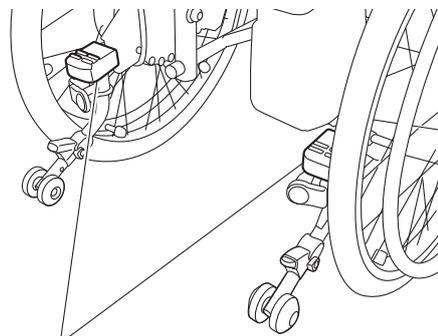
車いすの後方への転倒を防ぎます。

段差を乗り越えるときなどやむを得ない場合は、転倒防止バーを折りたたむことができます。

### 警告

- 転倒防止バーのティッピングプレートに乗らない。

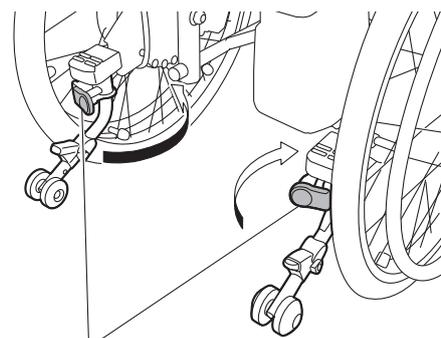
バランスを崩して、転倒するおそれがあります。



ティッピングプレート

## 折りたたみかた・出しかた

- 1 ロックレバーを押し込むと、転倒防止バーが内側に回転して折りたたまれます。



ロックレバー

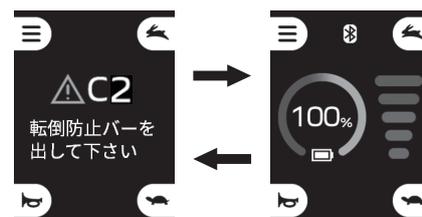
- 2 転倒防止バーを元の位置に戻すと、「カチッ」と音がしてロックされます。
- 3 転倒防止バーを左右に揺らし、確実にロックされていることを確認してください。

## 転倒防止バー出し忘れお知らせ機能

どちらか片方でも転倒防止バーがロックされていない場合、液晶画面に『C2』または『C3』が表示されます。同時に「ピーピー」という断続音が鳴ります。転倒防止バーが両方ロックされると、ブザーが止まって液晶表示が通常画面に戻ります。

C2：停止中の転倒防止バー出し忘れ

C3：走行中の転倒防止バー出し忘れ



## クラッチレバー（20 / 22 / 24インチ）

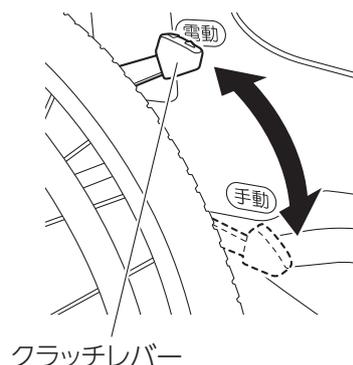
電動走行と手動走行を切り替えます。

### ●『電動』

電動走行ができます。走行していないときは、電磁ブレーキがかかります。

### ●『手動』

クラッチが解除され、手動走行ができます。ハンドリムで運転するとき、または介助者が手押しハンドルで運転するとき以外は、クラッチレバーは電動側にしてください。



クラッチレバー

## クラッチレバーの位置調整

クラッチレバーの左右位置、取り付け角度は変更できません。

変更する場合は取扱店にご相談ください。

## クラッチレバー（16インチ）

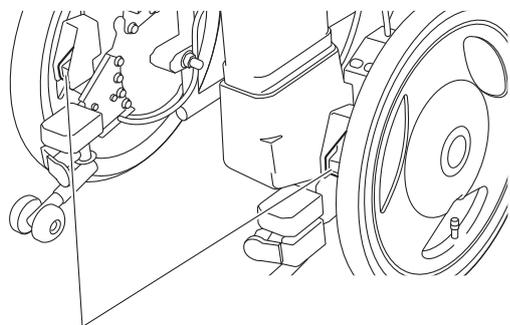
左右の電動ユニットにそれぞれ装備されており、電動走行と手押し走行を切り替えます。手押しで車いすを動かすとき以外は、クラッチレバーを両方電動側にして使用してください。

### ●『電動』

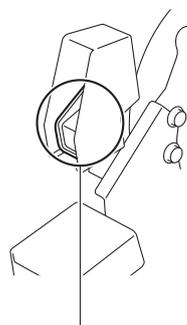
ジョイスティック、または介助用操作部の操作による電動走行ができます。操作をしていないときは、リヤタイヤに電磁ブレーキが働きます。

### ●『手押し』

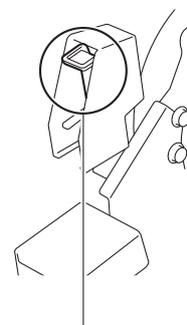
クラッチが解除され、手押しで車いすを動かすことができるようになります。



クラッチレバー



『電動』

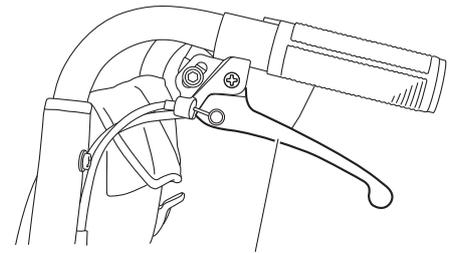


『手押し』

---

## 介助用ブレーキ（別売）

手動で介助操作をしているときに、リヤタイヤにブレーキをかけます。



ブレーキレバー

---

### 介助用ブレーキの位置調整

介助用ブレーキの左右位置は変更できます。  
変更する場合は取扱店にご相談ください。

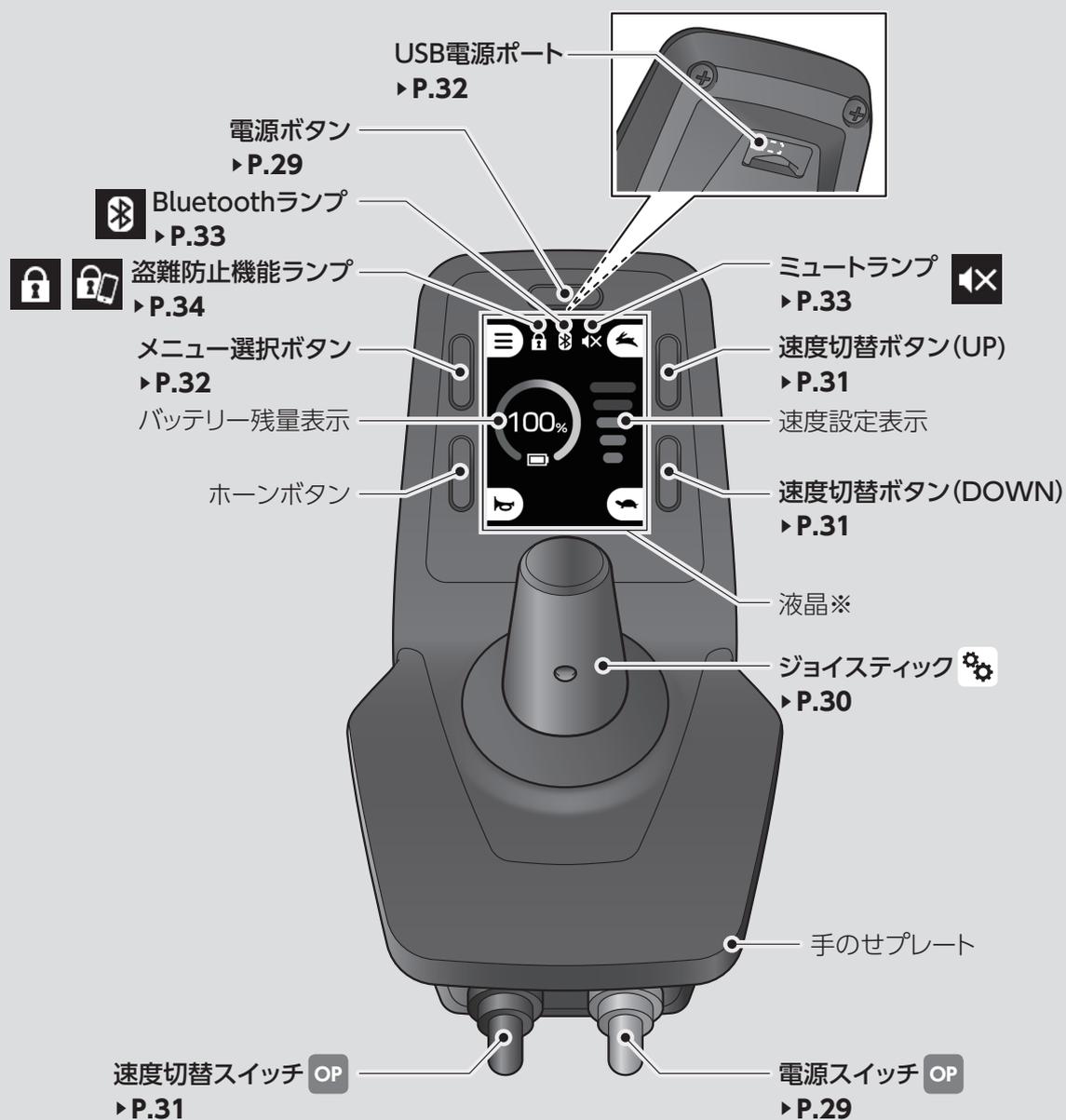
# 自走用操作部

## ホーム画面

表示画面によって、ボタンの役割が変わります。



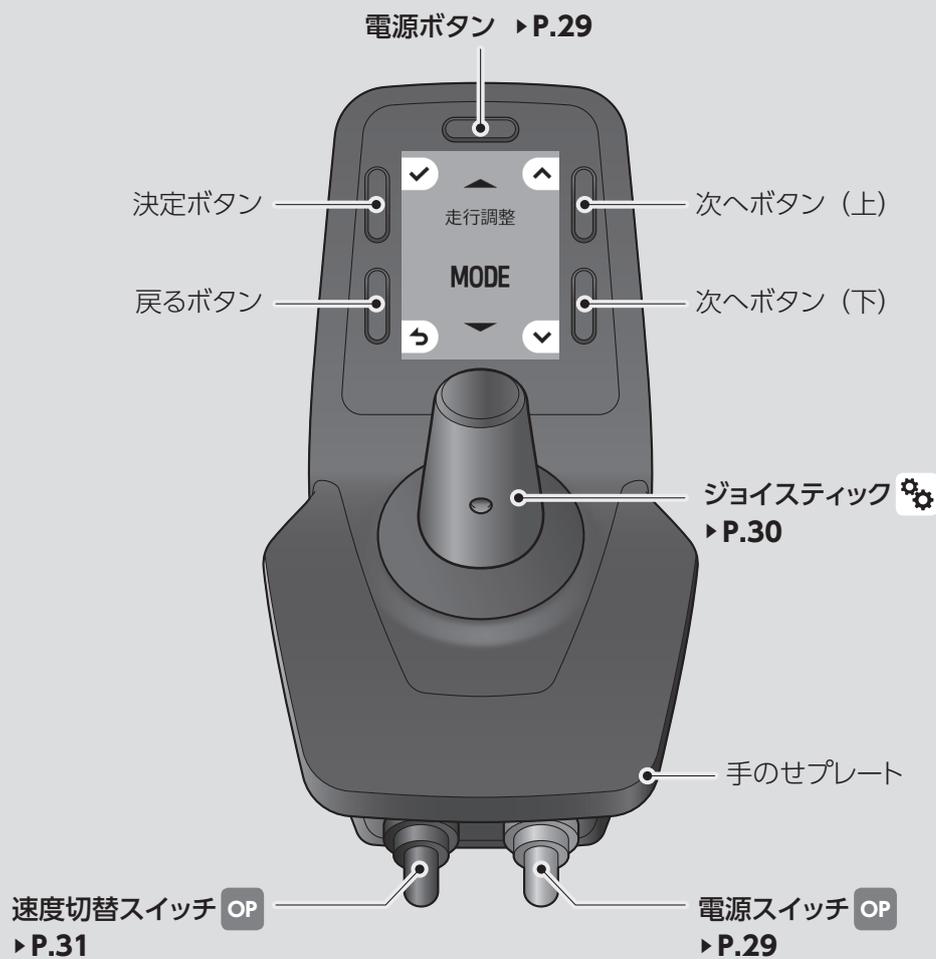
位置や角度を調整できる  
部品です。



※ 車いすになんらかの不具合が生じた場合には、ブザー音と合わせてエラーコードが表示されます。 ▶P.117 “故障と思ったら”

## メニュー画面

表示画面によって、ボタンの役割が変わります。



# 介助用操作部

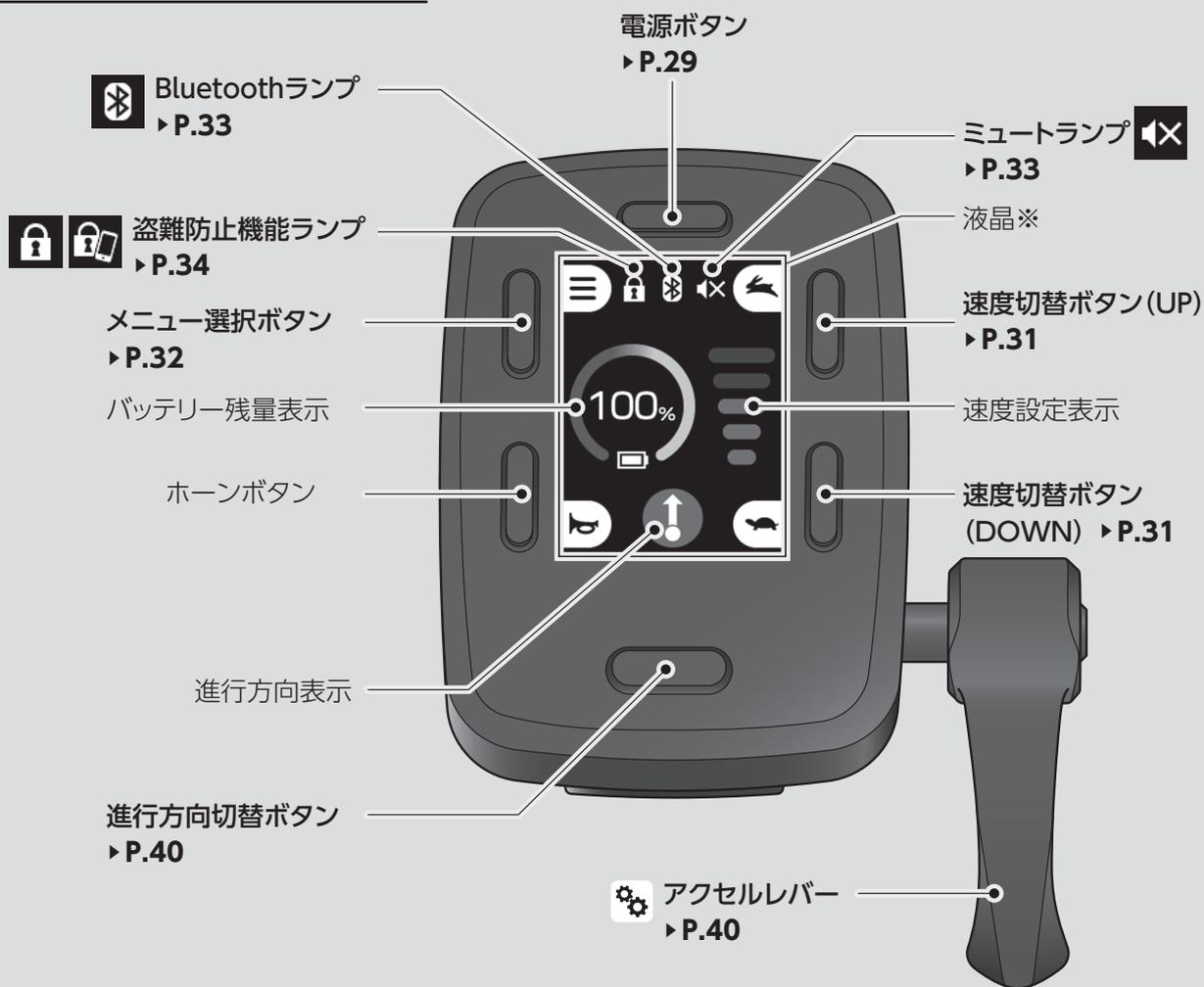
別売部品です。

## ホーム画面

表示画面によって、ボタンの役割が変わります。



位置や角度を調整できる  
部品です。



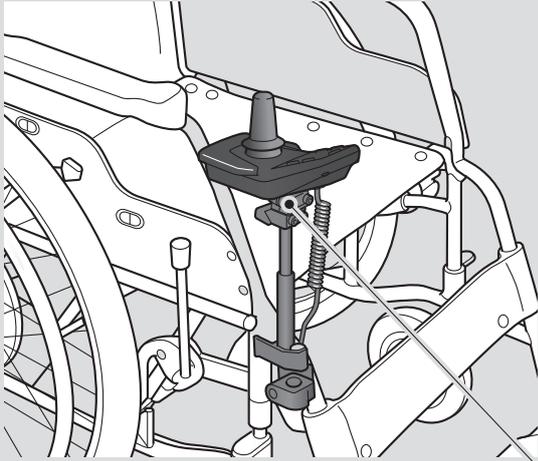
※ 車いすになんらかの不具合が生じた場合には、ブザー音と合わせてエラーコードが表示されます。 ▶P.117 “故障と思ったら”

## メニュー画面

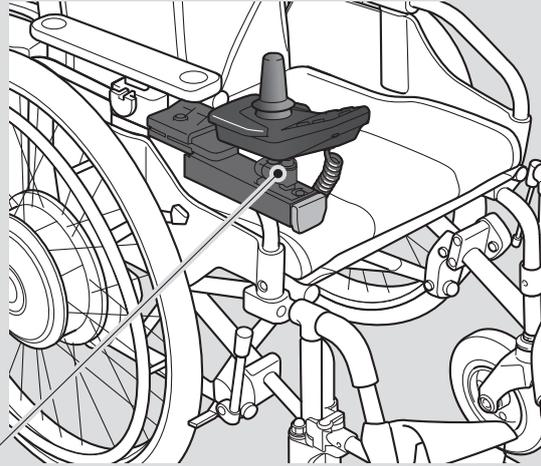
表示画面によって、ボタンの役割が変わります。



標準 (バーハンドル) ブラケット



スライドブラケット



自走用操作部ブラケット   
▶ P.36

## 電源ボタン

電源ボタンを入れると電動走行ができます。

### ● 電源を入れる

ボタンを長押し（約2秒）すると電源が入り、液晶画面が点灯します。「ピッ」という操作音が鳴り、液晶画面が通常表示になると、電動走行ができる状態です。

ミュート設定にしている場合、電源を入れた際の操作音は鳴りません。



### ● 電源を切る

再度ボタンを押すと電源が切れ、液晶画面が消灯します。



## 電源スイッチ（自走用操作部）（別売）

電源スイッチを入れると電動走行ができます。

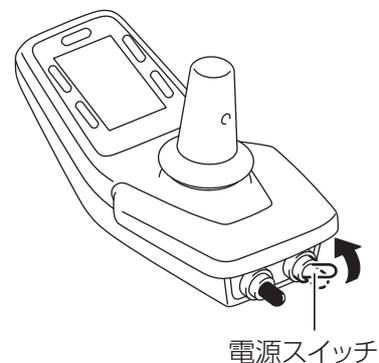
### ● 電源を入れる

スイッチを上下どちらかに動かすと自走用操作部の電源が入り、液晶画面が点灯します。「ピッ」という操作音が鳴り、液晶画面が通常表示になると、電動走行ができる状態です。

ミュート設定にしている場合、電源を入れた際の操作音は鳴りません。

### ● 電源を切る

スイッチを上下どちらかに動かすと自走用操作部の電源が切れ、液晶画面が消灯します。



## ジョイスティック（自走用操作部）

ジョイスティックを操作して車いすを運転します。

### ● 車いすの操作

ジョイスティックを傾けた方向に車いすが動き、中央に戻すと車いすが停止します。真横に傾けると旋回します。

### ● 速度の調整

ジョイスティックの傾け具合で速度を調整できます。



## ジョイスティックの交換

身体の具合に応じて、さまざまな形状のジョイスティックに交換することができます。（別売）交換する場合は取扱店にご相談ください。



## 操作荷重の調整

内部のバネを別売バネと交換することで、身体の具合に応じてジョイスティックの操作荷重（ジョイスティックを動かすのに必要な力）を調整できます。調整する場合は取扱店にご相談ください。

- ・操作荷重が強い
- ・標準（初期設定）
- ・操作荷重が弱い
- ・操作荷重がさらに弱い

### 要 点

ジョイスティックの形状によっては、使用できるバネに制限があります。

## 速度切替ボタン

最高速度を5段階に切り替えることができます。

### 速度を上げる

速度変更ボタン(UP) を押すと、「ピッ」と操作音が鳴って速度設定が上がります。

### 速度を下げる

速度変更ボタン(DOWN) を押すと、「ピッ」と操作音が鳴って速度設定が下がります。



## 速度切替スイッチ (自走用操作部) (別売)

最高速度を5段階に切り替えることができます。

### 速度を上げる

スイッチを上げると、「ピッ」と操作音が鳴って速度設定が上がります。

### 速度を下げる

スイッチを下げると、「ピッ」と操作音が鳴って速度設定が下がります。



## USB電源ポート

USB電源ポートはType-Cです。3Aまでの給電が可能です。

### 要点

機器によっては給電できないものもあります。

### 要点

USB電源ポートに通信機能はありません。

## 注意

- **USB電源ポートを使用しないときは、ゴムキャップを閉める。**  
雨水などが浸入して電子機器を傷め、故障の原因となります。
- **USB電源ポートにUSBコネクタ以外のものを差し込まない。**  
USB電源ポートが破損する可能性があります。

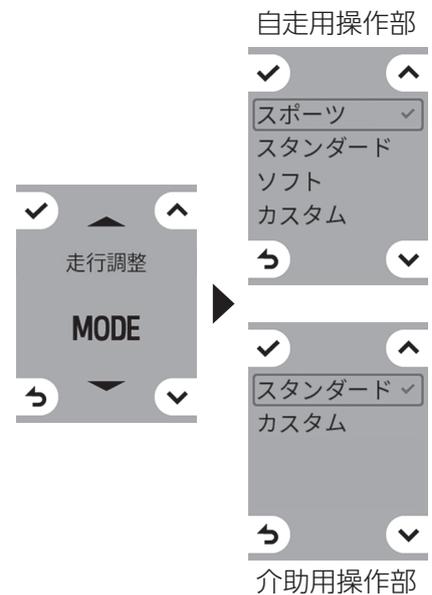
## メニュー選択

メニューから各設定確認・変更することができます。

### 走行調整

お好みの操作感に変更することができます。  
自走用操作部では「スポーツ・スタンダード・ソフト・カスタム」、介助用操作部では「スタンダード・カスタム」から選択してください。  
設定したい項目を選択後、決定ボタンを押すと設定が完了します。  
「カスタム」は「JW Smart Tune」にてお好みの設定が可能です。

▶P.115 “設定変更”



## LCD輝度

ディスプレイの明るさを4段階に切り替えることができます。

### 輝度を上げる

次へボタン（上）を押すと、「ピッ」と操作音が鳴って輝度設定が上がります。

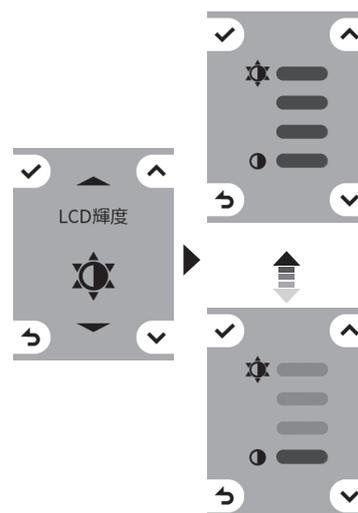
お好みの明るさを選択後、決定ボタンを押すと設定が完了します。

### 輝度を下げる

次へボタン（下）を押すと、「ピッ」と操作音が鳴って輝度設定が下がります。

お好みの明るさを選択後、決定ボタンを押すと設定が完了します。

輝度設定4（最高設定輝度）



輝度設定1（最低設定輝度）

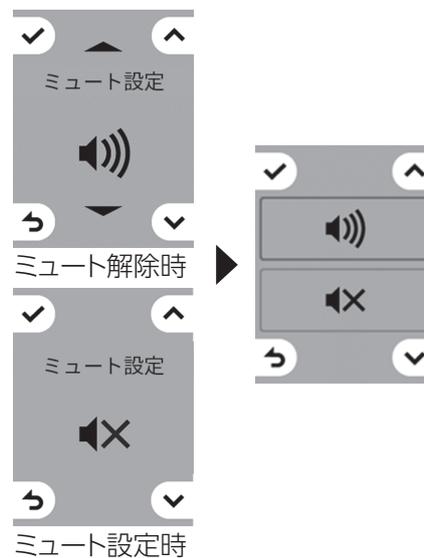
## ミュート設定

ディスプレイの操作音をミュート設定することができます。

設定したい項目を選択後、決定ボタンを押すと設定が完了します。

ミュート設定後でも、ホーンや警告音は消す事ができません。

ミュート設定時と、解除時ではメニューに表示されるアイコンが異なります。

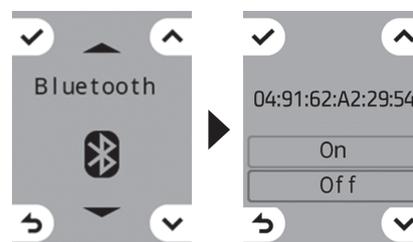


## Bluetooth

Bluetooth接続のオン・オフを変更することができます。設定したい項目を選択後、決定ボタンを押すと設定が完了します。

「On」を選択すると液晶画面にBluetoothマークが表示されます。

Bluetooth接続は「JW Smart Tune」にて設定する際に使用します。



## L/R設定

ディスプレイのホーム画面表示と操作ボタンを左右入れ替えることができます。

### R (右設定)

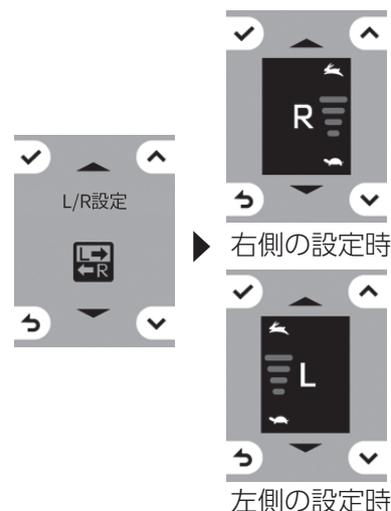
ホーム画面で速度設定表示を右側に配置することができます。

設定したい項目を選択後、決定ボタンを押すと設定が完了します。

### L (左設定)

ホーム画面で速度設定表示を左側に配置することができます。

設定したい項目を選択後、決定ボタンを押すと設定が完了します。



## 言語設定

ディスプレイに表示される文字の言語を変更することができます。

設定したい言語を選択後、決定ボタンを押すと設定が完了します。



## 盗難防止機能

ほかの人にジョイスティックまたはアクセルレバーを操作されても作動しないようにすることができます。

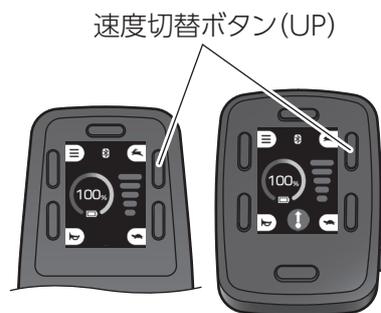
### 設定のしかた

盗難防止機能は、自走用操作部と介助用操作部のどちらからでも設定できます。片方で設定を行うと、もう一方にも自動的に盗難防止機能が作動します。

- 1 電源を入れ、速度設定を5まで上げます。
- 2 一度手を放してから、速度切替ボタン(UP)を5秒以上長押しします。

#### 要点

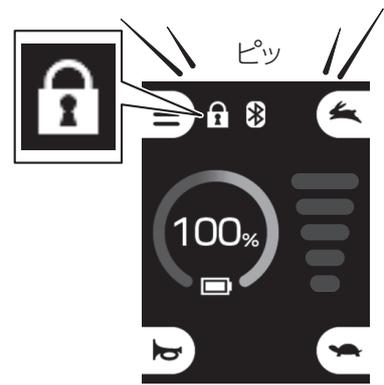
速度切替ボタン(UP)を長押ししている間に、他の入力が行われた場合は、速度切替ボタン(UP)の長押し操作を再度行ってください。



- 3 「ピッ」という操作音が鳴って、液晶に盗難防止機能ランプが点灯したら設定完了です。  
このとき、「速度設定表示」は0になります。

**要 点**

設定完了したあとに電源を入れなおした場合も、盗難防止機能は設定されたままです。



## 解除のしかた

- 1 盗難防止機能が作動している状態で、速度切替ボタン(UP) を5秒以上長押しします。

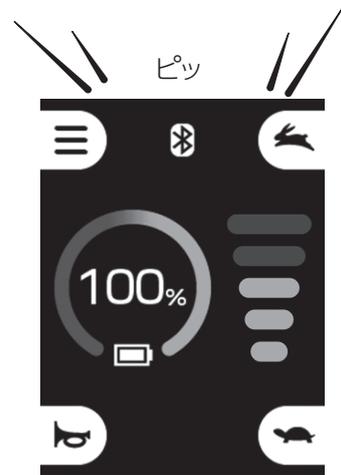
**要 点**

速度切替ボタン(UP) を長押ししている間に、他の入力が行われた場合は、速度切替ボタン(UP) の長押し操作を再度行ってください。

速度切替ボタン(UP)



- 2 「ピッ」という操作音が鳴って、液晶の盗難防止機能ランプが消えたら解除は完了です。



## 自走用操作部ブラケット

お使いのブラケットタイプによって取り扱いが異なります。

標準（バーハンドル）ブラケット： **標準（バーハンドル）**

スライドブラケット： **スライド**

お使いのタイプがわからないとき ▶巻末“仕様早見表”

### ● 自走用操作部の位置調整

操作しやすい位置や角度に調整することができます。

### ● 自走用操作部の格納

テーブルや机に近づくときなどに、自走用操作部が妨げになる場合は、自走用操作部を格納することができます。

## 警告

### ● 電源を入れたまま、自走用操作部をアンダーホルダーから外さない。

ジョイスティックが倒れて、不意に車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

### ● 自走用操作部をアンダーホルダーから外したまま、電源を入れない。

ジョイスティックが倒れて、不意に車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

### ● 自走用操作部をアンダーホルダーから外した状態で、絶対に電動走行をしない。

正常に車いすを操作できず、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

### ● 走行中は、自走用操作部をアンダーホルダーから外さない。

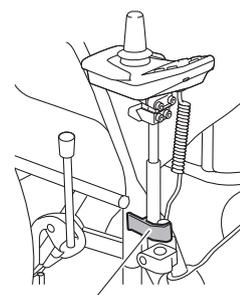
正常に車いすを操作できず、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

### ● 走行前に自走用操作部が固定されていることを確認する。

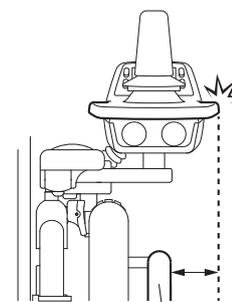
自走用操作部が固定されていないと、車いすのコントロールができなくなるため、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

### ● 自走用操作部をハンドリムよりも外側に調整した場合は、周囲の人や壁などに注意する。

人に接触してけがを負わせたり、ものと接触して破損したりする可能性があります。



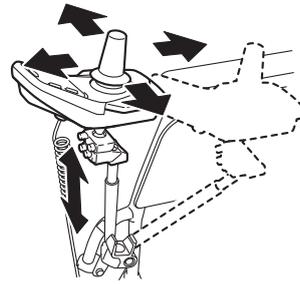
アンダーホルダー



ハンドリム

## 自走用操作部の位置調整

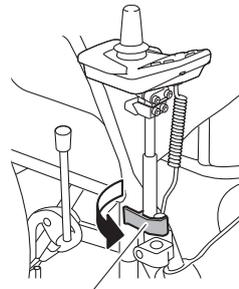
自走用操作部の位置、高さを調整できます。調整する場合は取扱店にご相談ください。



## 格納のしかた・戻しかた

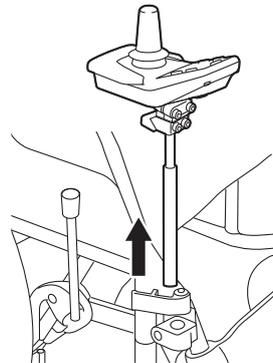
1 電源が切れていることを確認します。

2 ロックレバーを外します。

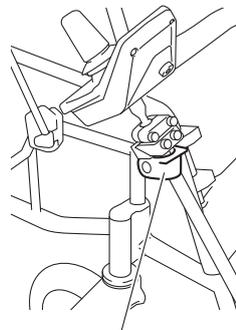


ロックレバー

3 自走用操作部を引き抜きます。



4 下置きホルダーに差し込みます。



下置きホルダー

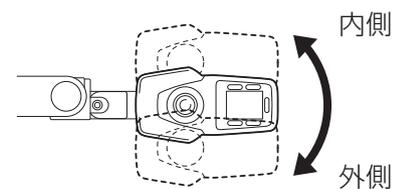
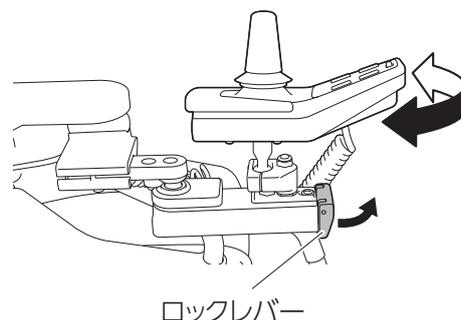
5 元に戻すには、逆の手順で行なってください。

## 自走用操作部の位置調整

### 水平位置の調整

自走用操作部の位置をアームサポートに対して水平方向へ、内側、中央、外側の3箇所に調整することができます。

- 1 電源が切れていることを確認します。
- 2 ロックレバーを引き上げながら、操作部の位置をお好みの位置に調整します。
- 3 ロックレバーを放すと、ロックが合った位置で操作部が固定されます。



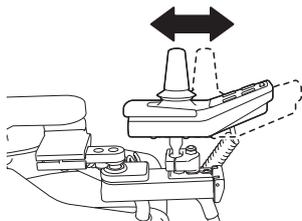
#### 要点

アームサポートの高さや操作部の取り付け状態によっては、内側の位置で固定しにくくなる場合があります。

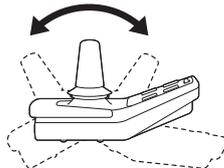
### 前後位置、傾き、向き調整

調整する場合は取扱店にご相談ください。

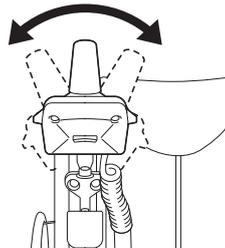
• 前後位置



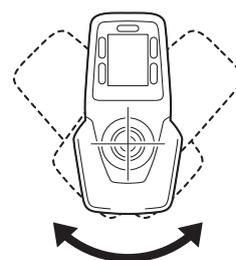
• 前後の傾き



• 左右の傾き

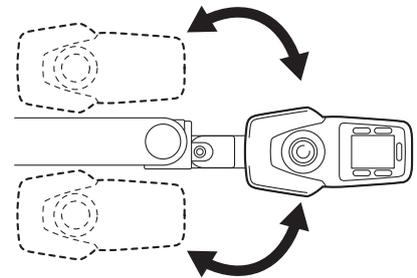
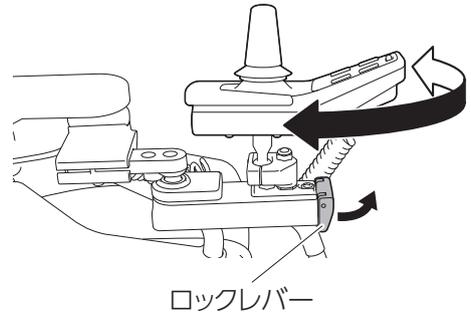


• 水平方向の向き



## 格納のしかた

- 1 電源が切れていることを確認します。
- 2 ロックレバーを引き上げながら、操作部を動かします。
- 3 自走用操作部が固定される位置よりさらに内側、または外側に動かすことができます。



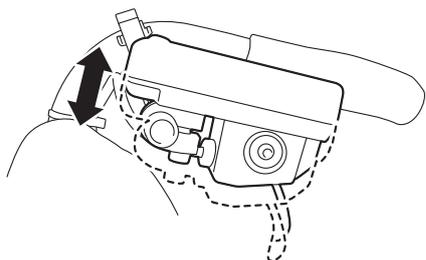
### 要点

格納位置では自走用操作部は固定されません。

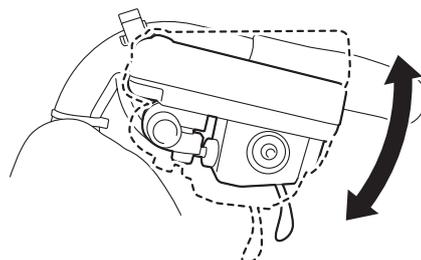
## 介助用操作部の位置調整（別売）

介助用操作部の左右位置、高さ、角度は調整できます。調整する場合は取扱店にご相談ください。

・高さ



・角度

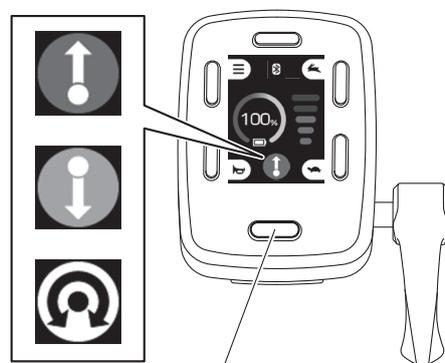


## 進行方向切替ボタン（介助用操作部）（別売）

介助用操作部を使用して操作する際は、進行方向切替ボタンを押すことで進行方向を変更できます。進行方向は「直進・後進・旋回」の3パターンから選択することができます。

直進・後進…進行方向切替ボタンを押すと直進または後進に切り替わります。

旋回…進行方向切替ボタンを長押しすると旋回に切り替わります。



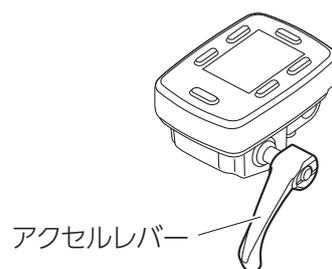
進行方向切替ボタン

## アクセルレバーの調整（介助用操作部）（別売）

アクセルレバーを調整して車いすを操作します。

### ◀ 速度の加減

アクセルレバーの握る強さによって速度を加減できます。



アクセルレバー

# 3 電動ユニット各部の点検

この章では、本製品を安全に使用するうえで、日常的に点検が必要な項目を説明します。  
本製品が装着された車いすの点検については、車いすの取扱説明書をご確認ください。

## JWG-1 (20 / 22 / 24インチ)

### 点検箇所 (8項目)

#### 注意

- ご自身で解決できない不具合（「故障と思ったら」の対処方法で解決できない故障など）が発生する場合は車いすの使用を止め、販売店に相談する。

電動ユニットの破損や走行中に車いすが止まるおそれがあります。

OP

別売部品です。

#### リヤタイヤ ▶P.45

- 表面のすり減り・亀裂
- 空気圧

#### ハンドリム ▶P.47

- 変形・キズ
- ガタつき

#### ホイール、スポーク ▶P.47

- 変形・キズ
- ガタつき
- スポークの破損
- ホイールキャップの取り付け状態

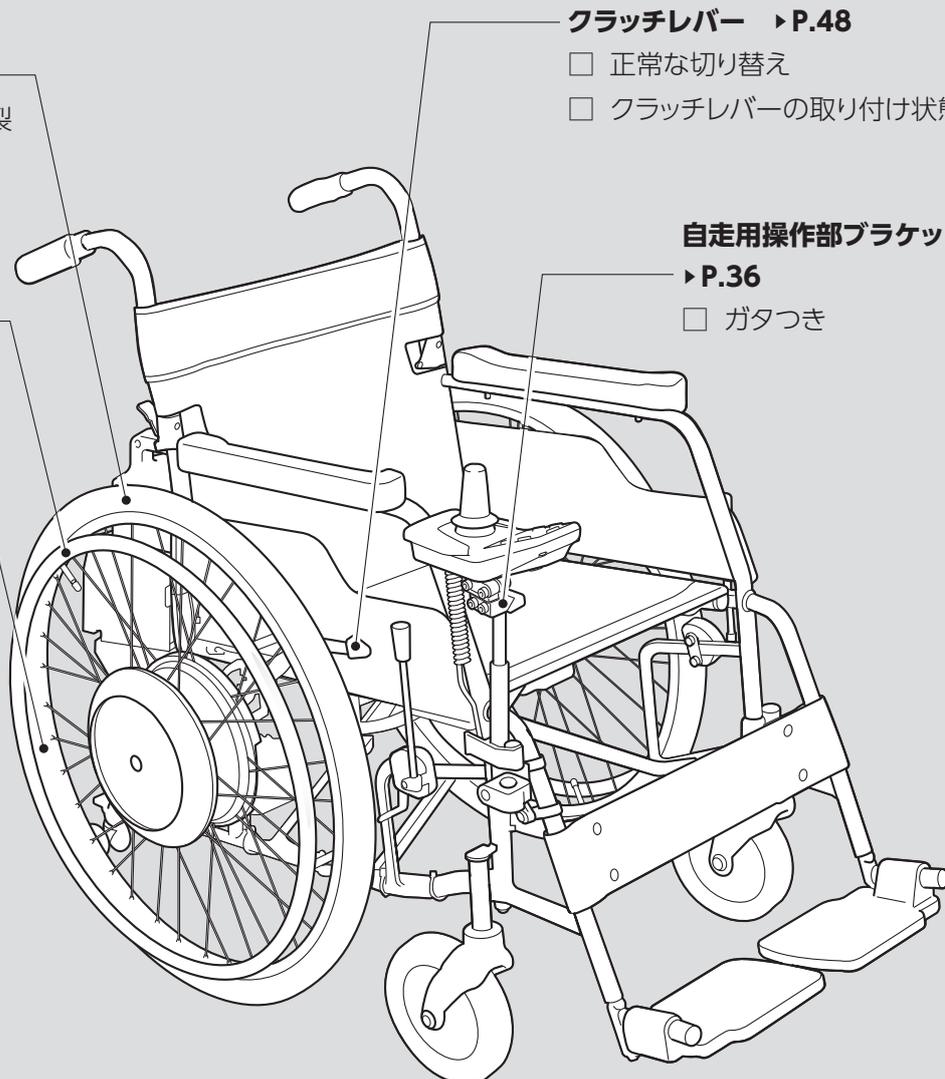
#### クラッチレバー ▶P.48

- 正常な切り替え
- クラッチレバーの取り付け状態

#### 自走用操作部ブラケット

##### ▶P.36

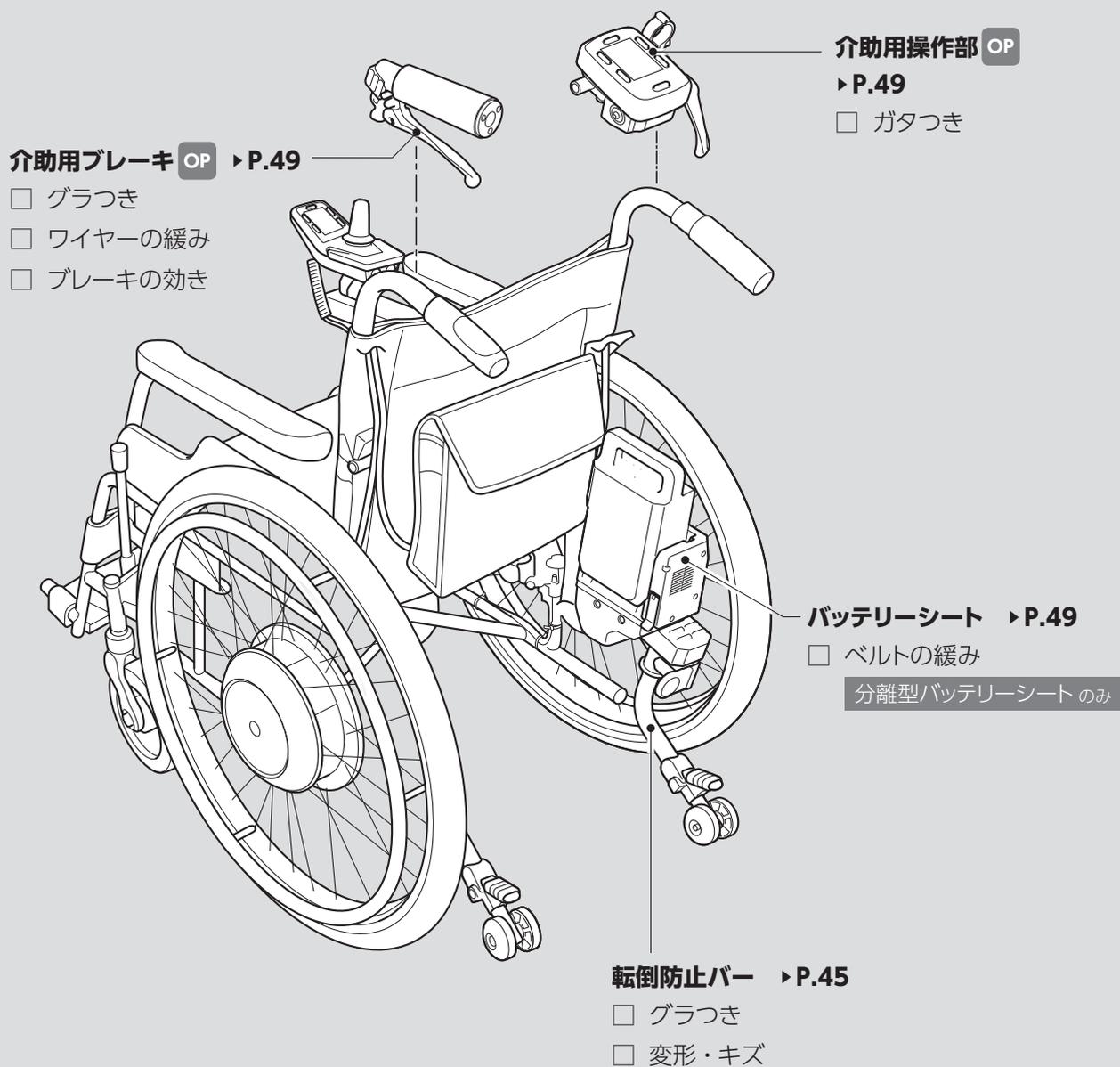
- ガタつき



**警告**

- リヤタイヤなどに異常がある状態で使用しない。

走行中に車いすが壊れて、車いすが転倒や転落するおそれがあります。



# JWG-1 (16インチ)

## 点検箇所 (7項目)

### 注意

- ご自身で解決できない不具合（「故障と思ったら」の対処方法で解決できない故障など）が発生する場合は車いすの使用を止め、販売店に相談する。

電動ユニットの破損や走行中に車いすが止まるおそれがあります。

OP

別売部品です。

### リヤタイヤ

▶P.46

- 表面のすり減り・亀裂
- 空気圧

### 自走用操作部ブラケット

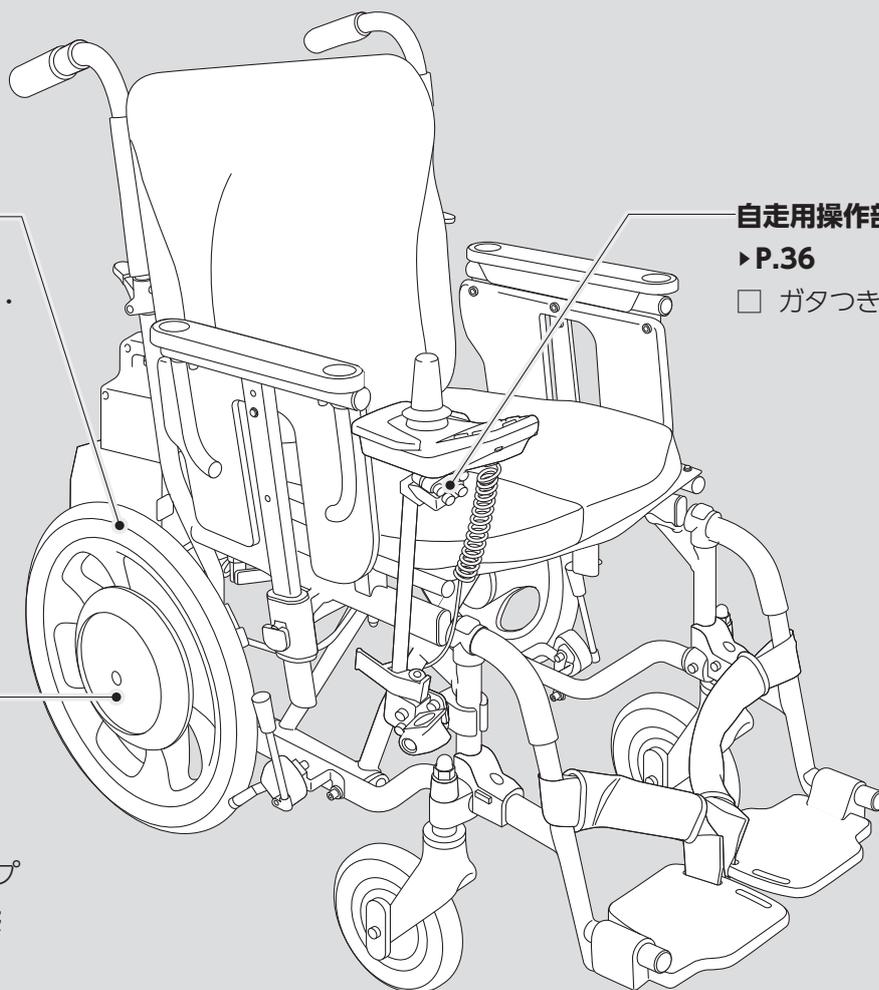
▶P.36

- ガタつき

### ホイール

▶P.47

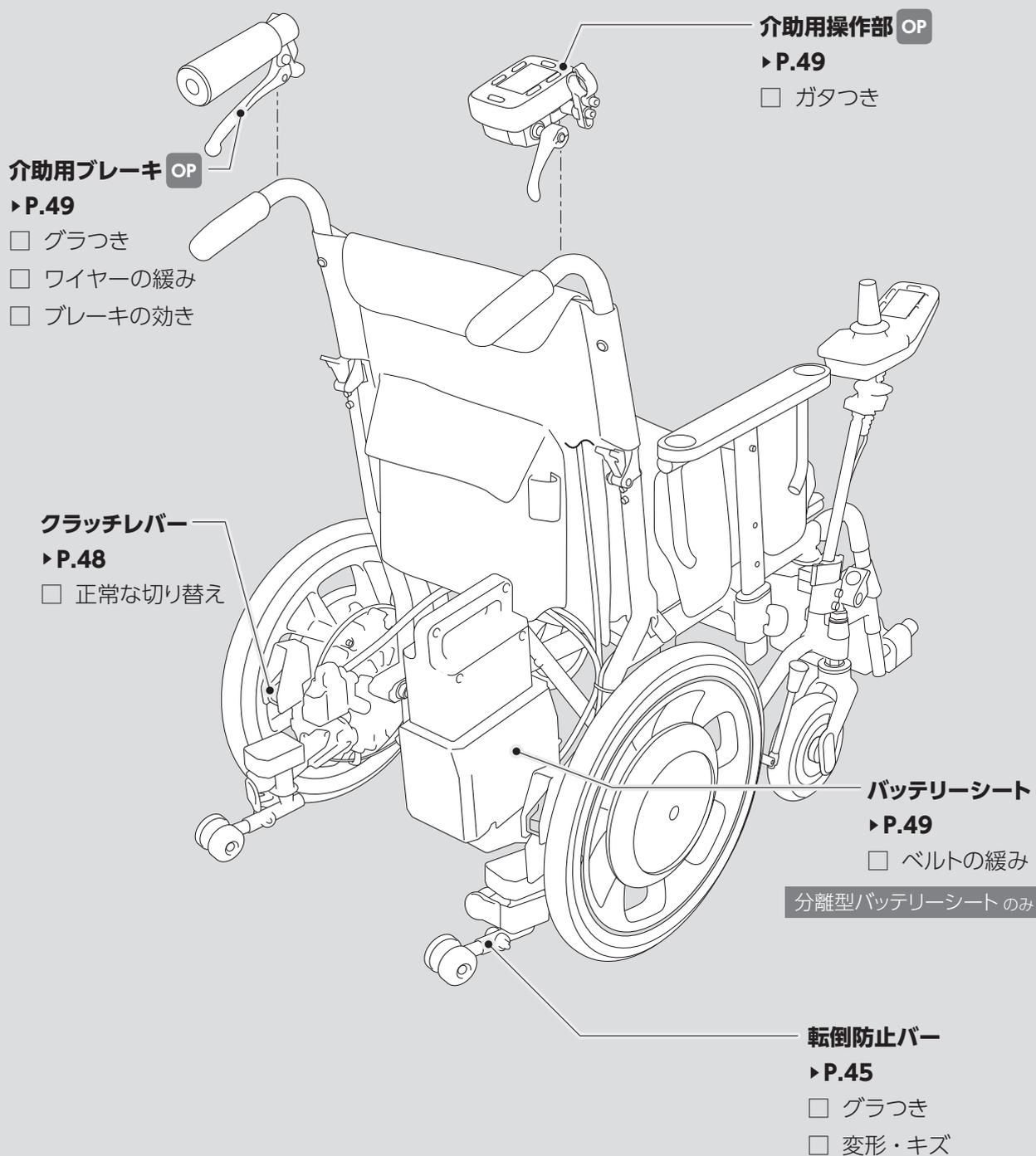
- 変形・キズ
- ガタつき
- ホイールキャップの取り付け状態



**警告**

- 車いす本体、リヤタイヤなどに異常がある状態で使用しない。

走行中に車いすが壊れて、車いすが転倒や転落するおそれがあります。

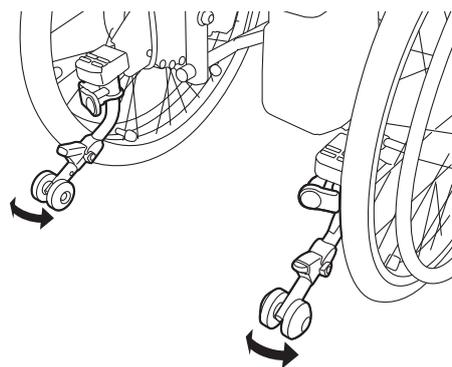


## 転倒防止バー

### ● グラつき

外側に出した状態で左右に揺らして、グラつきがなく、きちんとロックされているかを確認します。

ロックされていない場合、バーを左右に振ってください。ロック位置に合うと、「カチツ」と音がしてロックされます。



### ● 変形・キズ

転倒防止バーに大きなゆがみや傷がないかを確認します。

## リヤタイヤ (JWG-1 (20 / 22 / 24インチ))

タイヤサイズによって適正空気圧が異なります。

お使いのタイヤサイズがわからないとき ▶巻末“仕様早見表”

### ● 表面のすり減り・亀裂

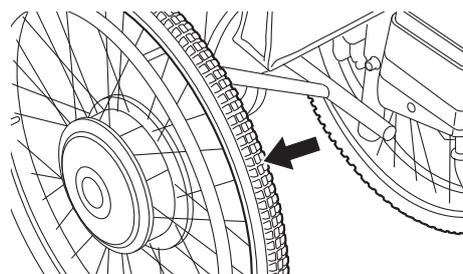
タイヤ表面の溝がすり減っていないかを確認します。

タイヤ表面に亀裂が入っていないかを確認します。

### ● 空気圧

タイヤを指で押して、空気が十分に入っていることを確認します。

空気圧が十分でない場合、空気入れで空気を補充してください。



#### 要 点

リヤタイヤの適正空気圧は、下記の通りです。

**20インチ** 420kPa (4.2kg/cm<sup>2</sup>, 60PSI)

**22インチ** **24インチ** 450kPa (4.5kg/cm<sup>2</sup>, 65PSI)

#### 警告

- リヤタイヤの空気圧を確認し、不適正の場合は空気圧を調整する。

空気圧が下がると、駐車ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

## リヤタイヤ (JWG-1 (16インチ))

タイヤサイズによって適正空気圧が異なります。

お使いのタイヤサイズがわからないとき ▶巻末 “仕様早見表”

### ● 表面のすり減り、亀裂

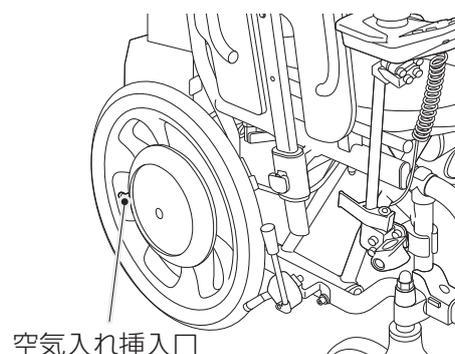
タイヤ表面の溝がすり減っていないかを確認します。

タイヤ表面に亀裂が入っていないかを確認します。

### ● 空気圧

タイヤを指で押して、空気が十分に入っていることを確認します。

空気圧が十分でない場合、空気入れで空気を補充してください。



空気入れ挿入口

#### 要点

リヤタイヤの適正空気圧は、下記の通りです。  
345kPa (3.5kg/cm<sup>2</sup>, 50PSI)

### 警告

#### ● リヤタイヤの空気圧を確認し、不適正の場合は空気圧を調整する。

空気圧が下がると、駐車ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

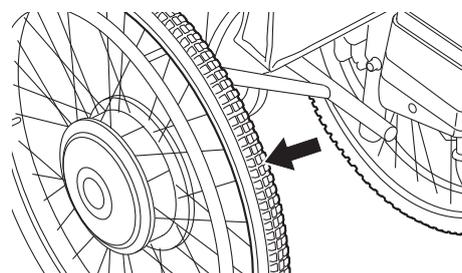
## ノーパンクタイヤ (別売)

別売部品です。

### ● 表面のすり減り・亀裂

タイヤ表面の溝がすり減っていないかを確認します。

タイヤ表面に亀裂が入っていないかを確認します。



#### 要点

ノーパンクタイヤは3年毎に交換してください。  
交換は販売店に相談してください。

### 警告

#### ● ノーパンクタイヤのすり減りを確認し、溝がない場合は、販売店に相談する。

ノーパンクタイヤがすり減ると滑りやすくなり、また駐車ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

---

## ホイール、スポーク (JWG-1 (20 / 22 / 24インチ))

### ◦ 変形・キズ

ホイールに変形やキズがないことを確認します。

### ◦ ガタつき

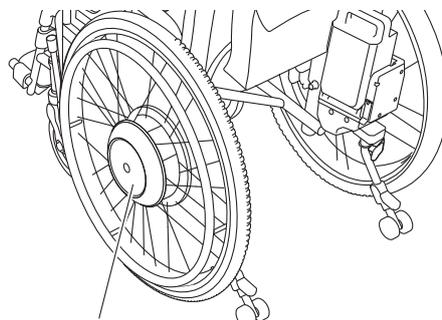
ホイールにガタつきがないことを確認します。

### ◦ スポークの破損

スポークが折れていないことを確認します。

### ◦ ホイールキャップの取り付け状態

ホイールキャップが浮いていたり、外れていたりしないことを確認します。



ホイールキャップ

---

## ホイール (JWG-1 (16インチ))

### ◦ 変形・キズ

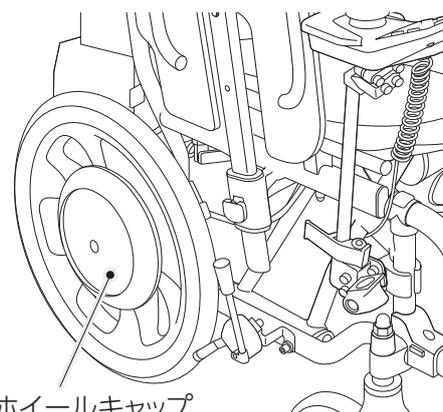
ホイールに変形やキズがないことを確認します。

### ◦ ガタつき

ホイールにガタつきがないことを確認します。

### ◦ ホイールキャップの取り付け状態

ホイールキャップが浮いていたり、外れていたりしない事を確認します。



ホイールキャップ

---

## ハンドリム (JWG-1 (20 / 22 / 24インチ))

### ◦ 変形・キズ

ハンドリムに変形やキズがないことを確認します。

### ◦ ガタつき

ハンドリムにガタつきがないことを確認します。

## クラッチレバー

### ◀ 正常な切り替え

クラッチレバーの操作にしたがい、電動／手動の切替が正しくできていることを確認します。

### ◀ クラッチレバーの取り付け状態 (JWG-1 (20 / 22 / 24インチ))

クラッチレバーとフレーム（駐車ブレーキやサイドガードなど）に干渉がなく、スムーズに操作できることを確認します。

## 自走用操作部ブラケット

ブラケットタイプによって点検方法が異なります。

標準（バーハンドル）ブラケット： **標準（バーハンドル）**

スライドブラケット： **スライド**

お使いのタイプがわからないとき ▶ **巻末** “仕様早見表”

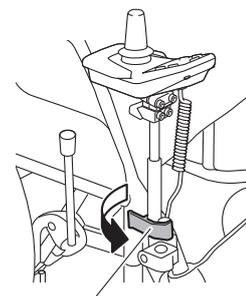
### 標準（バーハンドル）

#### ◀ ガタつき

自走用操作部を揺らし、車いすに正しく固定されていることを確認します。

自走用操作部をつかんで引き上げ、ロックレバーで確実にロックされているかを確認します。

きちんとロックされていない場合、一度引き抜いてから差し込みなおして、ロックレバーでロックします。

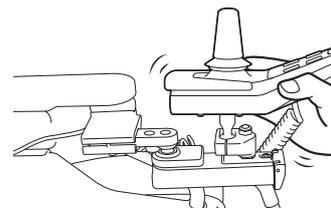


ロックレバー

### スライド

#### ◀ ガタつき

自走用操作部を揺らし、車いすに正しく固定されていることを確認します。



---

## バッテリーシート

分離型バッテリーシート仕様をお使いの場合は、下記の点検を行なってください。

お使いのタイプがわからないとき ▶巻末“仕様早見表”

### ● ベルトの緩み

分離型バッテリーシートの固定用ベルトが緩んでいないことを確認します。また、固定用ベルトが転倒防止バー、リヤタイヤ、その他可動部に干渉していないことを確認します。

ベルトが緩んでいる場合、可動部に干渉しないことを確認して締め付けます。



### 警告

#### ● バッテリーバックの固定用ベルトが緩んでいないことを確認する。

バッテリーバックが脱落したり、緩んだ固定用ベルトがリヤタイヤなどの可動部に巻きつき、事故の原因となるおそれがあります。

---

## 介助用操作部（別売）

別売部品です。

### ● ガタつき

介助用操作部を揺らし、車いすに正しく固定されていることを確認します。

---

## 介助用ブレーキ（別売）

別売部品です。

### ● グラつき

ブレーキレバーにグラつきがないことを確認します。

### ● ワイヤーの緩み

ブレーキレバーを握り、不自然な遊びがないかを確認します。

### ● ブレーキの効き

クラッチレバーを手動側または手押側にし、ブレーキレバーを握りながら車いすを押して、車いすが動かないことを確認します。

車いすを押しながらブレーキレバーを握ったとき、進行方向が左右どちらかに偏ったりしないかを確認します。



## 4 車いすの運転

この章では、本製品が装着された車いすに乗って運転するまでの手順を説明します。本製品が装着された車いすの取扱説明書と合わせてお読みください。

# (JWG-1 (20 / 22 / 24インチ))

十分に充電された  
バッテリーを  
取り付ける。

▶ P.83 “バッテリーと充電器の  
取り扱いについて”

### 車いすに 乗り降りするために

- 平坦な場所に車いすを停める。
- 電源を切る。
- クラッチレバーは電動側にする。
- 駐車ブレーキをかける。
- フットサポートを跳ね上げる。
- 転倒防止バーは外に出す。

### クラッチレバーの役割

クラッチレバーは

### 電動走行 ⇄ 手動走行の切り替え

を行ないます。

▶ P.22 “クラッチレバー (20 / 22 / 24インチ)”

- 車いすを手動で運転するとき以外は電動側にしてお使いください。
- 電動側をしていると、停止中は常に電磁ブレーキが働きます。

## 電動走行を始める前に

- 車いすにしっかりと座る。
- フットサポートを降ろして足を載せる。
- 自走用操作部は固定されている。
- ジョイスティックはスムーズに動かせる。
- 電源を入れて、液晶が通常画面になる。

## 電動走行

- 自走用操作部の電源を入れる。
- 駐車ブレーキを解除する。
- ジョイスティックで運転する。

・・・クラッチレバーで切り替え・・・

## 手動走行

- 平坦な場所に車いすを停める。
- 駐車ブレーキをかける。
- 自走用操作部の電源を切り、クラッチレバーを手動側に切り替える。
- 駐車ブレーキを解除してハンドリムで運転する。

- クラッチレバーの切り替えは、車いすを停止させてから行なってください。

## (JWG-1 (16インチ))

十分に充電された  
バッテリーを  
取り付ける。

▶P.83 “バッテリーと充電器の  
取り扱いについて”

### 車いすに 乗り降りするために

- 平坦な場所に車いすを停める。
- 電源を切る。
- クラッチレバーは電動側にする。
- 駐車ブレーキをかける。
- フットサポートを跳ね上げる。
- 転倒防止バーは外に出す。

### クラッチレバーの役割

介助者が手押しで車いすを動かせるよう、電磁ブレーキ作用の有無を切り替えます。

▶P.22 “クラッチレバー (16インチ)”

## 電動走行を始める前に

- 車いすにしっかりと座る。
- フットサポートを降ろして足を載せる。
- 自走用操作部は固定されている。
- ジョイスティックはスムーズに動かせる。
- 電源を入れて、液晶が通常画面になる。

## 電動走行

- 自走用操作部の電源を入れる。
- 駐車ブレーキを解除する。
- **ジョイスティックで運転する。**

- ご自身で車いすを運転するときは、常に左右両方のレバーを電動側にしてお使いください。  
電動側をしていると、停止中は常に電磁ブレーキが働きます。

- クラッチレバーの切り替えは、車いすを停止させてから行なってください。

**警告**

- クラッチレバーを手動側または手押側にするときは、平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、電源を切る。

不意に車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

- 傾斜のある場所では、クラッチレバーを手動側または手押側に切り替えない。

不意に車いすが動き出して、衝突や転倒のおそれがあります。

- 車いすが動いているときは、クラッチレバーを操作しない。

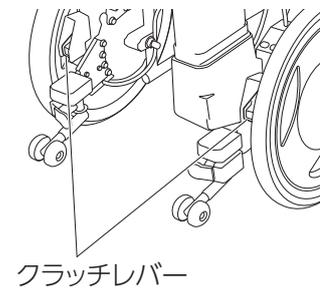
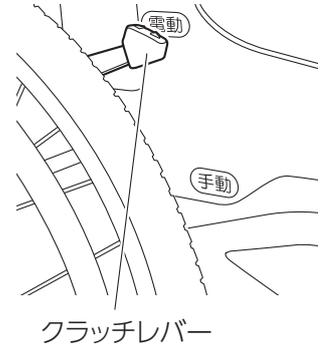
衝突や転倒のおそれがあります。

- 電動走行中に、クラッチレバーを手動側または手押側に切り替えない。

モーターによるブレーキ効果がなくなります。特に坂道では車いすが暴走するおそれがあります。

- 手動走行中に、クラッチレバーを電動側に切り替えない。

リヤタイヤにブレーキがかかり、反動で体が前方に投げ出されたり、ご自身や周囲の人がけがをしたり、車いすが壊れたりするおそれがあります。



# 車いすに乗り移る準備

車いすが固定されて動かないことを十分に確認してください。

電動走行を始める前に、バッテリーを十分に充電してください。バッテリーの充電量の確認、取り付けかたについては、バッテリーの取り扱いを参照してください。 ▶P.83 “バッテリーと充電器の取り扱いについて”



## 警告

- **車いすに乗り移るときには、下記のような状態にする。**

不意に車いすが動き出して、車いすから落ちてけがをするおそれがあります。

- 電源を切る
- クラッチレバーを電動側にする
- 駐車ブレーキをかける

- **車いすに乗り移るときは、必ず電源を切ってから乗り移る。**

電源が入っていると、体がジョイスティックに当たった場合、不意に車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

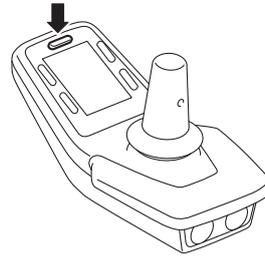
- **転倒防止バーを正しくセットしても、路面の大きな凹み、穴、段差前後の凸凹、傾斜など路面の状態に注意する。また、あらかじめ日常よく使うルート of 安全確認も行なう。**

バランスを崩して、転倒するおそれがあります。

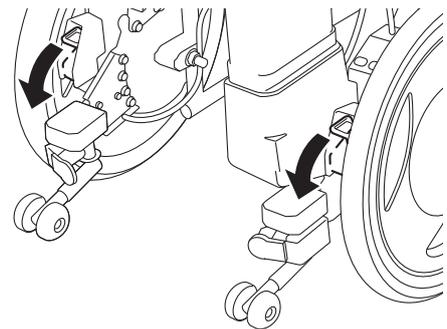
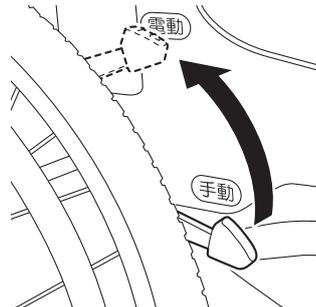
## 停車のしかた

1 車いすを平坦な場所に置きます。

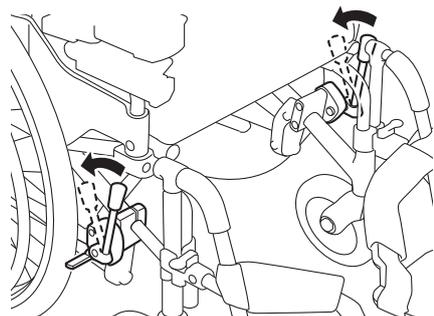
2 自走用操作部の電源を切ります。



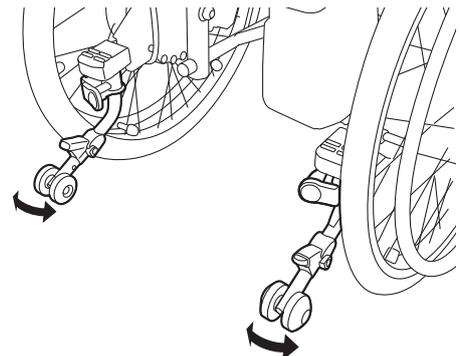
3 クラッチレバーを電動側にします。



4 駐車ブレーキをかけます。



5 転倒防止バーが外に出ている状態で左右に揺らし、確実にロックされていることを確認します。



# 車いすに乗り移る

## ⚠ 警告

- 跳ね上げ式アームサポートに本製品の自走用操作部を取り付けている場合は、下記のことを守る。

- 電源を入れたあとにアームサポートを上げない
- アームサポートを上げた状態で電源を入れない
- アームサポートを上げた状態では絶対に走行しない

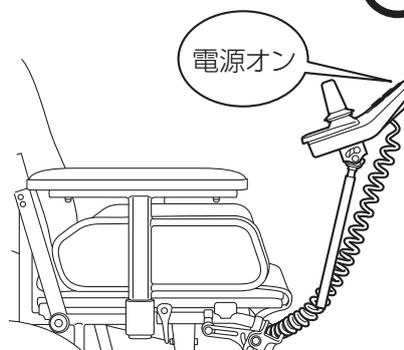
ジョイスティックが倒れて、車いすが不意に動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。



- 自走用操作部の取り付けに標準（バーハンドル）ブラケットを使用した車いすは、下記のことを守る。

- 電源を入れたあとに自走用操作部をアンダーホルダーから外さない
- 自走用操作部をアンダーホルダーから外したあとに電源を入れない
- アンダーホルダーから自走用操作部を外した状態では絶対に走行しない

ジョイスティックが倒れて、車いすが不意に動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。



- 自走用操作部の取り付けにスライドブラケットを使用した車いすは、下記のことを守る。

- 電源を入れたあとに自走用操作部を格納しない
- 自走用操作部を格納したあとに電源を入れない
- 自走用操作部を格納した状態では絶対に走行しない

ジョイスティックが倒れて、車いすが不意に動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。



---

## スペースの確保

- 1 | フットサポートを跳ね上げます。
- 2 | 必要に応じて下記の可動部も動かして、乗り移りがしやすい状態にします。
  - ・ 自走用操作部を動かす ▶P.36 “自走用操作部ブラケット”

---

## 車いすへの座りかた

- 1 | 車いすに乗り移り、体が安定するようにしっかり座ります。
- 2 | フットサポートを降ろし、しっかりと足を載せます。
- 3 | その他の可動部を動かした場合は、元の位置に戻し、確実に固定されていることを確認します。

# 運転前のチェック

## 警告

- 走行前に自走用操作部が固定されていることを確認する。

自走用操作部が固定されていないと、車いすのコントロールができなくなるため、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

## 自走用操作部の電源を入れる前に

### ● 服装の引っかかり

ズボンやスカート、ひざかけなどの裾が、車いすの各部に引っかかったり挟まったりしていませんか。

### ● ジョイスティック

電源を切った状態でジョイスティックを動かして、引っかかりがなくスムーズに動きますか。また、手を放すと中央に戻りますか。

## 自走用操作部の動作チェック

駐車ブレーキをかけた状態で、自走用操作部の電源を入れます。

### ● 正常な表示

電源を入れると、「ピッ」という操作音が鳴ります。バッテリー残量表示は現在のバッテリー残量を数字で表示します。



## こんな表示が出たら

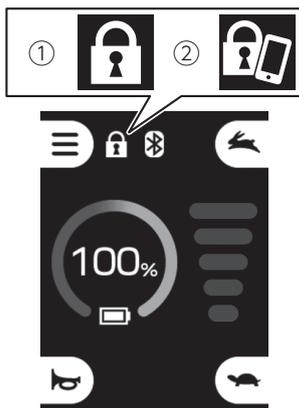
### 液晶表示



### 対処方法

ジョイスティックまたは操作ボタンに触りながら電源を入れた場合に表示されます。

一度電源を切り、ジョイスティックから手を放して電源を入れなおしてください。



- ① 本体操作によるロックがかけられています。  
盗難防止機能を解除してください。 ▶P.34 “盗難防止機能”
- ② アプリ操作によるロックがかけられています。  
盗難防止機能を解除してください。 ▶P.115 “設定変更”

これ以外の表示が出るなどして解決しない場合は、『故障と思ったら』もあわせてご確認ください。

▶P.117 “故障と思ったら”

# 車いすを運転する

運転前のチェックで問題が無ければ、駐車ブレーキを解除して運転を始めます。

## 警告

- **バッテリー残量警告ブザーが鳴ったときは、速やかに安全な場所に移動する。**

道路横断中などに身動きが取れなくなると、事故の原因となるおそれがあります。安全な場所に移動してから予備バッテリー（別売）に交換するか、バッテリーを充電してください。

- **USB電源ポートにUSB機器を接続したまま走行しない。**

障害物に衝突したときにUSB電源ポートに力がかかり、自走用操作部が破損するおそれがあります。接続したUSB機器のケーブルがジョイスティックやクラッチレバー、リヤタイヤなどに巻きつき、事故の原因となるおそれがあります。

- **転倒防止バー出し忘れお知らせブザーが鳴った状態で、単独での走行はしない。**

車いすが転倒するおそれがあります。

- **転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行しない。**

転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行すると、車いすが転倒するおそれがあります。

## 注意

- **ご自身で解決できない不具合（「故障と思ったら」の対処方法で解決できない故障など）が発生する場合は車いすの使用を止め、販売店に相談する。**

電動ユニットの破損や走行中に車いすが止まるおそれがあります。

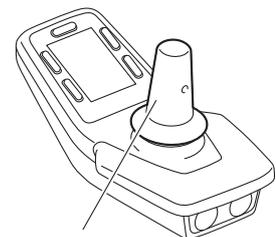
## ジョイスティックの操作

はじめにジョイスティックを前後左右に少しだけ動かして、車いすが操作通りに動くことを確認してください。

### ● 前進、後進、曲がる

ジョイスティックを前方に傾けると前進し、手前に傾けると後進します。

ジョイスティックを斜めに傾けると前進または後進しながら左右に曲がります。



ジョイスティック

### ● 旋回

ジョイスティックを真横に傾けると旋回します。

## ● 速度の調整

ジョイスティックの傾け具合で速度を調整できます。

## ● 減速、停止

ジョイスティックを中央に戻すと減速、停止します。

ジョイスティックが中央にある状態では、ブレーキがかかったままになります。

### 要 点

速度のでかたや、ジョイスティック操作を反応させやすくする、反応させにくくするなどの調整ができます。

▶P.115 “設定変更”

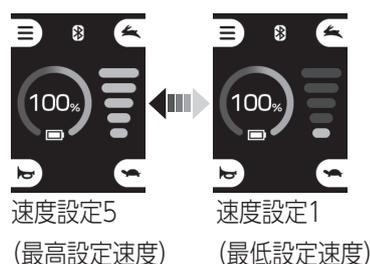
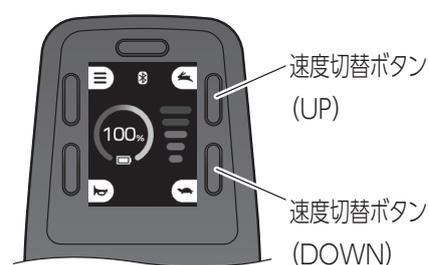
## 最高速度の設定

自走用操作部の液晶画面で、現在の最高速度の設定（ジョイスティックをいっぱいに傾けたときに出る速度）が確認できます。

### 速度切替ボタン

#### ● 速度の設定

速度切替ボタン(UP) を押すと速度設定が上がり、速度切替ボタン(DOWN) を押すと速度設定が下がります。



### 速度切替スイッチ (別売)

#### ● 速度の設定

速度切替スイッチを上げると速度設定が上がり、下げると速度設定が下がります。

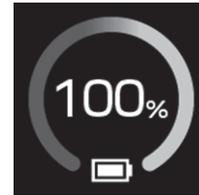


## バッテリー残量の確認

自走用操作部の液晶画面で、バッテリー残量の確認ができます。

### ● バッテリー残量表示

100%から5%までは5%刻みでバッテリー残量を表示します。



### ● バッテリー残量警告

10%… 「ピピピピッ」というブザーが4回鳴ります。

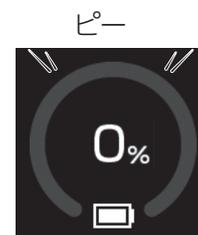
5%… 「ピピピピッ」というブザーが4回鳴ります。

1%… 「ピーピー」というブザーが鳴り続けます。



### ● バッテリー切れ

バッテリー残量がなくなると、「ピー」とブザーが長く鳴り車いすが停止します。



## オートパワーオフ機能

電源が入ったままボタンやジョイスティックの操作がない状態が10分間続くと、自動的に電源が切れて操作を受け付けなくなります。

電源が切れた場合は、再度電源を入れなおしてください。

### 要点

オートパワーオフ機能は、作動するまでの時間を60分に延長、または作動しないように変更できます。

▶P.115 “設定変更”

# 運転の練習

本製品が装着された車いすを初めてお使いになる場合は、まず平坦な広い場所で基本操作を練習してください。

必ず介助者が付き添って安全を確認しながら行なってください。

## 基本操作

(1) 最初に最高速度を低速に設定してから、ジョイスティックの使いかたを覚えましょう。

- 進みたい方向にジョイスティックを倒します。
- ジョイスティックはゆっくり動かしてください。

(2) 最高速度は低速のまま、ジョイスティックの操作感覚を身に着けましょう。

- ゆっくり走るときは、ジョイスティックを浅めに倒します。
- 速く走るときは、ジョイスティックを深めに倒します。
- 減速、停止するには、ジョイスティックを中央に戻します。

(3) 下記のような走りかたを練習しましょう。

### ■後進

- 後進時の動きと特性を理解しましょう。
- 後方の安全を確認しましょう。



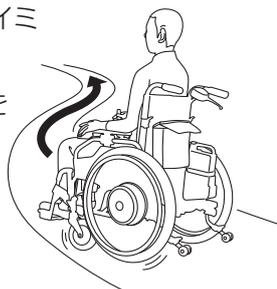
### ■旋回

- ジョイスティックを真横に倒して、せまい場所でも旋回できるようになりましょう。
- 左右それぞれ回ってみましょう。



### ■S字クランク走行

- 速度と方向変換のタイミングを覚えましょう。
- 思いどおりのコースを走れるようになりましょう。



### ■障害物回避

- 回避動作ができるようになりましょう。
- 障害物にぶつからないように、停止してみましょ。



(4) 最高速度を徐々に上げて、同じ練習をしましょう。

## 警告

- 介助者がいるときは、後進時にぶつからないように注意する。

介助者がけがをするおそれがあります。

操作に慣れてきたら、実際に車いすを使う場所で安全に気をつけながら運転する練習をしましょう。

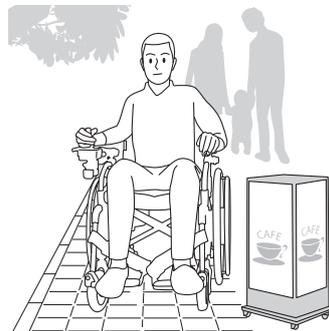
必ず介助者が付き添って安全を確認しながら行ってください。

また、よく使う場所に大きな段差、急な坂道、荒れた路面などがいないか確認し、このような危険な場所を通らないルートを運転するようにしましょう。

## 運転練習

### (1) 歩道

- 路面に応じた運転方法を覚えましょう。
- 歩行者や障害物にぶつからないようにしましょう。



### (2) 段差の上り下り

- 本製品が装着された車いすの取扱説明書を確認し、段差の高さが許容範囲内であることを確認しましょう。
- 段差に対して直角に通過できるように、車いすの向きを変えましょう。
- 段差の手前ではいったん停止し、慎重に進みましょう。
- 低い段差では後ろ向きに乗り越える方法もあります。

### (3) 横断歩道

- 車道と歩道の段差に注意しましょう。
- 横断途中で信号が変わらないように、余裕を持って横断歩道を渡りましょう。



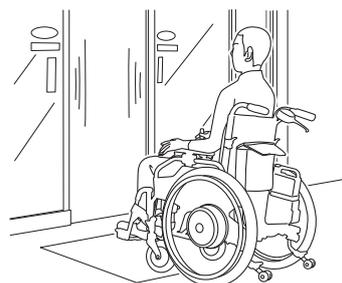
### (4) 坂道

- 上り下りの感覚を身に着けましょう。
- 本製品が装着された車いすの取扱説明書を確認し、勾配が実用登坂角度内であることを確認しましょう。(仕様諸元の実用登坂角度を参照してください)
- 上り坂の途中からの再発進は慎重にしましょう。



### (5) 自動ドア

- 停止する位置の感覚を身に着けましょう。



# 車いすから降りる

## ⚠ 警告

- **電動走行が終わったら、必ず電源を切る。**

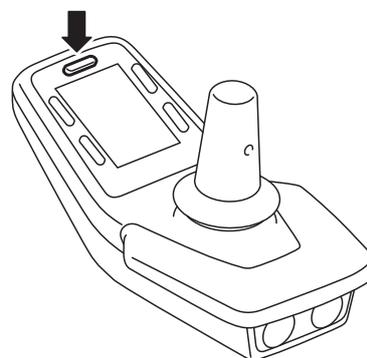
車いすから降りるときに電源が入っていると、体がジョイスティックに当たった場合に、不意に車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

- **車いすから椅子やベッドなどに乗り移るときは、必ずクラッチレバーを電動側にして、駐車ブレーキをかける。**

不意に車いすが動き出して、車いすから落ちてけがをするおそれがあります。

## 停車のしかた

- 1 ジョイスティックを操作し、平坦な場所に停めます。
- 2 駐車ブレーキをかけ、クラッチレバーが電動側にあることを確認します。
- 3 自走用操作部の電源を切ります。



## 車いすからの降りかた

乗り移るときと同じ手順です。必要に応じてスペースを確保してから安全に降りてください。

▶ P.59 “スペースの確保”

## バッテリーの取り外し

車いすから降りたあと、充電が必要な場合や、車いすを長期間使わない場合は、バッテリーを車いすから取り外して充電または保管します。 ▶ P.83 “バッテリーと充電器の取り扱いについて”



## 5 介助者による運転

この章では、電動で介助操作をするための手順を説明します。介助用操作部、および介助用ブレーキは、別売部品です。

本製品が装着された車いすの取扱説明書と合わせてお読みください。

十分に充電された  
バッテリーを  
取り付ける。

▶ P.83 “バッテリーと充電器の  
取り扱いについて”

### 車いすに 乗り降りするために

- 平坦な場所に車いすを停める。
- 電源を切る。
- クラッチレバーは電動側にする。
- 駐車ブレーキをかける。
- フットサポートを跳ね上げる。
- 転倒防止バーは外に出す。

### 🔄 クラッチレバーの役割

クラッチレバーは  
**電動走行 ⇔ 手動走行の切り替え**  
を行ないます。

- ▶ P.22 “クラッチレバー (20 / 22 / 24インチ)”
- ▶ P.22 “クラッチレバー (16インチ)”

- 車いすを手動で運転するとき以外  
は電動側にしてお使いください。
- 電動側をしていると、停止中は常  
に電磁ブレーキが働きます。

## 電動走行を始める前に

- 車いすにしっかりと座ってもらう。
- フットサポートを降ろして足を載せてもらう。
- 乗る人の服装に問題はない。
- 乗る人は車いすの可動部に触れていない。
- 電源を入れてランプが通常表示になる。

## 電動走行

- 介助用操作部の電源を入れる。
- 駐車ブレーキを解除する。
- **手押しハンドルと介助用操作部で運転する。**

・・・  クラッチレバーで切り替え ・・・

## 手動走行

- 平坦な場所に車いすを停める。
- 駐車ブレーキをかける。
- 介助用操作部の電源を切り、クラッチレバーを手動側または手押し側に切り替える。
- **駐車ブレーキを解除して、手押しハンドルと介助用ブレーキで運転する。**

- クラッチレバーの切り替えは、車いすを停止させてから行なってください。

**警告**

- クラッチレバーを手動側または手押側にするときは、平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、電源を切る。

不意に車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

- 傾斜のある場所では、クラッチレバーを手動側または手押側に切り替えない。

不意に車いすが動き出して、衝突や転倒のおそれがあります。

- 車いすが動いているときは、クラッチレバーを操作しない。

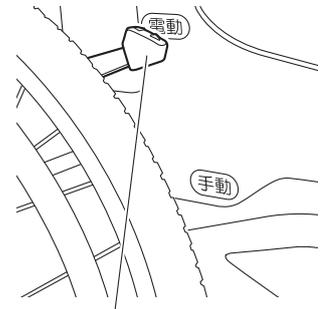
衝突や転倒のおそれがあります。

- 電動走行中に、クラッチレバーを手動側または手押側に切り替えない。

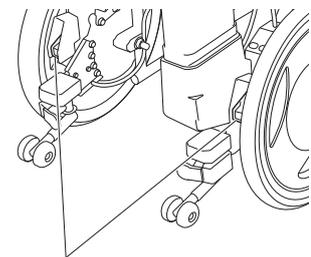
モーターによるブレーキ効果がなくなります。特に坂道では車いすが暴走するおそれがあります。

- 手動走行中に、クラッチレバーを電動側に切り替えない。

リヤタイヤにブレーキがかかり、反動で体が前方に投げ出されたり、ご自身や周囲の人がけがをしたり、車いすが壊れたりするおそれがあります。



クラッチレバー



クラッチレバー

# 車いすへの乗り移りの準備

車いすが固定されて動かないことを十分に確認してください。

電動走行を始める前に、バッテリーを十分に充電してください。バッテリーの充電量の確認、取り付けかたについては、バッテリーの取り扱いを参照してください。 ▶P.83 “バッテリーと充電器の取り扱いについて”

## 警告

● **車いすへの乗り移りをするときは、下記のような状態にする。**

不意に車いすが動き出して、車いすから落ちてけがをするおそれがあります。

- 電源を切る
- クラッチレバーを電動にする
- 駐車ブレーキをかける

● **車いすへの乗り移りは、必ず自走用操作部の電源を切ってから行なう。**

電源が入っていると、車いすに乗る人の体がジョイスティックに当たった場合、不意に車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

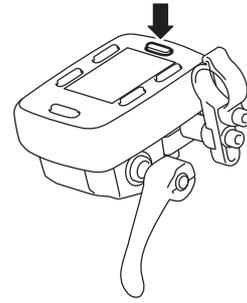
● **転倒防止バーを正しくセットしても、路面の大きな凹み、穴、段差前後の凸凹、傾斜など路面の状態に注意する。また、あらかじめ日常よく使うルート of 安全確認も行なう。**

バランスを崩して、転倒するおそれがあります。

## 停車のしかた

1 車いすを平坦な場所に置きます。

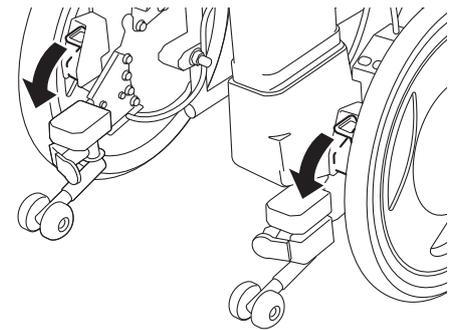
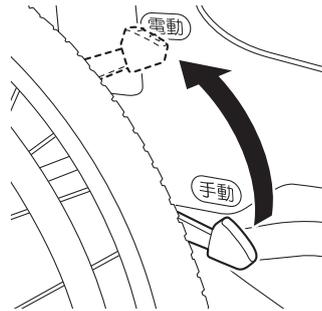
2 介助用操作部の電源を切ります。



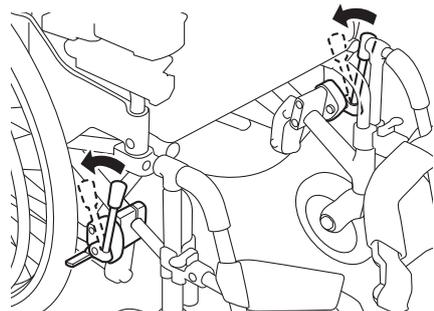
### 要点

介助用操作部の電源を入れるより前に自走用操作部の電源が入っていると、操作を受け付けません。

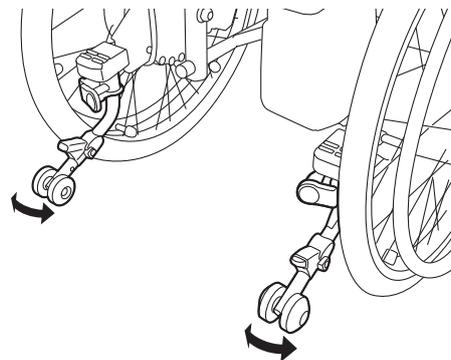
3 クラッチレバーを電動側にします。



4 駐車ブレーキをかけます。



5 転倒防止バーが外に出ている状態で左右に揺らし、確実にロックされていることを確認します。



# 車いすへの乗り移り

---

## スペースの確保

- 1 | フットサポートを跳ね上げます。
- 2 | 必要に応じて下記の可動部も動かして、乗り移りがしやすい状態にします。
  - ・ 自走用操作部を動かす ▶P.36 “自走用操作部ブラケット”

---

## 着座の確認

車いすに乗り移ったら、下記の状態であることを確認します。

- ◀ しっかり座り、姿勢が安定している
- ◀ フットサポートを降ろして、フットサポートベルトにかかるとが当たるようにしっかりと足を載せている
- ◀ その他の可動部を動かした場合は、元の位置に戻して固定されている

# 運転前のチェック

## 警告

- 車いすに乗る人の手がリヤタイヤやハンドリムの近くにあるときは、介助操作をしない。  
衣服や指が巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

## 介助用操作部の電源を入れる前に

### ◀ 服装の引っかかり

ズボンやスカート、ひざかけなどの裾が、車いすの各部に引っかかったり挟まったりしていませんか。

### ◀ 車いすに乗る人の姿勢

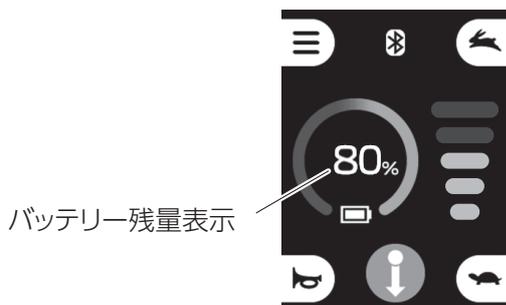
車いすに乗る人はきちんと座っていますか。また、手がリヤタイヤやハンドリムに触れていませんか。

## 介助用操作部の動作チェック

駐車ブレーキをかけた状態で、介助用操作部の電源を入れます。

### ◀ 正常な表示

電源ボタンを長押し（約2秒）すると、「ピッ」という操作音が鳴ります。  
バッテリー残量表示は現在のバッテリー残量を数字で表示します。



## こんな表示が出たら

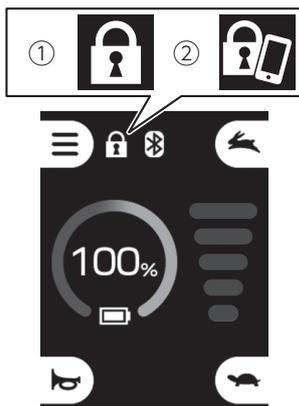
### 液晶表示



### 対処方法

アクセルレバーまたは操作ボタンに触りながら電源を入れた場合に表示されます。

一度電源を切り、アクセルレバーから手を放して電源を入れなおしてください。



- ① 本体操作によるロックがかけられています。  
盗難防止機能を解除してください。 ▶P.34 “盗難防止機能”
- ② アプリ操作によるロックがかけられています。  
盗難防止機能を解除してください。  
▶P.115 “設定変更”

これ以外の表示が出るなどして解決しない場合は、『故障と思ったら』もあわせてご確認ください。

▶P.117 “故障と思ったら”

# 車いすの運転

動作チェックで問題が無ければ、駐車ブレーキを解除して運転を始めます。

## 進行方向切替ボタン

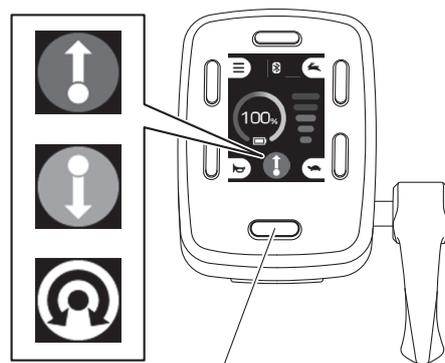
車いすを操作する前に、進行方向が目的の方向に設定されていることを確認してください。

### ◀ 直進・後進

進行方向切替ボタンを押すと直進または後進に切り替わります。

### ◀ 旋回

進行方向切替ボタンを長押しすると旋回に切り替わります。



進行方向切替ボタン

## アクセルレバーの操作

はじめに速度を最低に設定し、進行方向（前進・後進・旋回）を設定して、アクセルレバーを握ると車いすが操作通りに前進、後進または旋回することを確認してください。

### ◀ 前進、後進、旋回

進行方向を前進に設定し、アクセルレバーを握ると、車いすが前進します。

進行方向を後進に設定し、アクセルレバーを握ると、車いすが後進します。

進行方向を旋回に設定し、アクセルレバーを握ると、介助ハンドルによる旋回操作が可能になります。旋回は介助者の力で行ないます。



アクセルレバー

### ◀ 減速、停止

アクセルレバーを握り込む角度により、速度が変化します。アクセルレバーの握り込みを弱めると減速します。アクセルレバーから手を離すと停止します。

## 最高速度の設定

はじめは速度を遅めに設定し、運転に慣れてから徐々に速度を調整してください。

### ● 速度の設定

速度切替ボタン(UP) を押すと速度設定が上がり、速度切替ボタン(DOWN) を押すと速度設定が下がります。

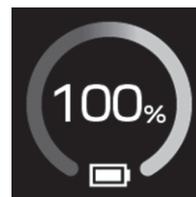


## バッテリー残量の確認

介助用操作部の液晶画面で、バッテリー残量の確認ができます。

### ● バッテリー残量表示

100%から5%までは5%刻みでバッテリー残量を表示します。



### ● バッテリー残量警告

10%… 「ピピピピッ」というブザーが4回鳴ります。

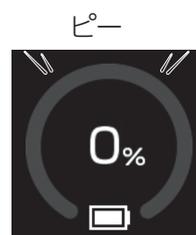
5%… 「ピピピピッ」というブザーが4回鳴ります。

1%… 「ピーピー」というブザーが鳴り続けます。



### ● バッテリー切れ

バッテリー残量がなくなると、バッテリー警告ランプが点滅、残量表示が『0』で点滅し、「ピー」とブザーが長く鳴り車いすが停止します。



## オートパワーオフ機能

電源が入ったままボタンやアクセルレバーの操作がない状態が10分間続くと、自動的に電源が切れて操作を受け付けなくなります。

電源が切れた場合は、再度電源を入れなおしてください。

## 握り込み緊急停止機能

危険を感じてアクセルレバーを強く握りしめてしまった場合、警告を表示し停止します。

### 要 点

通常時のブレーキとして使用しないでください。



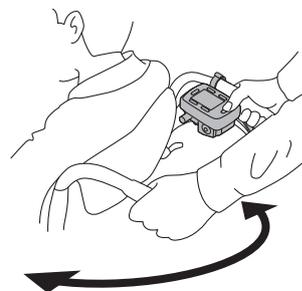
# 運転の基本

車いすを介助者が電動で運転するとき、下記のような場面での基本的な操作を正しく理解して運転してください。

## 基本操作

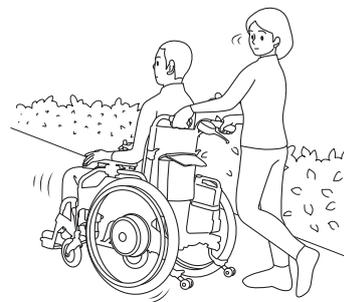
### ■方向変換、旋回

- 手動走行時、電動走行時ともに手押しハンドルで車いすの向きを変えます。
- 電動走行時は、アクセルレバーを握り車いすを進ませながら向きを変えます。



### ■急な坂道を下るとき

- 前進で下ると前のめりになるおそれがありますので、後進で下ってください。



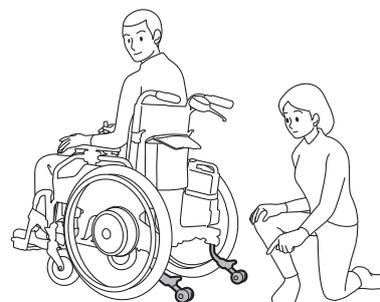
### ■段差を乗り越えるとき

- 介助用操作部の電源を切り、クラッチレバーを手動側または手押し側にします。
- 段差に対して直角に通過できるように、車いすの向きを変えます。
- ティッピングプレートを前に押し出すように踏みながら、手押しハンドルを押し下げるようにしてキャスターを浮かせて、段差を乗り越えます。



### ■大きな段差を乗り越えるとき

- 転倒防止バーを折りたたみ、『段差を乗り越えるとき』と同じようにして段差を乗り越えます。
- 段差を乗り越えたあとは、必ず転倒防止バーを元のように外に出してロックしてください。



# 車いすからの降車

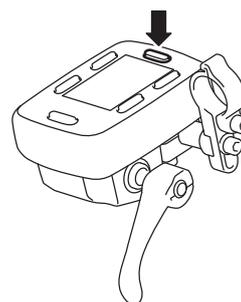
## ⚠ 警告

- 車いすから椅子やベッドなどに乗り移るときは、必ずクラッチレバーを電動側にして、駐車ブレーキをかける。

不意に車いすが動き出して、車いすから落ちてけがをするおそれがあります。

## 停車のしかた

- 1 車いすを平坦な場所に停めます。
- 2 駐車ブレーキをかけ、クラッチレバーが電動側にあることを確認します。
- 3 介助用操作部の電源を切ります。



## 車いすから降りてもらうとき

乗り移るときと同じ手順です。安全に降りられるよう、必要に応じてスペースを確保してください。

▶ P.59 “スペースの確保”

## バッテリーの取り外し

車いすから降りたあと、充電が必要な場合や、車いすを長期間使わない場合は、バッテリーを車いすから取り外して充電または保管します。 ▶ P.83 “バッテリーと充電器の取り扱いについて”

# 6 バッテリーと充電器の取り扱いについて

## バッテリー、充電器の取り扱い

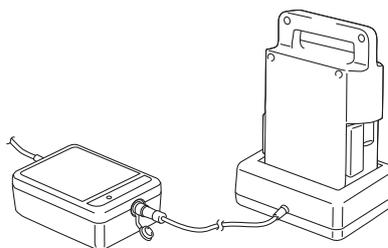
### 警告

- 間違った取扱いをすると、発熱・破裂や感電、ケガの原因になります。必ず下記事項をお守りください。

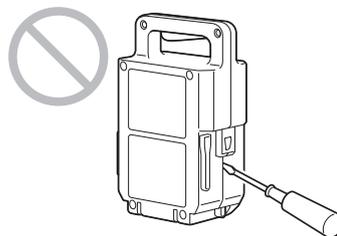
充電器は、身体的、感覚的、または精神的能力が低下している方、または経験および知識の不足した方（お子さまを含む）の使用を意図していません。このような方が使用する場合には、その安全に責任を持てる方が充電器の使用に関する監督または指示を行うことが条件となります。お子さまが充電器で遊ぶことのないよう、監督してください。

バッテリーまたは充電器の金属端子に指で直接触れたり、濡れたタオルで端子を清掃したりしないでください。感電やショートの原因になります。

バッテリーを専用充電器以外のもの  
で充電したり、指定の車いす  
以外のものに使ったりしないで  
ください。



バッテリーの分解や改造をしない  
でください。



バッテリーを火に近づけたり火の  
中に入れたりしないでください。



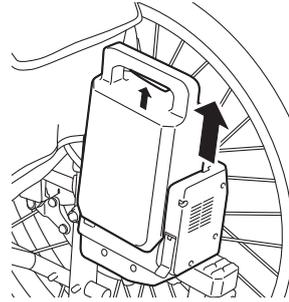
バッテリーを水に入れたり、バッ  
テリーに水をかけたりしないで  
ください。



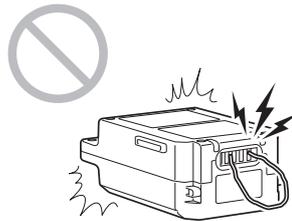
**警告**

● 間違った取扱いをすると、発熱・破裂や感電、ケガの原因になります。必ず下記事項をお守りください。

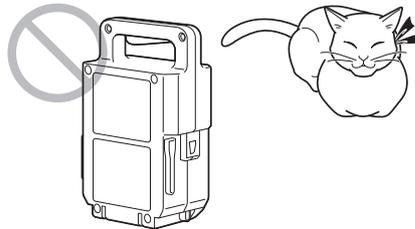
車いすを自動車などで運ぶときには車いすからバッテリーを外してください。



バッテリーの端子を針金などでショートさせないでください。



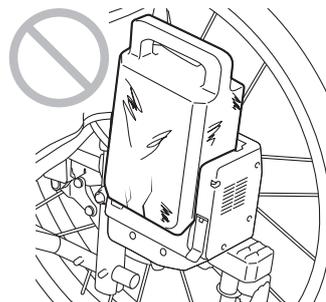
バッテリーは幼児やペットが近づくところで保管しないでください。



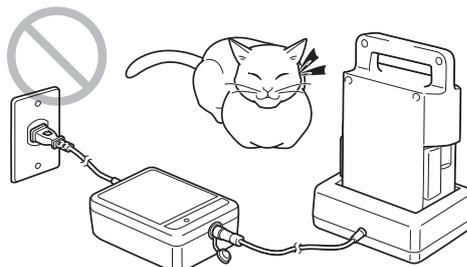
バッテリーを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。



壊れたり傷んだバッテリーは使用しないでください。



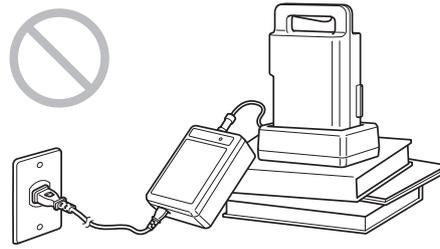
幼児やペットが近づくところではバッテリーの充電をしないでください。



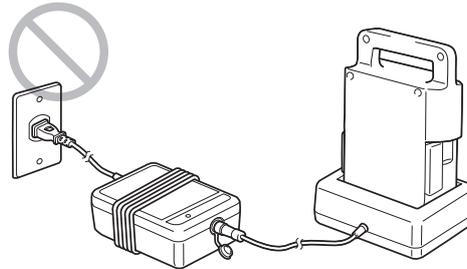
**警告**

● 間違った取扱いをすると、発熱・破裂や感電、ケガの原因になります。必ず下記事項をお守りください。

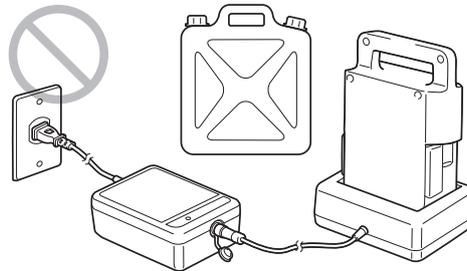
充電器は平坦な場所で使用し、使用後は電源プラグをコンセントに差したままにしないでください。



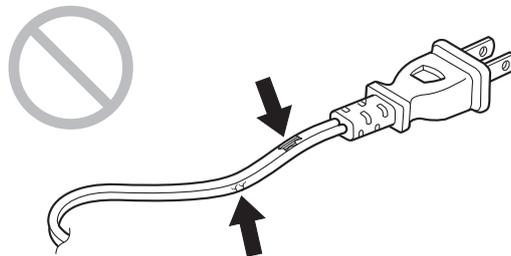
電源コードや充電コードを充電器に巻き付けた状態で充電しないでください。



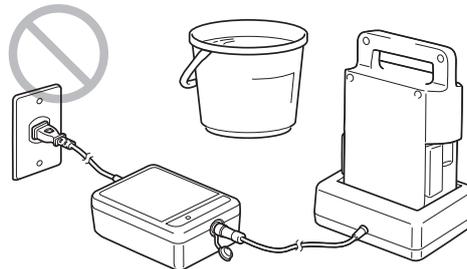
屋外や燃えやすいものの近くで充電器を使わないでください。



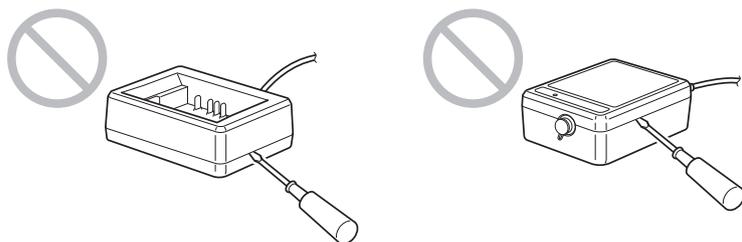
傷んだコードは使用しないでください。また、埃や汚れ、オイル、水分等が付着した電源コードおよび充電プラグは使用しないでください。



充電器を水に入れたり、充電器に水をかけたりしないでください。



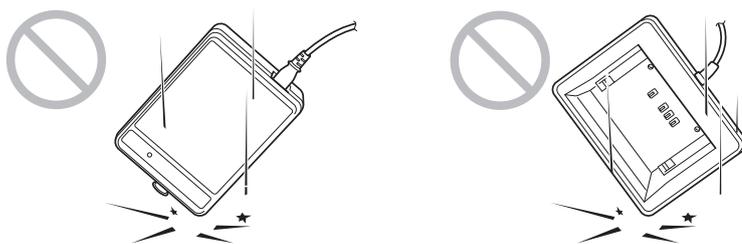
充電器の分解・改造をしないでください。



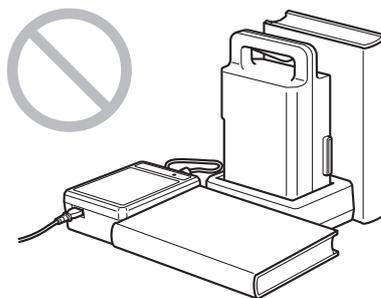
**警告**

● 間違った取扱いをすると、発熱・破裂や感電、ケガの原因になります。必ず下記事項をお守りください。

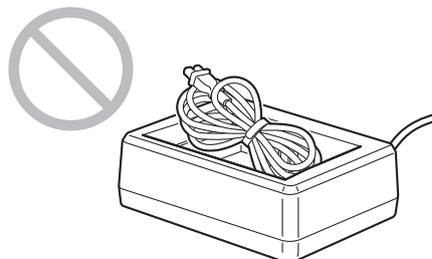
充電器を落としたり、衝撃を与えたりしないでください。



充電中は充電器の周りに物を置かないでください。  
放熱のためのスペースを確保してください。



バッテリー差込口にコード等、物を入れないでください。



バッテリーや充電器が変形していたり、いつもはしない臭いがするなど、今までとは異なることに気がついた時にはバッテリーや充電器を使わないで、取扱店に連絡してください。

肌に長時間触れさせないでください。  
充電中にバッテリー、充電器が熱くなります。そのため、肌に長時間接触していると肌が低温ヤケドする可能性があります。

# バッテリーの着脱

## 警告

- 車いす側のバッテリーシートの中が汚れていたり、濡れていたりする状態でバッテリーを差し込まない。

短絡（ショート）するおそれがあり、発熱、発火、感電の原因となります。

## 注意

- 電源を入れた状態で、バッテリーを交換しない。

接点部の破損や車いすの故障の原因となるおそれがあります。

## 注意

- バッテリーは定期的にバッテリーシートから取り外し、バッテリーシートと接点の清掃をしてください。（週1回）

走行中に車いすが止まるおそれがあります。

## バッテリーの取り付けかた

バッテリーシートのタイプによって取り扱いが異なります。

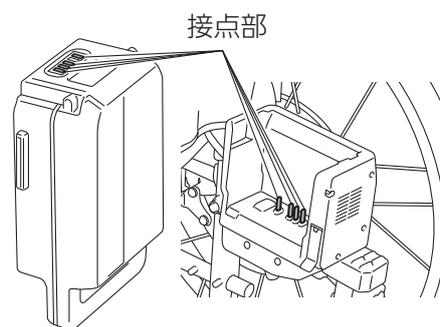
一体型バッテリーシート： **一体型**

分離型バッテリーシート： **分離型**

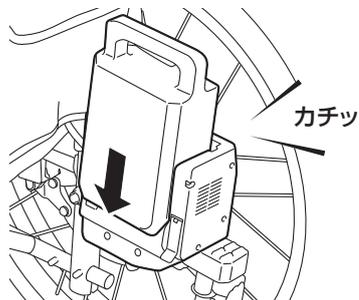
お使いのタイプがわからないとき ▶巻末 “仕様早見表”

### 一体型

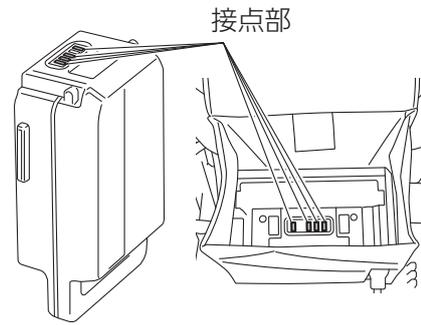
- 1 車いすの電源が切れていることを確認します。
- 2 バッテリーとバッテリーシートが濡れていないか、接点部が汚れていないかを確認します。  
水濡れや汚れがある場合は、乾いた布でふき取ってください。



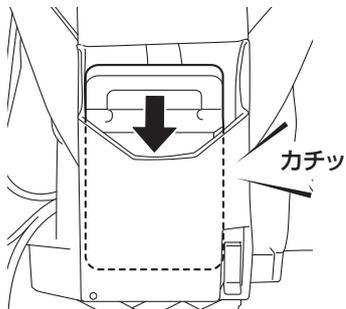
- 3 「カチッ」と音がするまでバッテリーを差し込みます。



- 1 車いすの電源が切れていることを確認します。
- 2 バッテリーとバッテリーシートが濡れていないか、接点部が汚れていないかを確認します。  
水濡れや汚れがある場合は、乾いた布でふき取ってください。



- 3 「カチッ」と音がするまでバッテリーを差し込みます。



## バッテリーの取り外しかた

バッテリーシートのタイプによって取り扱いが異なります。

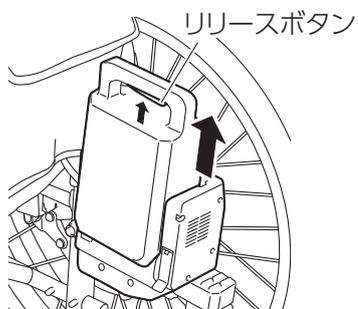
一体型バッテリーシート： **一体型**

分離型バッテリーシート： **分離型**

お使いのタイプがわからないとき ▶巻末“仕様早見表”

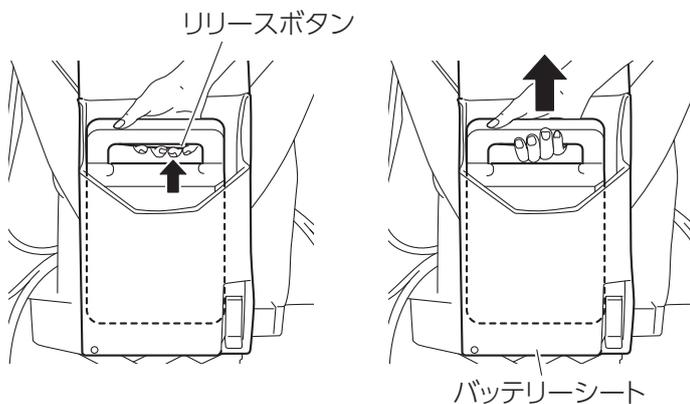
### 一体型

- 1 車いすの電源が切れていることを確認します。
- 2 リリースボタンを押しながら、まっすぐ上に引き抜きます。斜めに引き抜かないでください。



### 分離型

- 1 車いすの電源が切れていることを確認します。
- 2 リリースボタンを押しながら、バッテリーシートに手を添えてまっすぐ引き抜きます。斜めに引き抜かないでください。



# リチウムイオンバッテリー [型式: JWB3]

## 特長

- バッテリーマネジメントコントロールシステム (BMC) を内蔵しています。(マイコン内蔵型) これは充放電状況、使用状況、温度状況などをコンピューター管理するシステムです。
- メモリー効果が一般的に起きないと言われているため、リフレッシュ充電は不要で、継ぎ足し充電することが可能です。
- 水銀・カドミウムを含まない自然環境にやさしいバッテリーです。
- コンパクトで大容量です。
- 車いすで坂道を下ると内部モーターが発電を行い、充電作用が働きます。

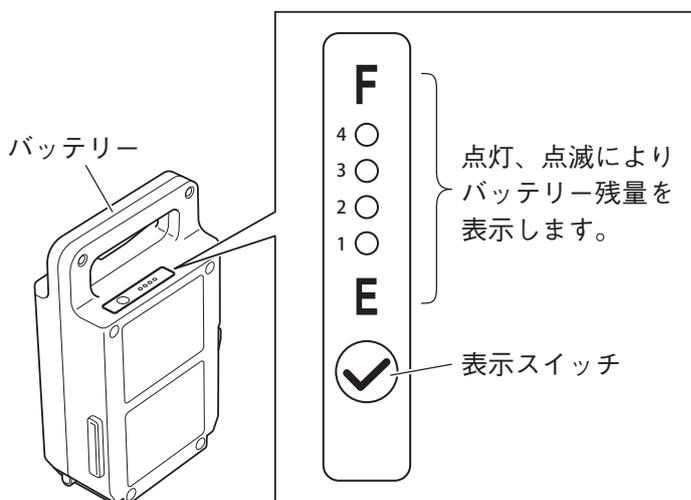
## 使い方

### ● 車いすへの取り付け、取り外し

リチウムイオンバッテリーの車いすへの取り付け、取り外しは ▶P.88 “バッテリーの取り付けかた”、▶P.90 “バッテリーの取り外しかた” をご覧ください。

### ● バッテリー残量の確認方法

表示スイッチを押すとバッテリー残量が表示されます。



75~100%



50~74%



25~49%



11~24%



1~10%



0%



○ : 消灯

◐ : 点灯

◑ : 遅い点滅

◒ : 早い点滅

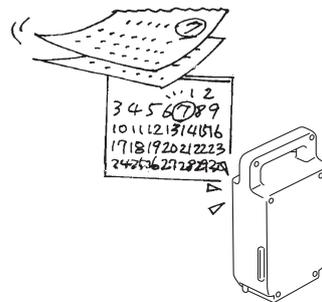
## ● バッテリーの保管方法

バッテリーを保管するときには、涼しくて乾燥した場所を選んで保管してください。(保管には気温が10℃～25℃の場所が適しています。)

長期間(30日以上)使用しないときは容量表示ランプが2つ点灯するように充電してから保管してください。

使用しないで3ヶ月以上保管する場合は、3ヶ月おきに容量表示ランプが2つ点灯になっているかを確認してください。

容量表示ランプが1つ点灯以下のときには3つ点灯になるまで充電してください。



## 特性と取り扱いについて

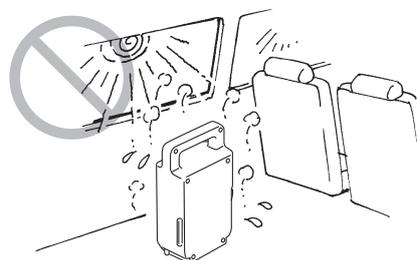
### ● 温度環境

温度環境によっては、走行できる距離が短くなる場合があります。

バッテリーの性能を生かして使うために、次のような条件で使うことをお奨めします。

車いすに取り付けて使うとき	: 気温が0℃から35℃の範囲
車いすから取り外して保管しておくとき	: 気温が10℃から25℃の範囲
充電するとき	: 気温が10℃から25℃の範囲

- 気温が高すぎたり、低すぎる場所でバッテリーを保管すると、劣化が早く進み、容量が早く減ってしまいます。
- 気温が低すぎる場所で車いすを使い続けると、劣化が早まり、容量が早く減ってしまいます。劣化については▶P.93 “バッテリーの劣化について”をご覧ください。



## 要 点

車いすの運転中、リチウムイオンバッテリーの内部温度が高過ぎる、または低過ぎる状態になると、自走用操作部の液晶表示が警告画面に変わり、ブザーが鳴ります。

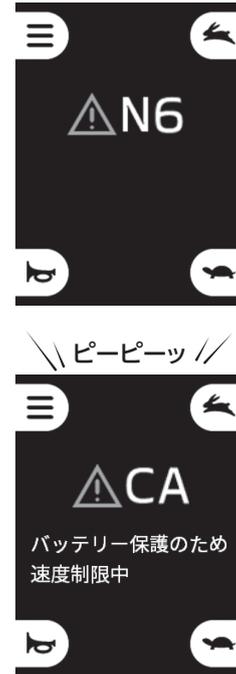
条件によっては運転中に車いすが停止する場合がありますので、下記のような状態のバッテリーを使用して運転することは避けてください。

- 直射日光があたる場所や車中などで保管して、内部温度が上がったバッテリー
- 過熱で充電を停止した直後の、内部温度が上がったバッテリー
- 気温が氷点下になるような場所で保管して、内部温度が下がったバッテリー

### ● バッテリー温度の注意喚起

バッテリー内部温度が2℃以下、または58℃以上になると液晶画面に『N6』が表示されます。

バッテリー内部温度が0℃以下または60℃以上になると『CA』が表示され、速度が1km/hに制限されます。早めに10℃～25℃程度の場所に移動してください。



### ● 車いすの停止

『CA』が表示されている状態で坂道を下るなどしてバッテリーに充電作用が働くと、バッテリー保護のため、車いすが停止する場合があります。

この場合、車いすは「ピー」というブザー音と共に停止し、液晶画面には『EC81』が表示されます。



### ● バッテリーの劣化について

バッテリーは消耗品です。バッテリーは、使うことによって、また時間が経過することによっても徐々に劣化し、容量が減少します。

劣化によって容量が減少する度合いは、使い方によって異なります。

バッテリー容量は、未使用であっても長期間保存した場合には、劣化して減少します。

複数のバッテリーを使用の際は、交互にお使いください。

## ● リチウムイオンバッテリーの最大使用期限

リチウムイオンバッテリー（JWB3）は、最初の充電開始から8年経過、積算充電容量7200Ah、またはバッテリー劣化度合い（※）が25%以下に達すると充電ができなくなります。

※バッテリー劣化度合いとは、バッテリーの劣化状況を新品に対する容量比で表したものです。

### ・長期使用のお知らせ

最初の充電開始から7年9ヶ月、積算充電容量が6900Ah、またはバッテリー劣化度合いが50%に達すると、容量表示ランプでお知らせします。

充電開始時に右図のように表示ランプが点灯し、その後容量表示をします。

このとき液晶画面に『N1』が表示されます。



矢印の順に容量表示ランプが点灯・消灯を10秒間繰り返します。

### ・使用期限に達した場合

使用期限に達した場合は、充電時充電器のランプが点灯せず、バッテリーの容量表示ランプが点灯しなくなり充電できません。

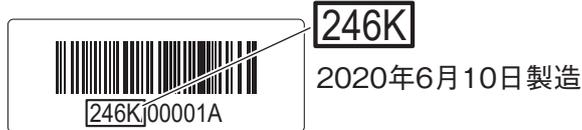
このとき液晶画面に『N2』が表示されます。



## 要 点

- リチウムイオンバッテリーを使い始めた年月日を忘れてしまったら。

バッテリー底面の番号を確認してください。



記号	年
24	2024
25	2025
26	2026
27	2027
28	2028
29	2029
30	2030
31	2031
...	...

記号	月
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9
X	10
Y	11
Z	12

記号	日	記号	日
1	1	H	17
2	2	J	18
3	3	K	19
4	4	L	20
5	5	M	21
6	6	N	22
7	7	O	23
8	8	P	24
9	9	Q	25
A	10	R	26
B	11	S	27
C	12	T	28
D	13	U	29
E	14	V	30
F	15	W	31
G	16		

- バッテリーは、工場出荷後の最初の充電日を使用開始日と認識します。  
(上記製造年月日とは一致しません。)
- 積算充電容量が7200 Ahに達した場合、またバッテリー劣化度合いが25%以下に達した場合には、8年が経過していなくても使用できなくなります。

## 要 点

バッテリーは、貴重な再生資源を含むリサイクル可能なバッテリーです。  
バッテリーのリサイクルにご協力ください。  
ご使用済みのバッテリーは取扱店で回収リサイクルしてください。

## リチウムイオンバッテリー（JWB3）の充電方法

リチウムイオンバッテリーには、バッテリーを車いすから取り外して充電する方法（卓上充電）とバッテリーを車いすに装着したまま充電する方法（車載充電）の2つの方法があります。

### ● 充電時間

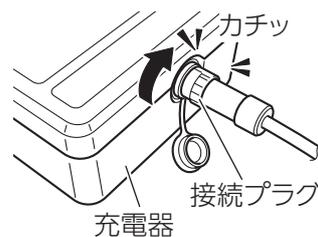
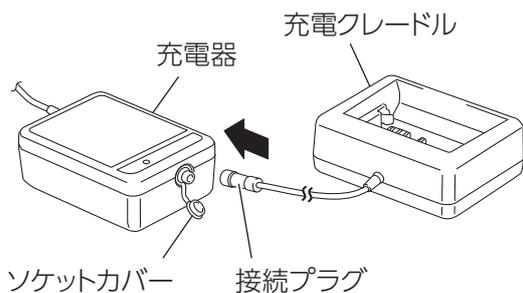
充電時間：5時間（バッテリーを空の状態から充電する場合）

## ● 卓上充電のしかた

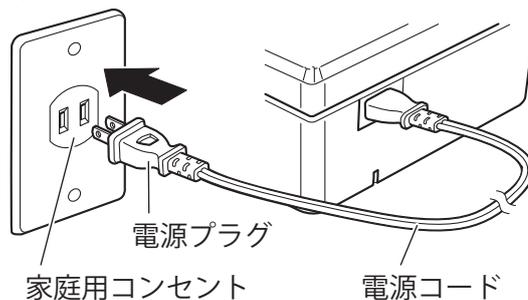
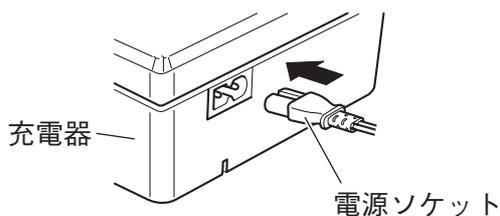
- 1 充電器のソケットカバーを外して、充電クレードルの接続プラグを充電器に接続してください。

### 要点

接続プラグは充電器に差し込み、図のようにプラグを「カチッ」と音がするまで回し、ロックしてください。



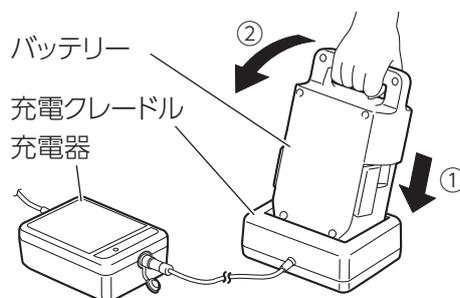
- 2 電源ソケットを充電器に差し込み、電源プラグを家庭用コンセントに接続してください。



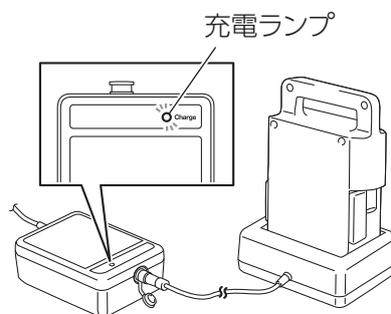
- 3 バッテリーを充電器に図のように差し込んでください。

### 要点

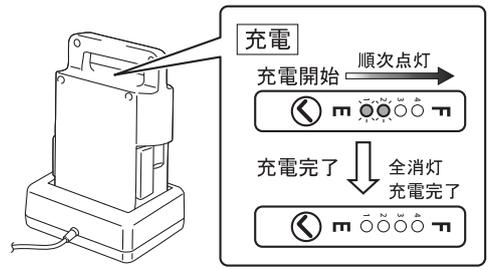
右図①のようにバッテリーを斜めにして、ツメをガイドに沿わせて差し込み、②の方向に起こしながらバッテリーを確実に接続してください。



- 4 充電器の充電ランプが緑色に点灯し、充電器の充電が自動的に始まります。



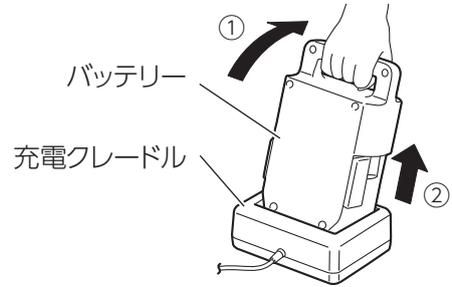
- 5 充電中は、充電状態をバッテリーの容量表示ランプで確認することができます。  
充電が終わると容量表示ランプが消えます。  
充電開始から完了までにかかる時間は、バッテリーが空の状態から充電を始めたとして、通常5時間前後です。



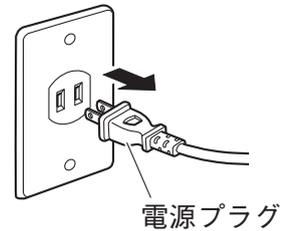
- 6 バッテリーを充電器から図のように抜いてください。

**要点**

右図①のようにバッテリーを傾けてから、バッテリーを斜めの方向②に引き上げてください。  
バッテリーを傾けずに垂直に引き上げると充電クレードルとバッテリーが分離せず、一緒に持ち上がってしまいます。



- 7 充電プラグおよび電源プラグを抜き、充電器のソケットカバーをしっかりとめてください。



**注意**

- 電源コードを引っ張って抜かないでください。断線の原因になります。

● **車載充電のしかた (別売)**

バッテリーシートのタイプによって取り扱いが異なります。

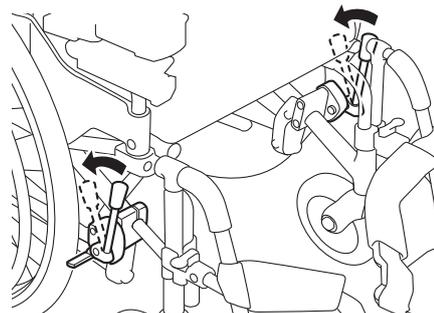
一体型バッテリーシート： **一体型**

分離型バッテリーシート： **分離型**

お使いのタイプがわからないとき ▶ **巻末** “仕様早見表”

**一体型**

- 1 充電の準備をします。  
背もたれの荷物やバックなど充電ケーブルがひっかかるおそれがあるものをあらかじめ取り除いてください。  
室内の平坦な場所に車を置き、駐車ブレーキをかけてください。



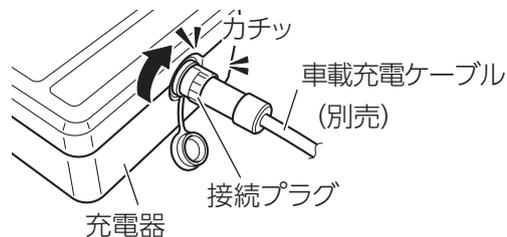
- 2 車いすの電源を切ってください。  
危険防止のために車載充電中はボタンを操作しても電源は入りません。



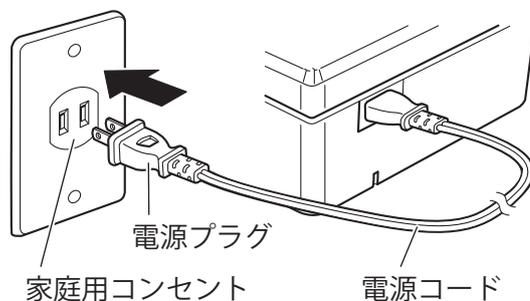
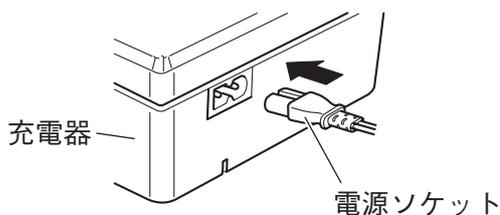
- 3 充電器のソケットカバーを外して、車載充電ケーブル（別売）の接続プラグを充電器に接続してください。

**要 点**

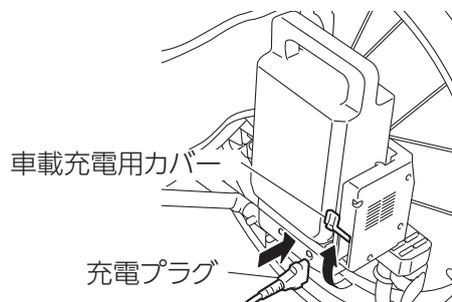
接続プラグは充電器に差し込み、図のようにプラグを「カチッ」と音がするまで回してください。



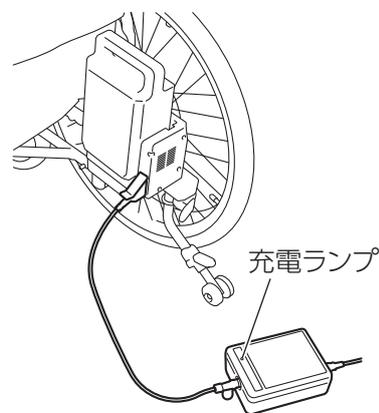
- 4 充電ソケットを充電器に差し込み、電源プラグを家庭用コンセントに接続してください。



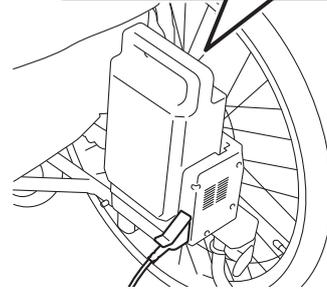
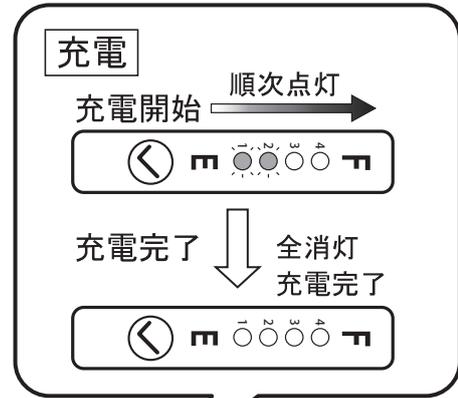
- 5 バッテリーシートの車載充電用カバーを開け、充電ケーブルの充電プラグを接続してください。



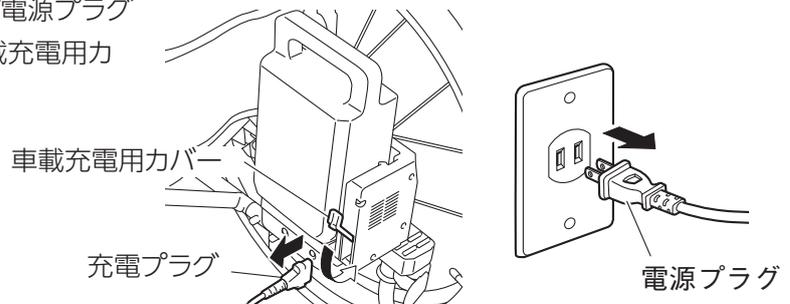
- 6 充電器の充電ランプが緑色に点灯し、充電器の充電が自動的に始まります。



- 7 充電中は、充電状況をバッテリーの容量表示ランプで確認することができます。  
充電が終わると容量表示ランプが消えます。  
充電開始から完了までにかかる時間は、バッテリーが空の状態から充電を始めたとして、通常5時間前後です。

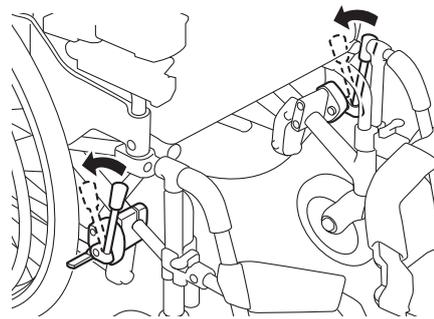


- 8 充電完了後、充電プラグおよび電源プラグを抜き、バッテリーシートの車載充電用カバーをしっかりと閉めてください。



## 分離型

- 1 充電の準備をします。  
背もたれの荷物やバックなど充電ケーブルが引っかかるおそれがあるものをあらかじめ取り除いてください。  
室内の平坦な場所に車いすを置き、駐車ブレーキをかけてください。



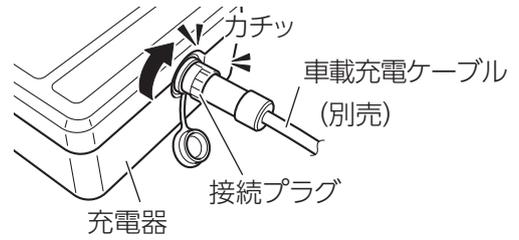
- 2 車いすの電源を切ってください。  
危険防止のために車載充電中はボタンを操作しても電源は入りません。



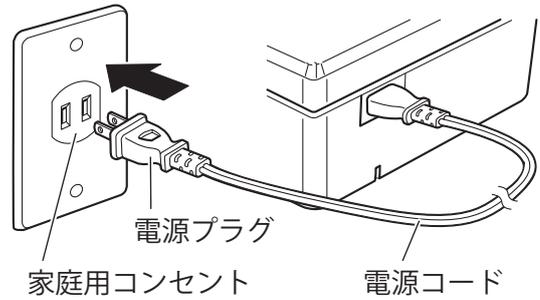
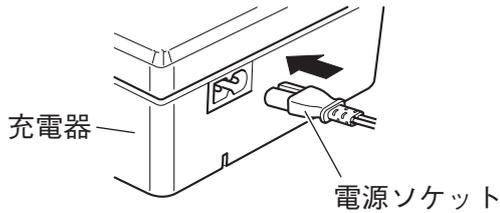
- 3 充電器のソケットカバーを外して、車載充電ケーブル（別売）の接続プラグを充電器に接続してください。

**要 点**

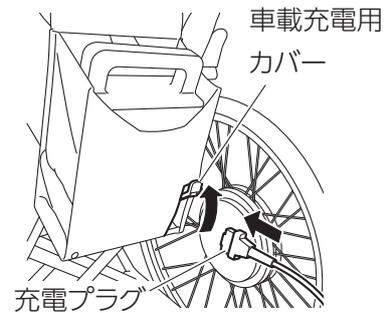
接続プラグは充電器に差し込み、図のようにプラグを「カチッ」と音がするまで回してください。



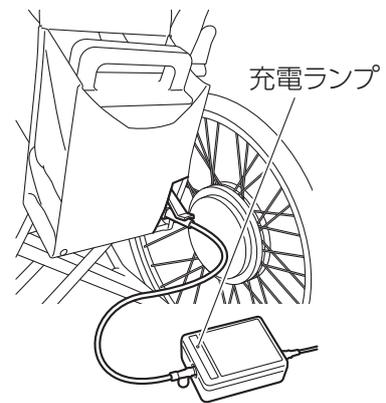
- 4 充電ソケットを充電器に差し込み、電源プラグを家庭用コンセントに接続してください。



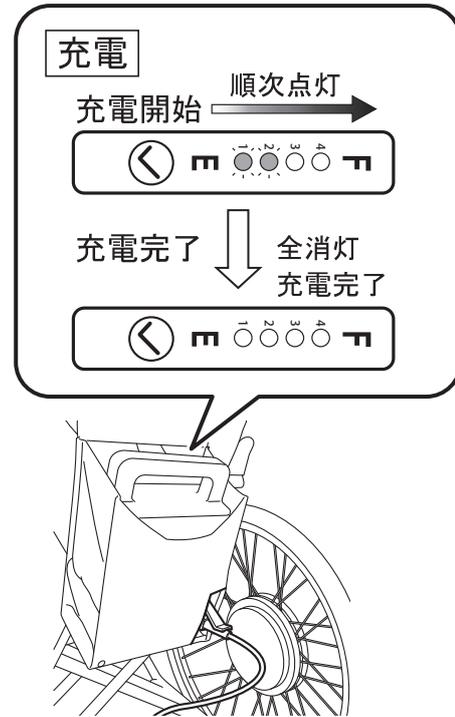
- 5 バッテリーバッグを開き、バッテリーシートの車載充電カバーを開けて、充電ケーブルのプラグを接続してください。



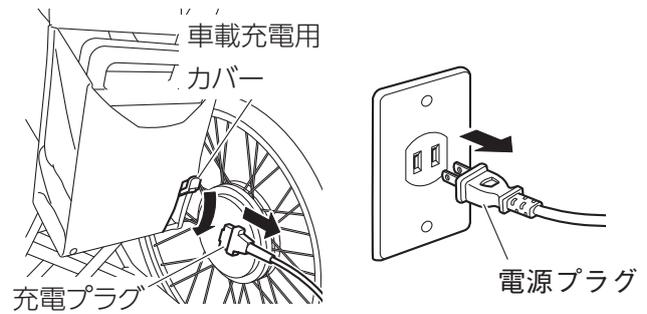
- 6 充電器の充電ランプが緑色に点灯し、充電器の充電が自動的に始まります。



7 充電中は、充電状況をバッテリーの容量表示ランプで確認することができます。  
 充電が終わると容量表示ランプが消えます。  
 充電開始から完了までにかかる時間は、バッテリーが空の状態から充電を始めたとして、通常5時間前後です。



8 充電完了後、充電プラグおよび電源プラグを抜き、バッテリーシートの車載充電用カバーをしっかりと閉めてください。



### 注意

- 電源コードを引っ張って抜かないでください。断線の原因になります。

### 要点

充電できない時は

- ・▶P.115 “こんなときは” を参照してください。

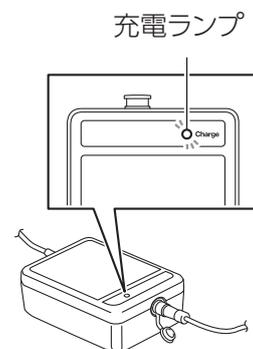
## ● 充電に適した温度

充電は、気温が10℃～25℃の環境で行ってください。

- バッテリーの保護のため、バッテリーの内部温度が0℃以下または45℃以上のときには充電を始めずに待機状態になります。このとき、充電ランプは緑色に点滅しています。

待機状態のときにバッテリーの温度が適温になると、充電ランプは緑色の点滅から緑色の点灯に変わり、自動的に充電が始まります。（待機時間の長さは条件により異なります。）

- 充電中にバッテリー温度が上昇し70℃を超えるとバッテリーの保護のために、充電が強制終了します。この場合、充電は完了していませんのでバッテリー温度が下がってからもう一度充電してください。

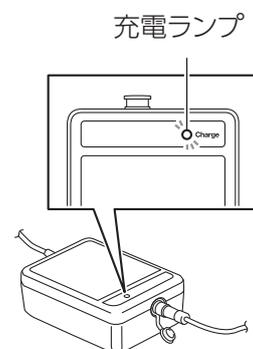


## 充電器（JWC4）表示ランプ

充電器には、充電ランプがあり

充電ランプの色、点灯、点滅によりバッテリーや充電状態を示します。

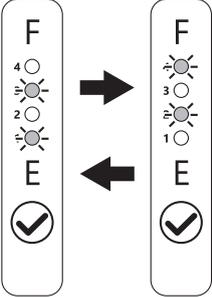
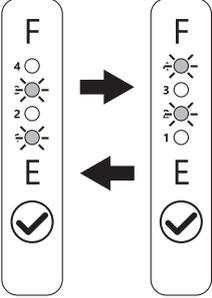
ランプの表示については、以下の表で説明しています。

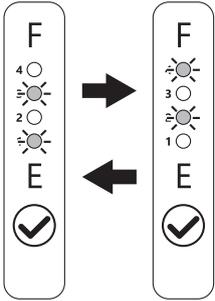


### 要 点

- 充電中に周囲温度が変化すると、スタンバイモード（充電待機）が作動して、充電表示ランプが（1秒に1回）緑色に点滅することがあります。スタンバイモードの場合、充電は開始されません。充電に適した温度になると、充電表示ランプは緑色の点滅から点灯に変わり、充電が自動的に再開されます。
- スタンバイ状態が長く続くと、（1秒間に1回）の速さで黄色に点滅し始め、充電動作が終了します。このような場合、充電プラグと電源プラグを取り外してください。▶P.95 “リチウムイオンバッテリー（JWB3）の充電方法”に従って充電器を取り付けなおし、再度バッテリーを充電してください。

## リチウムイオンバッテリー（JWB3）充電時

充電器ランプ表示	バッテリー容量表示ランプ	説明
<p>■ 充電ランプ（緑）が点灯</p>  <p>充電ランプ（緑）</p>	 <p>↑ 続けてオン</p>	<p>正常に充電されていることを示します。 充電が完了すると、充電ランプが消灯します。</p>
<p>■ 充電ランプ（緑）が点滅 （1秒に1回）</p>  <p>充電ランプ（緑）</p>	 <p>全灯点滅</p>	<p>充電待機中を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• バッテリーの温度が充電可能範囲内（0℃～45℃）にない場合、充電器が待機状態になり、充電ランプ（緑）が点滅し始めます。</li> <li>• 待機中にバッテリーの温度が充電可能範囲内になると、充電が自動的に再開され、充電ランプ（緑）が点滅から点灯に変わります。</li> </ul>
<p>■ 充電ランプ（黄）が点滅 （1秒に1回）</p>  <p>充電ランプ（黄）</p>	 <p>1と3 ↓ 2と4 交互点灯</p>	<p>待機状態のタイムアウトを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 充電器が長時間待機状態のままになり、バッテリーの充電を停止しました。バッテリーの温度が下がるのを待ち、充電に適した温度環境で再度バッテリーを充電してください。</li> <li>• 充電待機の状態が12時間を超えるとタイムアウトとなり、充電を停止します。</li> </ul>
<p>■ 赤く点灯</p>  <p>充電ランプ（赤）</p>	 <p>1と3 ↓ 2と4 交互点灯</p>	<p>充電器の異常検出を示します。 電源プラグを抜いて充電を中止し、バッテリー、充電器、コードの接続などに異常がないかを確認してから再度充電してください。 再び充電ランプが赤色に点灯する場合は、機器の故障が考えられます。 電源プラグを抜いて充電を中止し、ご購入店または取扱店に相談してください。</p>

充電器ランプ表示	バッテリー容量表示ランプ	説明
<p>■ 赤く点滅</p>  <p>充電ランプ (赤)</p>	 <p>1と3 ↓ 2と4 交互点灯</p>	<p>充電器とバッテリーの通信異常を示します。 充電器とバッテリーの端子を確認し、乾いた布などで清掃し、再度充電してください。 再び充電ランプが赤色に点滅する場合は、機器の故障が考えられます。 電源プラグを抜いて充電を中止し、ご購入店または取扱店に相談してください。</p>
<p>■ 黄色に点灯</p>  <p>充電ランプ (黄)</p>	 <p>1と4点滅</p>	<p>バッテリーの異常検出を示します。 電源プラグを抜いて充電を中止し、バッテリー、充電器、コードの接続などに異常がないかを確認してから再度充電してください。 再び充電ランプが黄色に点灯する場合は、機器の故障が考えられます。 電源プラグを抜いて充電を中止し、ご購入店または取扱店に相談してください。</p>

# 7 運搬、手入れ、保管

車いすを車などに載せて運ぶときや、長期間使用しないときは、手順を守って正しく取り扱ってください。  
取り外したバッテリーの取り扱いや長期保管について ▶P.83 “バッテリーと充電器の取り扱いについて”

## 警告

- 車いすを持ち上げるときは、バッテリー、自走用操作部、車いすのケーブルやコードなどを持たない。  
車いすから機器が外れ、けがや機器の損傷の原因となります。

## 注意

- 車いす本体に衝撃を与えたり、落としたりしない。  
ユニット部、操作部、バッテリーなどの破損の原因となります。

# 自動車などへの積載

この章では、本製品が装着された車いすを自動車などへ積載する場合の手順を説明します。本製品が装着された車いすの取扱説明書と合わせてお読みください。車いすに対応した福祉車両を使用する場合は、福祉車両の取扱説明書をご確認ください。

## 注意

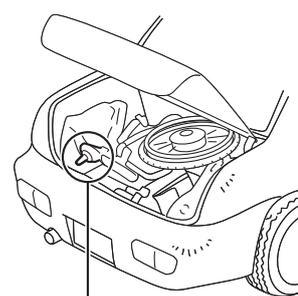
- バッテリーや車いすを運搬するときは、高温になる場所や直射日光が当たる場所に置かない。  
故障やバッテリーの劣化を早める原因となります。

## 車いすの積み込みかた

- 1 車いすを平坦な場所に停め、電源を切ります。
- 2 左右の駐車ブレーキがかかっていること、クラッチレバーが電動側にあることを確認します。
- 3 バッテリーを取り外します。
- 4 車いすのフレーム部分を両手で持って、立てた状態で積み込みます。
- 5 揺れたり、周囲のものに当たったりしないように、クッションなどの緩衝材やベルトを使って固定します。

### 要点

やむを得ず横にして載せる場合は、自走用操作部が上になる向きに寝かせ、自走用操作部が周囲のものに当たらないように固定してください。



自走用操作部が上側

---

## 車いすの降ろしかた

- 1 | 車いすのフレーム部分を両手で持って、平坦な場所に降ろします。
- 2 | 転倒防止バーが外に出た位置でロックされていることを確認します。

# 航空機での取り扱い

航空機を利用する場合、航空会社によって電動車いすの取り扱いが異なる場合があります。電動車いすを使用することを事前に連絡し、航空会社の指示にしたがってください。

特にバッテリーは、荷物としての預け入れや機内への持ち込みが制限されることがあります。必ず事前に航空会社へご相談ください。

お使いの電動車いすとバッテリーについて、航空会社には必要に応じて下記の仕様をお伝えください。

## ● リチウムイオンバッテリー（ラベルに『Li-ion』と表示）

型式 JWB3

電圧 36V

容量 6.45Ah

種類 マイコン内蔵乾式密閉型（ドライタイプ）

### 要 点

旅行などの一時的な場合も含め、本製品を海外でご使用いただく場合は、サービスサポートの対象外とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

# 車いすのお手入れ

## 注意

- **ホースで直接水をかけて洗ったり、スチーム洗浄したりしない。**

電子機器を傷め、故障の原因となります。

- **ガソリンやシンナーなどの溶剤でふかない。**

塗料や樹脂部分を傷めるおそれがあります。

## 電動ユニットの手入れ

### ● 泥や汚れ

日常的な軽微な汚れは、よく絞った布でふき取ってください。

### ● 水濡れ

濡れた箇所は、水分をふき取って乾燥させてください。

### ● 洗剤の使用

洗剤を使用する場合は、中性洗剤を水で薄め、浸した布をよく絞ってからふいてください。

### ● 消毒

本製品を除菌する際は、用途に応じたアルコール系除菌剤をご使用ください。ご使用の際は、消毒剤のメーカーの指示に従い、放置時間、濃度等をご確認の上、タオルに消毒剤を含ませて拭き取ってください。消毒後はきれいな水に浸したタオルをよく絞り、絞ったタオルで残りのアルコールを拭き取ってください。

## 注意

- **バッテリーは定期的にバッテリーシートから取り外し、バッテリーシートと接点の清掃をしてください。  
(週1回)**

走行中に車いすが止まるおそれがあります。

# 車いすの保管

## 警告

- **保管中は、必ず車いすからバッテリーを取り外す。**

不意に電源が入り車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。  
湿気などで絶縁不良となり、発熱、発火の原因となります。

## 注意

- **保管中は、必ず車いすからバッテリーを取り外す。**

バッテリーの劣化を早める原因となります。

- **濡れたままや汚れが付着したままで長期間保管しない。**

故障の原因となります。

- **雨に濡れる場所や湿度の高い場所に保管しない。**

故障の原因となります。

- **高温になる場所や直射日光が当たる場所に保管しない。**

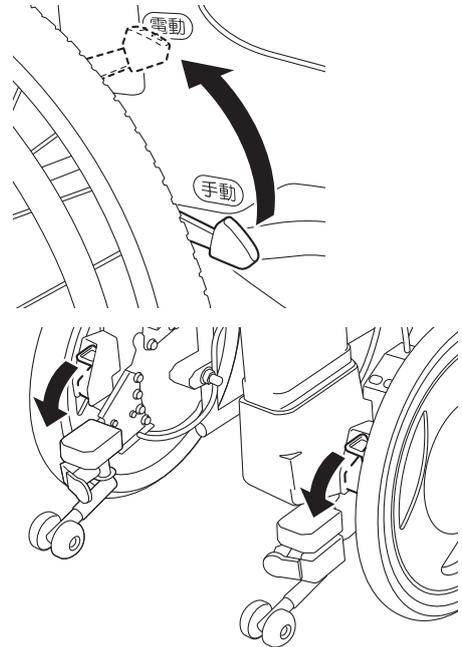
故障やバッテリーの劣化を早める原因となります。

## 保管のしかた

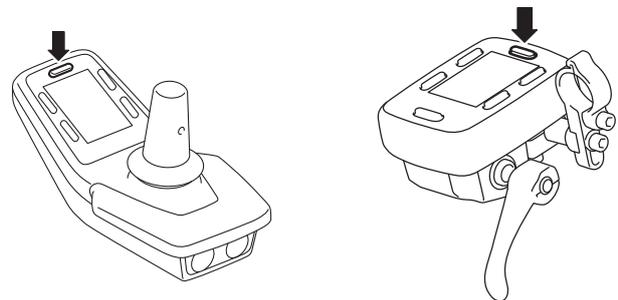
本製品を長期間使用しないときは、下記の状態であることを確認し、屋内の湿気が少ない場所に保管してください。

また、本製品が装着された車いすの取扱説明書と合わせてお読みください。

### ◀ クラッチレバーが電動側にある



### ◀ 電源を切っている



### ◀ バッテリーを取り外してある

取り外したバッテリーの長期保管に関しては、下記を参照し、正しく取り扱ってください。

▶P.92 “バッテリーの保管方法”

### ◀ 水濡れや汚れがない

水滴や汚れはふき取ってから保管してください。 ▶P.109 “車いすのお手入れ”



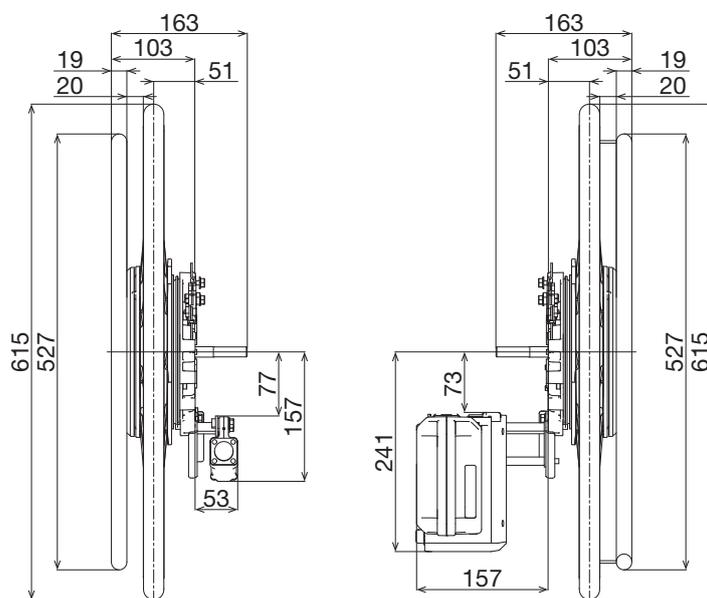
# 8 寸法、仕様諸元

この章では、電動ユニットの仕様諸元を記載しています。

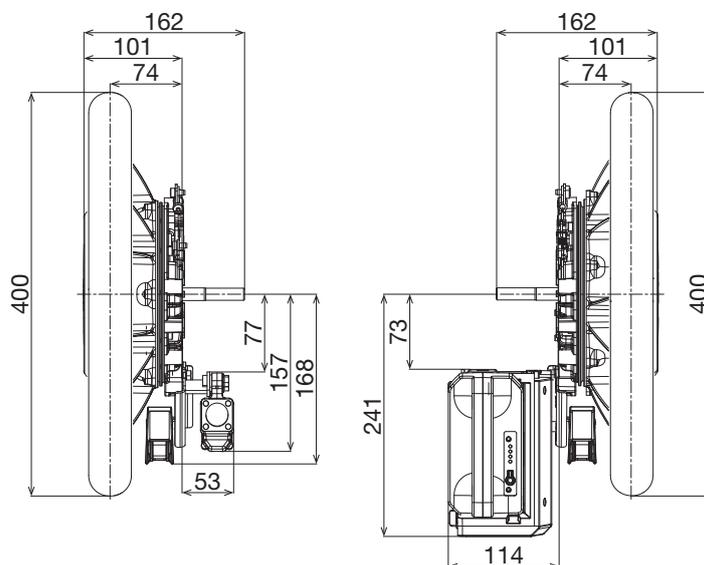
## 寸法 (単位: mm)

### JWG-1 (20 / 22 / 24インチ)

タイヤとハンドリムの外径寸法はタイヤサイズによっても異なります。下記の図では24インチ仕様の数値を表示しています。



### JWG-1 (16インチ)



# 仕様諸元

機種		車いす用電動ユニット			
		JWG-1			
重量	バッテリー含む	17.5kg	18.0kg	18.3kg	18.8kg
	バッテリー含まない	15.1kg	15.6kg	15.9kg	16.4kg
タイヤ	後輪	16インチ	20インチ	22インチ	24インチ
	タイヤサイズ	47-305 (16×1.75)	37-451 (20×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub> )	37-501 (22×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub> )	37-540 (24×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub> )
	空気圧	345kPa (3.5kg/cm <sup>2</sup> ,50PSI)	420kPa (4.2kg/cm <sup>2</sup> ,60PSI)	450kPa (4.5kg/cm <sup>2</sup> , 65PSI)	
バッテリー (マイコン内蔵型)	リチウムイオン (JWB3)	(36V 6.45Ah)×1個 (5時間率)			
充電器 (JWC4)	リチウムイオンバッテリー (JWB3) 充電時	定格出力42V 1.6A マイコン制御による自動充電			
駆動モーター (ACサーボモーター)		36V 150W×2			
駆動方式		後輪直接駆動			
制動方式		電磁ブレーキ+モーター回生制動			
操舵方式		ジョイスティック操舵			
制御方式		マイクロコンピューター制御			
走行距離 <sup>注1</sup>		リチウムイオン使用時		20Km	25km
最高速度 <sup>注4</sup>	自走操作	前進	第一速	0.9km/h・1.1km/h	0.9km/h・1.2km/h
			第二速	1.8km/h・2.3km/h	1.8km/h・2.4km/h
			第三速	2.7km/h・3.4km/h	2.7km/h・3.5km/h
			第四速	3.6km/h・4.6km/h	3.6km/h・4.7km/h
			第五速	4.5km/h・5.7km/h	4.5km/h・5.9km/h
		後進	第一速	0.5km/h・0.6km/h	0.5km/h・0.6km/h
			第二速	0.9km/h・1.1km/h	0.9km/h・1.2km/h
			第三速	1.4km/h・1.7km/h	1.4km/h・1.8km/h
			第四速	1.8km/h・2.3km/h	1.8km/h・2.4km/h
			第五速	2.3km/h・2.9km/h	2.3km/h・3.0km/h
最高速度	介助操作	前進	第一速	1.1km/h	1.2km/h
			第二速	2.3km/h	2.4km/h
			第三速	3.4km/h	3.5km/h
			第四速	4.6km/h	4.7km/h
			第五速	5.7km/h	5.9km/h
		後進	第一速	0.6km/h	0.6km/h
			第二速	1.1km/h	1.2km/h
			第三速	1.7km/h	1.8km/h
			第四速	2.3km/h	2.4km/h
			第五速	2.9km/h	3.0km/h
耐荷重		160kg <sup>注2</sup>			
実用登坂角度		6° (勾配 約10%) <sup>注3</sup>			

注1： ISO 7176-4：2008 による測定方法 (速度6km/h、バッテリー新品、気温18～25℃、乗員100kg)

注2： JWG-1ユニットの耐荷重は160kg (乗員、荷物、フレーム重量を含む) ですが、詳細はフレーム強度も含め車いすメーカーにご確認ください。

注3： 転倒防止バーを下記の条件で調整した場合の値です。

・キャスターと後輪が地面に接している状態で転倒防止バー先端の補助輪は地面から35～50mmの高さであること

・後輪の車軸中心から転倒防止バー先端の補助輪の中心までの距離が245mm以上であること

車いすメーカーが設定する実用登坂角度が優先されますので、車いすメーカーにご確認ください。

注4： 最高速度は仕様諸元に基づきます。

## 9 こんなときは

この章では、機能や設定の変更に関する情報と、お困りの場合の対処方法などについてまとめています。わからないこと、解決できないことがありましたら、取扱店にお問い合わせください。

# 設定変更

本製品は、専用ソフト『JW Smart Tune』によって、車いすに乗る人の身体の具合や使いかたに合わせて設定を変更できます。

設定変更は、理学療法士や作業療法士など専門家の指導に基づいて、取扱店にて行なってください。

## 走行パラメーター

加速のしやすさやジョイスティックの反応具合など、運転に関わる設定です。

### 速度や加速度

例えば…

- ・ 前進するときにはゆっくり加速したい
- ・ もう少し早く向きを変えられるようにしたい

### ジョイスティックの感度

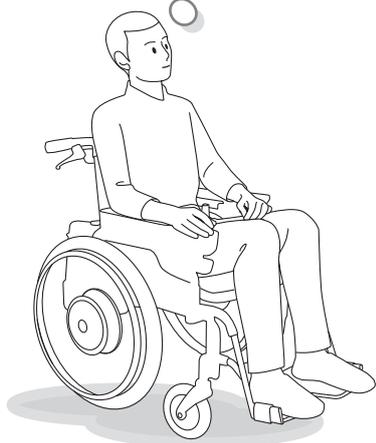
例えば…

- ・ 最高速度が出る傾け具合を変えたい
- ・ 手先のブレに反応しないようにしたい

### ジョイスティックの入力方向

例えば…

- ・ 後進のときにジョイスティックを傾ける向きを変えたい



JW Smart Tune  
で

**解決**

速度のでかた、加減速の具合、  
ジョイスティックの入力を検知する範囲などを

お乗りの方に合わせて変更することができます

---

## 機能パラメーター

液晶表示の明るさや、操作音など操作に付随する各機能の設定です。

### ● オートパワーオフ機能

- 設定1： ジョイスティックを10分間操作しないでいると、電源が切れます。(初期設定)
- 設定2： ジョイスティックを60分間操作しないでいると、電源が切れます。
- 設定3： 自動的に電源が切れません。

### ● 電磁ブレーキのタイミング

- 設定1： 車いすが停止してから10秒後に電磁ブレーキが作動します。(初期設定)
- 設定2： 車いすが停止してすぐに電磁ブレーキが作動します。

### ● バッテリー表示

- パターン1  
100→95→90→ (全て5%刻み) →10→5→1→0
- パターン2  
100→80→70→60→50→45→40→ (以下5%刻み) →10→5→1→0

# 故障と思ったら

故障などの症状と対処をまとめています。

ご自身で解決できない場合は、取扱店へ相談、修理の依頼をしてください。

## エラーコード・液晶表示一覧

表示	ブザー	表示される条件	表示時の車いすの状態	対処方法、説明
		電源スイッチがONでクラッチレバーが手動側にある状態。		クラッチレバーを電動側にしてください。解消されない場合は故障の可能性があります。取扱店にご相談ください。
	ピピッ (4回繰り返し)	電動走行中にクラッチが切れた場合。	少し動いて停止する。	クラッチレバーを電動側にしてください。 解消されない場合は故障の可能性があります。取扱店にご相談ください。
 	ピー	ジョイスティック、電源ボタン以外のボタンまたはアクセルレバーを操作しながら電源を入れる。	走行しない。	ジョイスティック、電源ボタン以外のボタン、またはアクセルレバーを触らずに電源を入れなおしてください。解消されない場合は故障の可能性があります。取扱店にご相談ください。
 	ピッピー (繰り返し)	転倒防止バーが折りたたまれている。	そのまま走行できる。	転倒防止バーを出してください。 両方の転倒防止バーが外に出てロックされると、警告表示が解除されます。
	ピー_ピー_ ピー… (消えるまで繰り返し)	モーターに過大な負荷がかかる。	そのまま走行できる。	上り坂の走行や重い荷物の積載を避けるなどして、負荷を軽くしてください。負荷が軽くなると、警告表示が解除されます。

表示	ブザー	表示される条件	表示時の車いすの状態	対処方法、説明
	ピッピッピッ (繰り返し)	モーターに負荷が掛かり、内部温度が上昇する。	モーター出力が制限される。	上り坂の走行や重い荷物の積載を避けるなどして、負荷を軽くしてください。 電源を切り、モーターの温度が下がってから電源を入れなおすと、警告表示が解除されます。
	ピッピッピッ (繰り返し)	バッテリーが低温または高温になる。	モーター出力が制限される。	適切な温度環境で車いすをご使用ください。 <b>▶ P.92</b>
	ピーピー… (繰り返し)	モーターに負荷が掛かる。	そのまま走行できる。	上り坂の走行や重い荷物の積載を避けるなどして、負荷を軽くしてください。 負荷が軽くなると、警告表示が解除されます。
	ピッピッ… (繰り返し)	一定時間モーターに高い負荷が掛かる状態が維持される。	モーター出力が制限される。	高い負荷が連続する走行はしないでください。 負荷が軽くなると、警告表示が解除されます。
	ピーツ (2.5秒間)	モーターに過大な負荷がかかる。	停止する。	高い負荷が連続する走行はしないでください。再起動してください。
	ピー	W3が続けて発生する。	停止する。	電源を切り、電源を入れなおすと、警告表示が解除されます。
				
	ピーピーツ _ ピーピーツ… (消えるまで繰り返し)	回生電流が閾値を超える。	速度を制限する。	急坂の降坂や重い荷物の積載を避けるなどして、負荷を軽くしてください。

表示	ブザー	表示される条件	表示時の車いすの状態	対処方法、説明
	ピーピーツ… (消えるまで繰り返し)	バッテリーの内部温度が通常範囲を超える。	速度が1km/hに制限される。	適切な温度環境で車いすをご使用ください。 ▶P.92
	ピー (5回消えるまで15秒ごとに)	バッテリー残量注意。	そのまま走行できる。	速やかにバッテリーを充電または交換してください。
操作部によるロック  アプリによるロック 		盗難防止機能が作動している。	走行しない。	盗難防止機能を解除してください。▶P.34
	ピーツ (2.5秒間)	電子部品に異常がある。		取扱店にご相談ください。
	ピーツ (2.5秒間)	握込み緊急停止機能が作動する。	停止する。	握込み緊急停止機能が作動しました。介助操作レバーから手を離してください。
		バッテリーとの通信不良。		バッテリーをバッテリーシートから取り外し、バッテリーシートと接点の清掃をしてください。解消されない場合は故障の可能性があります。取扱店にご相談ください。

## 走行時

こんなとき	確認してください	対処方法、説明
ジョイスティック 操作に反応しな い、電源が入ら ない	バッテリーが正しく差し込まれて いますか。	バッテリーを差し込みなおしてください。
	オートパワーオフ機能で電源が 切れたままになっていませんか。	電源を入れなおしてください。
	介助用操作部の電源がONに なっていませんか。	介助用操作部の電源をOFFにしてください。
スピードが出な い、パワー不足	速度切替ボタンで速度設定を下 げていませんか。	速度設定を上げてください。
	駐車ブレーキがかかったままに なっていませんか。	駐車ブレーキを解除してください。
	バッテリーが冷えていませんか。	適切な温度環境でご使用ください。 リチウムイオンバッテリーをご使用の場合 ▶P.92
	速度や加速度に関する設定変更 をしていませんか。	取扱店にご相談ください。
走行距離が短い	バッテリーが十分に充電されて いますか。	バッテリーを充電または交換してください。 ▶P.95
	バッテリーが劣化していませ んか。	バッテリーを交換してください。
	上り坂の運転が多かったり、重 い荷物を載せたりして運転して いませんか。	上り坂の走行や重い荷物の積載を避けるなどして、 負荷を軽くしてください。
	タイヤの空気圧が下がっていま せんか。	適正空気圧にしてください。 20 / 22 / 24インチをご使用の場合 ▶P.45 16インチをご使用の場合 ▶P.46
手動操作が重い	タイヤの空気圧が下がっていま せんか。	適正空気圧にしてください。 20 / 22 / 24インチをご使用の場合 ▶P.45 16インチをご使用の場合 ▶P.46
	駐車ブレーキがかかったままに なっていませんか。	駐車ブレーキを解除してください。

こんなとき	確認してください	対処方法、説明
<b>自走用操作部の 操作音がしない</b>	ミュート設定をしていませんか。	ミュート設定を解除してください。 ▶ P.33
<b>振動や異音が する</b>	車軸取り付け部が緩んでいませんか。	取扱店にご相談ください。
	車いすフレームやキャストに グラつきはありませんか。	取扱店にご相談ください。
	異音が駆動部から出ていませんか。	取扱店にご相談ください。

## 介助操作時

こんなとき	確認してください	対処方法、説明
アクセルレバーが反応しない	オートパワーオフ機能で電源が切れたままになっていませんか。	電源を入れなおしてください。
	自走用操作部の電源がONになっていませんか。	自走用操作部の電源をOFFにしてください。
ブレーキの効きが悪い	ブレーキレバーの遊びが大きくなっていませんか。	取扱店にご相談ください。
	左右のブレーキの効きが不均等になっていませんか。	取扱店にご相談ください。
ブレーキをかけると音が出る	長時間ブレーキをかけ続けていませんか。	ブレーキのかけ具合によって音が出る場合があります。 音がひどい場合は取扱店にご相談ください。
		ブレーキ機構内部が磨耗、損傷している可能性があります。 取扱店にご相談ください。

## 充電時

こんなとき	充電器LED	バッテリー LED	確認してください	対処方法、説明
充電されない	消灯	消灯	電源コード、充電プラグは接続されていますか？	接続してください。
	消灯	消灯	他のバッテリーは充電できますか？	充電できる場合、充電器は正常です。充電できない場合、充電器が故障している可能性があります。故障に関しては、ご購入店または取扱店にお問い合わせください。
	黄色に点滅 (1秒に1回)	消灯		待機状態が長く続いたため、充電を停止しています。バッテリー温度が下がるのを待ってから、再度充電してください。
	赤色に点滅 (1秒に1回)	消灯	他のバッテリーは充電できますか？	充電器とバッテリーの通信異常を示します。充電器とバッテリーの端子を確認し、乾いた布などで清掃し、再度充電してください。再び充電ランプが赤色に点滅する場合は、機器の故障が考えられます。電源プラグを抜いて充電を中止し、ご購入店または取扱店にお問い合わせください。
	赤色に点灯	消灯		充電器が故障している可能性があります。電源プラグを抜き、バッテリーの充電を停止して、販売店にお問い合わせください。
	黄色に点灯	消灯		バッテリーが故障しているまたはバッテリーが使用期限に達している可能性があります。電源プラグを抜き、バッテリーの充電を停止して、ご購入店または取扱店にお問い合わせください。

こんなとき	充電器LED	バッテリー LED	確認してください	対処方法、説明
待機状態が長引く	緑色に点滅 (1秒に1回)	残容量表示ランプが全点滅	バッテリーの温度は適切ですか？	これは、故障を示すものではありません。バッテリーが適切な温度に達するまでお待ちください。
途中で充電が停止する	黄色に点滅 (1秒に1回)	1と3 ↓ 2と4 交互点灯	周囲の温度は適切ですか？	適切な温度環境でバッテリー温度が下がってからもう一度充電してください。
充電器から異臭がする	ランプ表示は、状況によって異なる	残容量表示ランプが点灯		初回使用時からしばらくは臭気が発生する場合がありますが、徐々に臭わなくなります。継続的に臭気を感じる場合は、充電器が故障している可能性がありますので、ご購入店または取扱店にお問い合わせください。

# よくある質問

お客様からよく寄せられる質問と、その回答を一部記載します。最新の情報は、ヤマハ発動機電動車いすのウェブサイト（下記URL）からご確認いただくことができます。

<https://www.yamaha-motor.co.jp/wheelchair/qa/>



---

## バッテリーについて

**Q** バッテリーを使わずに保管しておいて大丈夫ですか？

**A** バッテリーは消耗品です。  
未使用であっても長期間保存した場合は、バッテリーは劣化し容量は減少します。複数のバッテリーをお持ちの場合は交互にお使いください。

**Q** バッテリーの充電に時間がかかるのですが？

**A** バッテリーが新しいうちや気温が高い場所での充電、走行直後の充電などでは、充電中バッテリーの温度が上がりがやすく、高温でバッテリーが傷むのを防ぐために、充電時間がさらに延びたり、満充電になる前に充電が終わったりする場合があります。バッテリーの温度が下がったことを確認してから、再度充電してください。

**Q** 充電が完了しても容量表示ランプが4つ点灯になりません。

**A** バッテリーの温度上昇による充電停止が考えられます。気温の高い環境下での充電や新品のバッテリーを充電したときに起こる現象です。バッテリーを一旦充電器から外してから再度充電してください。

**Q** バッテリーの買い換えの目安はどのくらいですか？

**A** バッテリーの寿命は使用状況や保存状態、走行状態、気温、充電のしかたなどにより異なります。バッテリーは消耗品ですので、1回の充電で走れる距離が著しく短くなってきたら寿命と考え、新しいバッテリーに交換してください。Li-ionバッテリーの使用期限は、最初の充電開始から8年経過、積算充電容量7200Ah、またはバッテリー劣化度合いが25%以下です。  
最初の充電開始から7年9ヶ月、積算充電容量が6900Ah、またはバッテリー劣化度合いが50%に達すると案内が表示されますので、早めに交換してください。

---

## 飛行機搭乗時、海外での使用について

**Q** 航空会社から証明書の提出を求められたのですが？

**A** ウェブ上で証明書のPDFデータをダウンロードすることができます。  
ヤマハ発動機電動車いすのウェブサイトから、『よくあるお問合わせ』>『旅行・飛行機搭乗時』へ  
とおすすみください。

---

**Q** 海外でバッテリーを充電できますか？変圧器は必要ですか？

**A** 充電器はAC100～240V、50／60Hzに対応しています。  
電源プラグ変換アダプタをご準備いただければ、変圧器は必要ありません。

---

## 水濡れについて

**Q** 雨が降っているときに外出してもいいですか？

**A** 小雨程度であればバッテリーや駆動部に水がかかっても壊れることはありません。  
使用後は、水分をふき取って乾燥させてください。ただし、雨天時の外出はタイヤが滑りやすくなっ  
たり、視界が悪くなったりして危険性が増します。出来るだけ外出を避けていただくか、やむを得な  
い場合は慎重に運転してください。

---

**Q** バッテリーや駆動部に浸水してしまったら？

**A** バッテリー、充電器、電動ユニットの駆動部などに浸水してしまった場合は、使用をやめ、すぐに取  
扱店にご相談ください。  
浸水したあとに作動していても、後日故障を起こす可能性があります。

# 車いす、バッテリーの処分

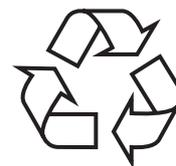
## ● 車いす本体の処分

車いす本体の処分方法は、自治体によって扱いが異なります。自治体の規則にしたがって処分してください。

不明な点がございましたら、取扱店にご相談ください。

## ● バッテリーの処分

リチウムイオンバッテリーは、貴重な再生資源を含むリサイクル可能なバッテリーです。使用しなくなったバッテリーは、取扱店にお持ちいただき、リサイクルにご協力ください。



# お問い合わせと保証

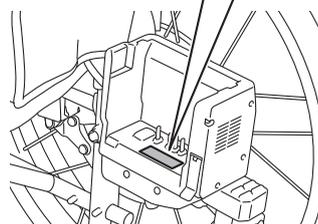
## ● お問い合わせ

お使いの車いすに関するお問い合わせや、調整、点検、修理などのアフターサービスは、下記の取扱店が承ります。

お問い合わせの際、車いすの製造番号をお尋ねする場合がございます。製造番号はバッテリーシートの内側にラベルが貼り付けられていますので、あらかじめ番号を控えていただくことをおすすめします。

取扱店

XOG□-□□□□□□



## ● 保証について

保証期間中、お買い上げいただいたJWG-1に、材質または製造上による不都合が生じた場合は、不具合部品の交換または補修により無料で修理を行ないます。保証の対象は、電動ユニット、自走用操作部、介助用操作部および充電器です。なお、バッテリー、タイヤ、チューブなどの消耗品は保証の対象にはなりません。詳しくは保証書をご覧ください。



# 10 定期点検のすすめ

ヤマハ電動ユニットの設計上の標準使用期間は6年（タイヤ、バッテリー等の消耗品除く）です。標準使用期間とは、定期的に点検整備を行った場合に、製品の性能が維持できると考えられる期間です。ただし、使用状況や走行距離により6年を待たずに製品が使用できなくなる場合があります。標準使用期間を経過したヤマハ電動ユニットは、買い替えをおすすめします。安全で快適な車いすをお使いいただくために、6ヶ月ごとに取扱店で点検をお願いします。（点検は有料です）

## 警告

- **車いすに異常がある状態で使用しない。**  
走行中に車いすが壊れて、車いすが転倒や転落するおそれがあります。
- **タイヤは消耗品です。**  
溝の減りやヒビ割れがある場合、速やかに交換してください。

### 要点

上記は電動ユニットに関する情報です。  
本製品が装着された車いすの点検については購入された取扱店にご相談ください。

# 仕様早見表

お使いになる電動ユニットのタイプ・仕様に応じて印をつけることによって、お使いの製品のタイプ・仕様がわかりやすくなります。製品をお受け取りの際、必要に応じて取扱店の説明をお受けください。

<b>モデル</b>	JWG-1	<b>バッテリー</b>	リチウムイオンバッテリー
<b>速度仕様</b>	<input type="checkbox"/> 4.5km/h仕様 <input type="checkbox"/> 6km/h仕様	<b>介助用ブレーキ</b>	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有
<b>介助用操作部</b>	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	<b>バッテリーシート</b>	<input type="checkbox"/> オフセット（一体型） <input type="checkbox"/> バッグ（分離型）
<b>自走用操作部 ブラケット</b>	<input type="checkbox"/> 標準（バーハンドル） <input type="checkbox"/> スライドブラケット	<b>タイヤ</b>	<input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> ノーパンク
<b>タイヤサイズ</b>	<input type="checkbox"/> 16インチ <input type="checkbox"/> 20インチ <input type="checkbox"/> 22インチ <input type="checkbox"/> 24インチ		

販売店様・

レンタル店様

必要に応じて仕様早見表を記入して、お客様に製品をお渡しください。

お客様がお使いのタイプ・仕様がわからなくなったとき、仕様早見表を見ていただくことによって、タイプ・仕様を理解しやすくなります。



JWG-1 取扱説明書

2025年1月発行

不許複製

編集発行 ヤマハ発動機株式会社

ヤマハ発動機株式会社 SPV事業部  
〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500  
TEL 0120-808208

X0G-28199-00



202501-0.5×1 CR